

広陵元気号及びシャトルバス運行再編計画
(国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上事業)

令和3年3月

広陵町地域公共交通活性化協議会

目 次

| | |
|--|----|
| 1. 計画策定の趣旨..... | 1 |
| 2. 現況の整理分析..... | 3 |
| 2.1. 公共交通を取り巻く現状..... | 3 |
| 2.1.1. 社会情勢などの状況..... | 3 |
| 2.1.2. 4 町の現状..... | 7 |
| 2.1.3. 4 町の事業費推移..... | 20 |
| 2.2. 病院をとりまく環境について..... | 21 |
| 2.2.1. 市場、顧客..... | 21 |
| 2.2.2. 周辺病院について..... | 27 |
| 2.2.3. 国保中央病院について..... | 32 |
| 2.3. 現況の整理分析のまとめ..... | 41 |
| 3. アンケート調査..... | 43 |
| 3.1. 国保中央病院への交通に係るアンケート..... | 43 |
| 3.1.1. 調査概要..... | 43 |
| 3.1.2. 調査結果の概要..... | 43 |
| 3.2. 通院を中心とした公共交通の利用に係る 4 町アンケート..... | 54 |
| 3.2.1. 調査概要..... | 54 |
| 3.2.2. 調査結果の概要..... | 54 |
| 3.3. 無料送迎シャトルバス利用者アンケート..... | 65 |
| 3.3.1. 調査概要..... | 65 |
| 3.3.2. 調査結果の概要..... | 65 |
| 3.4. アンケート調査結果のまとめ..... | 74 |
| 4. 国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上検討事業広域検討委員会..... | 76 |
| 4.1. 委員会設置の背景..... | 76 |
| 4.2. 開催概要..... | 76 |
| 4.3. 検討経緯..... | 76 |
| 5. 再編計画策定に向けた課題の整理..... | 78 |
| 6. シャトルバス運行再編計画案..... | 79 |
| 6.1.1. 課題解決に向けて押さえておくべきことと前提条件..... | 79 |
| 6.1.2. 運行再編計画案..... | 80 |
| 6.1.3. 広陵元気号の一部運行再編に向けて..... | 84 |
| 7. 計画の具現化に向けて..... | 86 |
| 7.1.1. 今後の展開について..... | 86 |

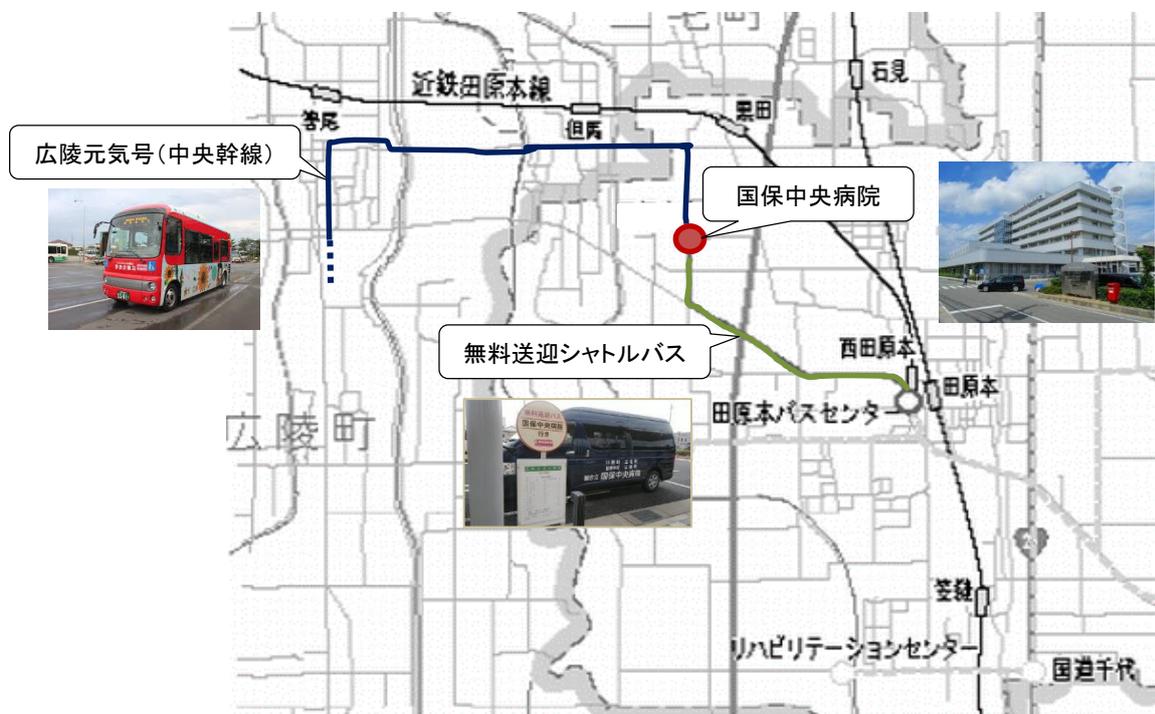
1. 計画策定の趣旨

(1) 背景

今後ますます全国的に進展していくことが想定されている超高齢化社会に向けて、生活者の日々の移動手段のあり方について様々な議論がなされている。中でも、高齢者等の移動手段について、自家用車が主な交通手段になっている地域では、かつてあった路線バスが既に廃線や休止になっていることも少なくなく、重点的な課題となっている。高齢者の移動目的として、買物とともに多いのが通院である。高齢者の免許返納等の動きが進む中、国も地域の交通環境の維持・改善等に向けて、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成 19 年法律第 59 号。以下「地域公共交通活性化再生法」という。）」の改正などを進めてきている。

本業務で対象にするのは、奈良県磯城郡川西町、三宅町、田原本町及び北葛城郡広陵町の 4 町で構成される一部事務組合が運営する国保中央病院に接続するバス路線である。当病院へのバス路線は、令和 3 年 2 月末現在、広陵町が運営する広陵元気号（中央幹線の町外への延伸）と、当病院が運営する田原本駅と病院間を結ぶ無料送迎シャトルバス（以下「無料送迎シャトルバス」という。）の 2 路線のみとなっている。コミュニティバス等による病院への路線が無い三宅町では、高齢者等の町民に対して地域公共交通タクシー補助事業を行い、同じく川西町では、町内駅までの移動支援等を実施している。各町の町民の利便性、そして財政負担等の観点から、公平かつ最適な国保中央病院へのバスを利用したアクセス環境づくりが求められる。

図 1-1 国保中央病院とアクセス経路



(2) 目的

本業務は、広陵元気号及び無料送迎シャトルバスの運行形態を見直し、構成自治体間のアクセス格差の解消及び新たなネットワークの構築について検討するものである。4町（川西町、三宅町、田原本町及び広陵町）の公共交通環境や、各町の生活者の利用交通手段、現在及び今後の課題等について、統計データの活用やアンケート調査等により把握するとともに、国保中央病院及び4町の関係者により構成される検討委員会を設置・開催し、実現可能かつ分析に基づいた運行再編計画を策定することを目的とする。

2. 現況の整理分析

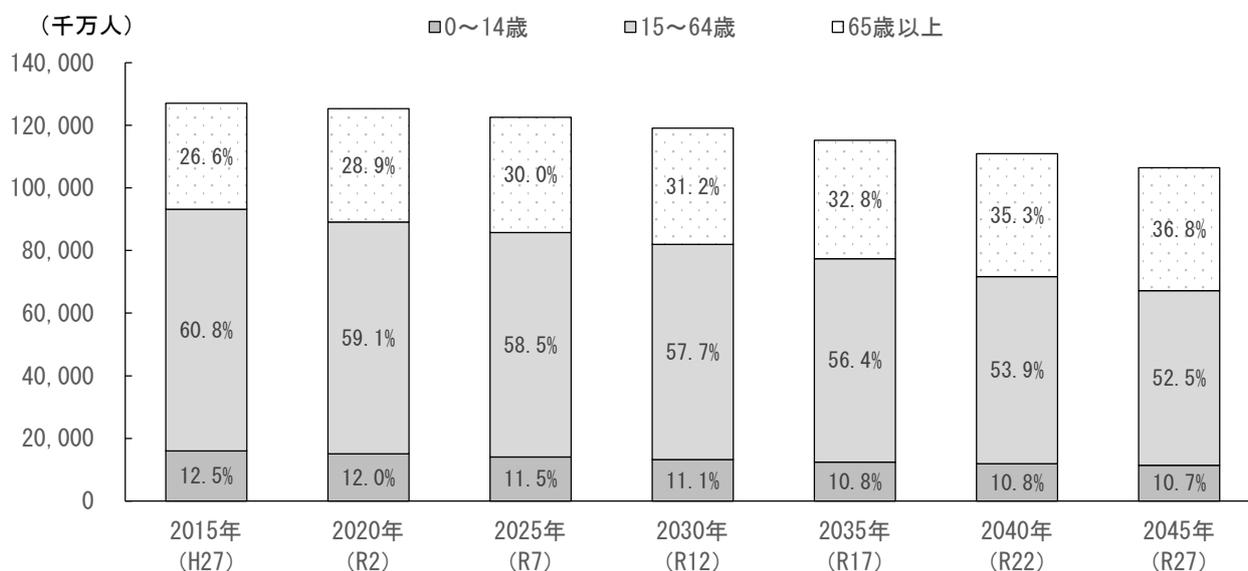
2.1. 公共交通を取り巻く現状

2.1.1. 社会情勢などの状況

(1) 少子高齢化・人口減少の加速

日本の総人口は、平成 27 年 10 月時点での国勢調査において、1 億 2,709 万 4,745 人であり、同調査開始以来、初めての人口減少となっている。また、15 歳未満人口の割合は、12.5%と調査開始以来最低であり、逆に 65 歳以上の人口の割合は、26.6%と調査開始以来最高となっている。令和 27 年（2045 年）には高齢化率が 36.8%、即ち国民の約 3 人に 1 人が高齢者になることが予想されており、今後少子高齢化は歯止めがかからない状況である。

図 2-1 国内年齢 3 区分別将来人口推計（死亡中位・出生中位）



出典：国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」

(2) 高齢者の免許返納

近年、高齢者の自動車暴走事故などの背景もあり高齢ドライバーの免許返納の機運が高まりつつある。

実際令和元年には、運転免許の返納件数が 601,022 件(表 2-1)となり、平成 30 年の 421,190 件より約 18 万件増加している。特に 75 歳以上の返納件数が近年急増しており、今後も高齢者を中心に、免許返納件数がますます増加することが予想される。

特に公共交通機関が都心部ほど充実していない地方都市では、移動手段を自動車に頼っていることが多く、高齢者が免許返納すると、その後の代替の交通手段の確保が課題となっている。

図 2-2 免許返納件数推移

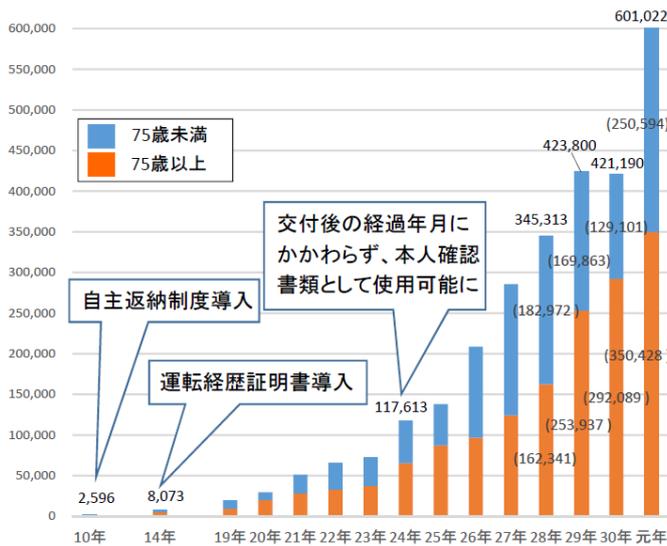


表 2-1 免許返納件数内訳

| | 75歳未満 | 75歳以上 | 合計 |
|-----|---------|---------|---------|
| H14 | 3,137 | 4,936 | 8,073 |
| H19 | 10,078 | 9,379 | 19,457 |
| H20 | 9,299 | 19,851 | 29,150 |
| H21 | 22,999 | 28,087 | 51,086 |
| H22 | 33,117 | 32,488 | 65,605 |
| H23 | 35,536 | 37,199 | 72,735 |
| H24 | 52,466 | 65,147 | 117,613 |
| H25 | 50,923 | 87,014 | 137,937 |
| H26 | 111,833 | 96,581 | 208,414 |
| H27 | 151,601 | 123,913 | 275,514 |
| H28 | 182,972 | 162,341 | 345,313 |
| H29 | 169,863 | 253,937 | 423,800 |
| H30 | 129,101 | 292,089 | 421,190 |
| R1 | 250,594 | 350,428 | 601,022 |

出典：警察庁

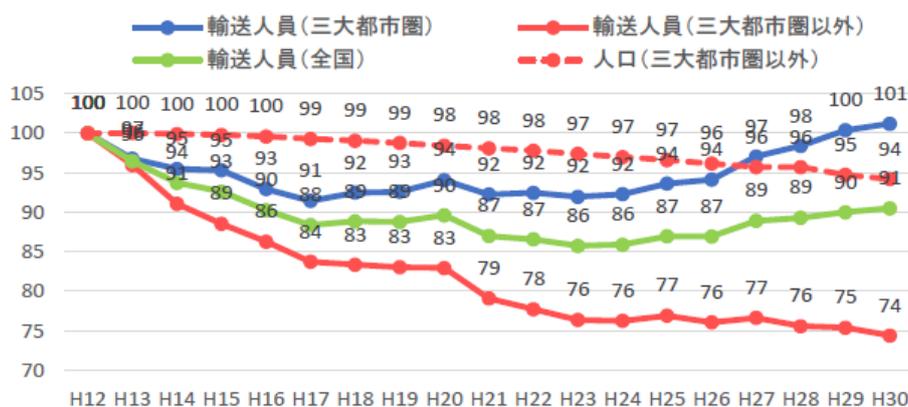
(3) 地域公共交通の現状

現在、モータリゼーションの普及により、消費者行動の分散化が進み、サービス市場では同一商品の大量生産型から個々のニーズに合わせたカスタマイズ型へのサービスシフトが進んでいる。また、スマートフォンの普及により、消費者は容易に情報を取得し、比較する環境が整い、場所を問わずしてサービスや商品が手に入る時代へシフトし、市場動向としても、売り手市場から買い手市場へのシフトが加速している。これらの社会環境変化により、人々の購買行動は大きく変容し、移動に関する概念も変わってきている。また、鉄道駅や路線バスのバス停留所付近の住宅密集地に住む住民の高齢化も進み、働くために移動する人口の絶対数の減少や、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためテレワークの機運も高まっている。加えて、バスをはじめとする公共交通サービス需要の縮小が進み、公共交通事業者の経営状況の悪化や運転者不足の深刻化などにより、地域の公共交通の維持・確保が厳しくなっている。

特に路線バス事業の輸送人員は大幅な下落傾向であり、中でも三大都市圏以外の地方部で減少が激しい状況である(図 2-3)。また、全国の約 7 割のバス事業者において、一般路線バス事業の収支が赤字となっており、平成 20 年から平成 29 年度において 13,249km の路線が廃止されている(表 2-2)。

上記(2)高齢者の免許返納増加といった動きもあり、今後受け皿としての移動手段を確保することがますます重要な課題になっている。

図 2-3 バスの輸送人員の減少 乗合バス(平成 12 年度を 100 とした輸送人員) 表 2-2 路線バスの廃止キロ数推移



| 年度 | 廃止路線(km) |
|-----|----------|
| H20 | 1,911 |
| H21 | 1,856 |
| H22 | 1,720 |
| H23 | 842 |
| H24 | 902 |
| H25 | 1,143 |
| H26 | 1,590 |
| H27 | 1,312 |
| H28 | 883 |
| H29 | 1,090 |
| 計 | 13,249 |

出典：国土交通省「地域公共交通の活性化及び再生に関する法令等の一部を改正する法律について」

そのような中、地域の交通手段を確保しようと、コミュニティバス、乗合タクシーの導入市町村数は近年大きく増加し、平成 30 年(2018 年)時点でコミュニティバス導入の市町村数は 1,348(図 2-4)、乗合タクシー(デマンド型)導入市町村数は 555(図 2-5)となっている。

地方バス路線の運行維持については、地方公共団体が負担する額の 80%が、特別交付税の対象となりうる。自治体が地域交通の確保(地方バス、離島航路支援等)に関する「特別交付税交付額」は毎年増加傾向にあり、10 年間で約 55%増加している(図 2-6)。

図 2-4 コミュニティバス導入市町村数の推移

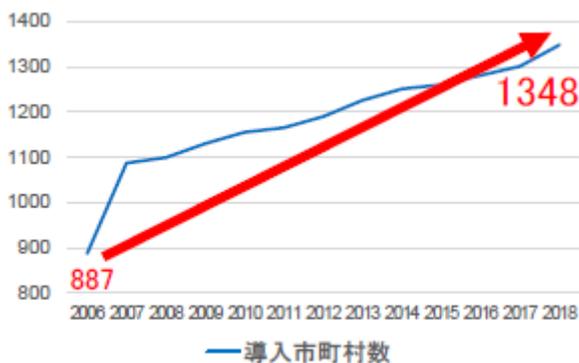
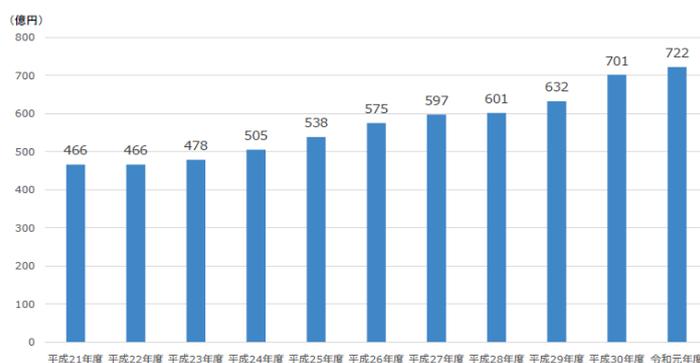


図 2-5 乗合タクシー(デマンド型)導入市町村数の推移



図 2-6 地域交通の確保(地方バス、離島航路、地域鉄道支援等)に関する特別交付税交付額の推移



出典：国土交通省「地域公共交通の活性化及び再生に関する法令等の一部を改正する法律について」

(4) 地域公共交通に関する国の政策

平成 19 年に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成 19 年法律第 59 号。以下「地域公共交通活性化再生法」という。）」を制定し、市町村が地域公共交通総合連携計画を策定し、地域公共交通の維持・確保や利便性向上に取り組むことを促進する制度を整備した。

その後、平成 26 年に地域公共交通活性化再生法を改正し、①まちづくりと連携し、②面的な公共交通ネットワークを再構築するため、「地域公共交通網形成計画」を法定計画として規定した。また、バス路線の再編等を実施する「地域公共交通再編事業」を創設し、その実施計画について国が認定し、法律・予算の特例措置を適用することにより、計画の実現を後押しする制度を整備した。

令和 2 年 6 月には、公共交通の修繕や移動手段の確保に取り組める仕組を拡充することなどを目的に、「持続可能な運送サービスの提供の確保に資する取組を推進するための地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律」を公布している。

その他、地方公共団体が中心となって作成する地域公共交通計画などを通じて、地域の移動手段の確保・充実を図る取組について支援している。

2.1.2. 4 町の現状

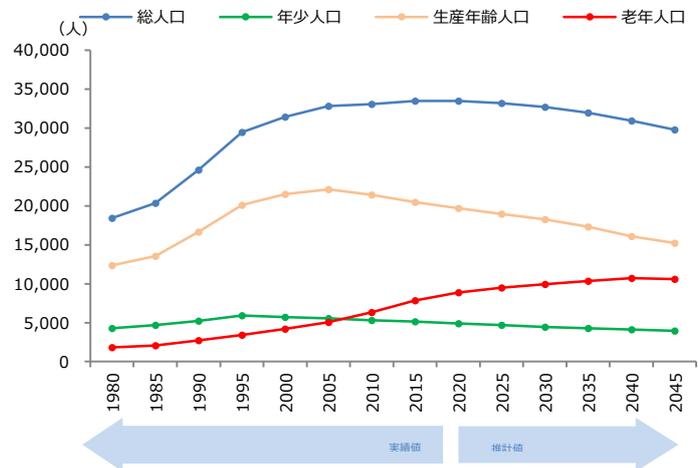
(1) 広陵町

ア. 人口

広陵町の総人口は昭和 55 年(1980 年)以降、急激な増加を遂げ、近年は 3 万人台でゆるやかな増加傾向をたどり、平成 27 年(2015 年)に 33,487 人となっている。

高齢化率は、年々上昇し続け、平成 27 年(2015 年)に 23.4%となっており、令和 27 年(2045 年)には、35.5%に達することが予測されており、3 人に 1 人は 65 歳以上の高齢者となることが見込まれている。

図 2-7 年齢階級別人口推移



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

イ. 交通

町内の公共交通網は鉄道 1 駅(近鉄 田原本線箸尾駅)、奈良交通路線バス 5 路線、コミュニティバス広陵元気号 3 路線、民間タクシーにより形成されている。

鉄道は、箸尾駅周辺を除き、市街地・集落の大半が駅から 1 km 以上離れており、鉄道不便地域であると言える。

広陵町を通るバス路線は主に真美ヶ丘ニュータウンを中心に 5 路線が運行されている。これらの路線のうち、高田新家線(近鉄高田駅～竹取公園東)及び高田イオンモール線(イオンモール檀原～竹取公園東)については、利用者減に伴い平成 26 年 10 月から沿線市町により運行費補助を行っている。奈良交通の路線バス全体の利用者数は増加傾向だが、高田新家線の利用者数は減少傾向となっており、運行費補助額は増加となっている。

コミュニティバス広陵元気号は、利用者減による路線バスの一部の休止・廃止で生じた交通空白地の解消と交通弱者への対策として、平成 21 年 4 月から運行が始まった。当初は広陵町直営による無料の予約型乗合自動車であったが、平成 24 年 2 月に運行方式を定時定路線運行に変更し、更に平成 25 年、平成 27 年と運行内容(路線・ダイヤ・車輦等)の見直しを行った。平成 28 年 10 月から路線を見直し、車輦を更新、有償化して本格運行を行い、令和元年 10 月からは新たな運行ルートに変更し、現在中央幹線、南部支線(左回り、右回り)、北部支線(左回り、右回り)が運行している。

図 2-8 広陵町公共交通総合マップ



出典：広陵町 HP

ウ. 広陵元気号について

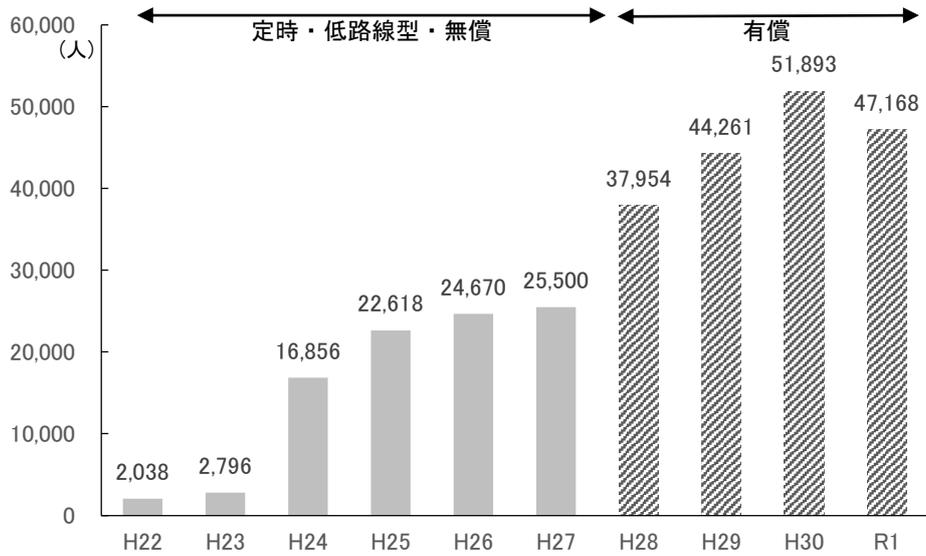
(ア) 利用者

利用者数は、試行運行前の平成 27 年度には年間 25,500 人だったが、有償化後の平成 30 年度は 51,893 人と 2 倍以上増加している(図 2-9)。

令和元年度は、10 月に新たな運行ルートに変更されたことや新型コロナウイルス感染症の影響もあり、47,168 人ととどまった。令和 2 年度は緊急事態宣言が発令された 4 月、5 月は大幅に利用者が落ち込んだものの、緊急事態宣言解除後の 6 月以降は徐々に利用者が戻りつつある。

このような状況も踏まえると、広陵元気号は町民の移動手段の 1 つとなっており、重要性が増しつつあると考えられる。

図 2-9 広陵元気号利用者等推移



出典：データを元に作成

(イ) 利用状況

平成 30 年 10 月に実施した広陵元気号利用者アンケート調査によると、利用者の半数は 60 歳以上となっている(図 2-10)。利用頻度は毎日利用が 19.9%、週に 1～2 回は 27.7%、月に 2～3 回は 28.1%となっている(図 2-11)。利用目的は、買い物・飲食が 27.7%と最も多く、次いで通勤・通学が 20.5%、通院が 14.0%となっている。利用目的は路線によって特性が異なっており、国保中央病院が含まれている中央幹線は、通院利用者が 22.7%と高く、高齢者の病院への移動手段となっている(図 2-13)。

図 2-10 広陵元気号利用者内訳

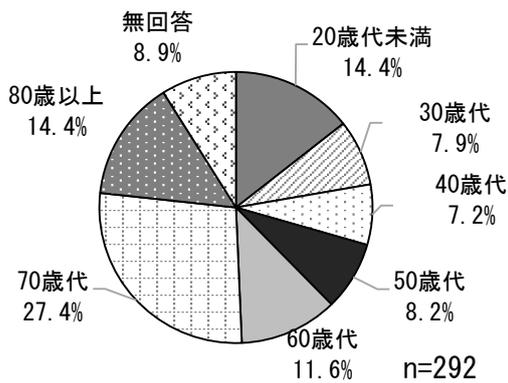


図 2-11 広陵元気号利用頻度

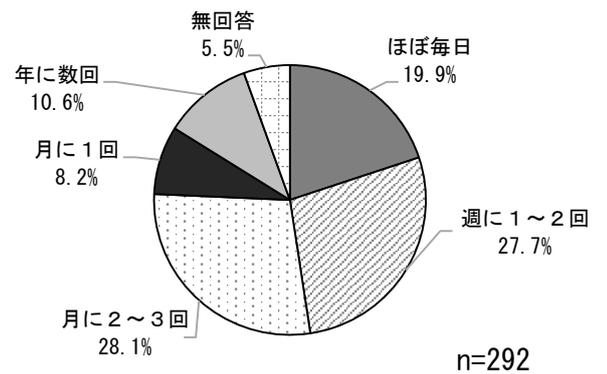
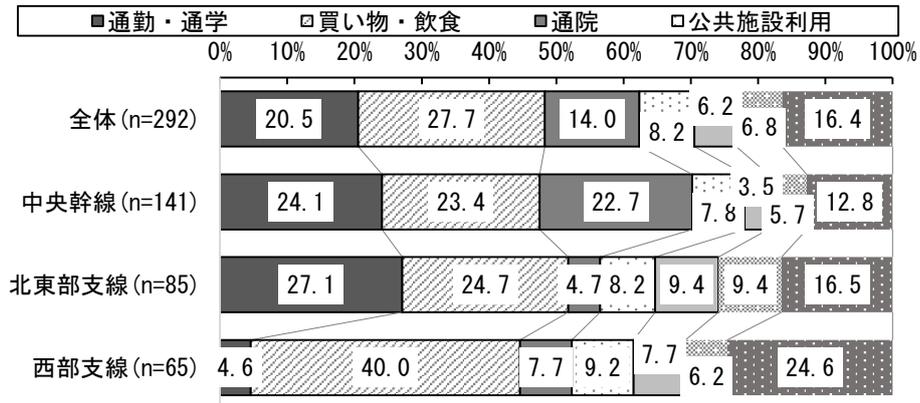
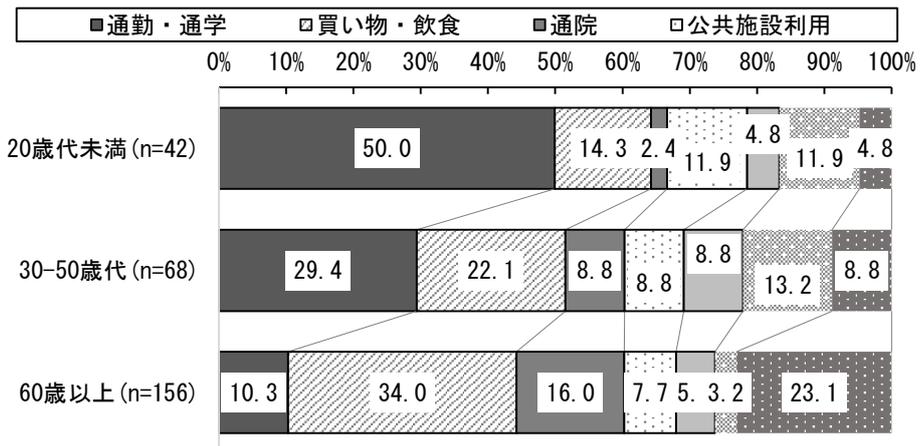


図 2-12 広陵元気号 路線別利用目的



(注)表側の不明サンプルは除く。

図 2-13 広陵元気号 年代別利用目的



(注)表側の不明サンプルは除く。

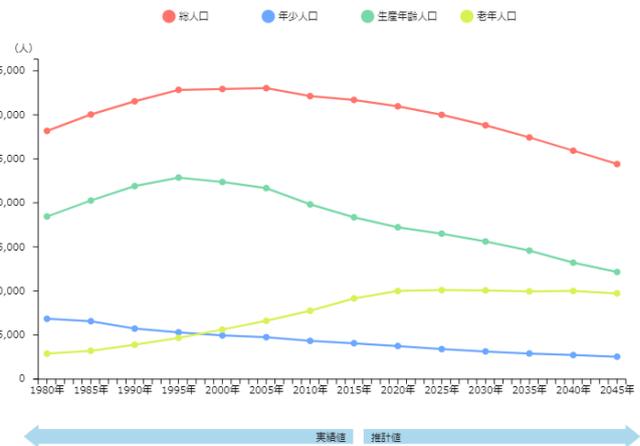
(2) 田原本町

ア. 人口

田原本町の総人口は平成 17 年(2005 年)まで緩やかな増加傾向を示していたが、この年の調査の 33,029 人をピークに減少傾向に転じ、平成 27 年(2015 年)には 31,691 人となっている。

高齢化率は年々上昇し続け、平成 27 年(2015 年)に 28.9%となっており、令和 27 年(2045 年)には、39.9%に達することが予測されており、約 10 人に 4 人は 65 歳以上の高齢者となるが見込まれている。

図 2-14 年齢階級別人口推移



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

イ. 交通

町内の公共交通網は鉄道 4 駅(近鉄橿原線 田原本駅、笠縫駅、近鉄田原本線 黒田駅、西田原本駅)、民間タクシーにより形成されている。公共交通は、バス路線の休止等により駅周辺以外の多くの地域が公共交通不便地域に当たり、鉄道駅までのアクセスや買い物・通院等の日常生活の移動は、自家用車が中心となっている。そのため自転車に乗れない人や、自動車の運転が出来ない人は家族等による送迎に頼らざるを得ない状況となっている。このように移動に制約のある人の暮らしに必要な移動に対応できる交通の確保に向けて、平成 22 年に「田原本町地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成 25 年から平成 30 年 6 月までは、デマンド型乗合タクシー「ももたろう号」を運行してきた。しかし、ももたろう号の利用に際し、予約が必要であったこと、運行日時の不満などにより、当時のももたろう号で町内の住民の移動を充足させることは難しいことから、平成 30 年 6 月をもって「ももたろう号」の運行を廃止した。

平成 30 年 7 月からはタクシーの初乗り料金を助成するタワラモトンタクシー利用料金助成制度を実施している。助成制度は、日常生活の移動に制約のある人を対象に、通常タクシー初乗り料金を助成するタクシー利用券を、申請により交付している。詳細は下記のとおりである。

■対象者

1. 田原本町に住所を有する人で、下記の要件に該当する者が対象
 - ・ 70 歳以上の者
 - ・ 身体障害者手帳 1 級又は 2 級を有する者
 - ・ 療育手帳 A1 又は A2 を有する者
 - ・ 自主的な移動が困難であることを証する書面を有する者
 - ・ 出産予定があり母子健康手帳の交付を受けた者
 - ・ 就学前の児童

■利用できる区間

町内指定事業者のタクシーで、町内での利用又は出発・到着のどちらかが町内となる便の初乗り料金を補助

■利用券発行枚数

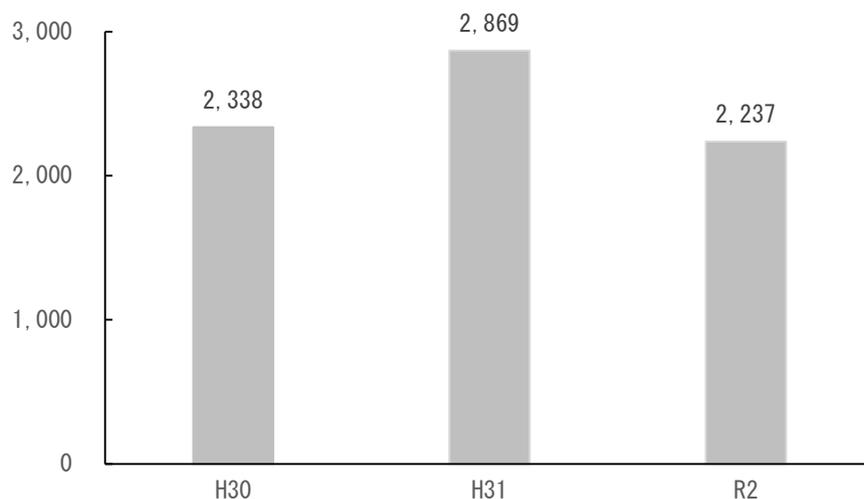
- ・70歳以上の者、出産予定があり母子健康手帳の交付を受けた者、就学前の児童：24枚
- ・身体障害者手帳1級又は2級を有する者、療育手帳A1又はA2を有する者、自主的な移動が困難であることを証する書面を有する者：12枚

ア. タワラモトンタクシーについて

(ア) 利用者

タワラモトンタクシーは、平成30年7月から運行している。利用者数は、平成30年度が2,338人、平成31年度(令和元年度)が2,869人、令和2年度が2,237人となっている。

図 2-15 タワラモトンタクシー利用者等推移



令和元年のタワラモトンタクシーの申請者は、70歳以上の人が約9割を占めている(図 2-16)。申請者に、運転免許証の有無について尋ねたところ、持っている人が38.2%、持っていたが返納した人が16.4%、元々持っていない人が33.5%となっており、約半数が車の移動手段がない状況になっており(図 2-17)、これらの人々の代替移動手段の確保が課題となっている。

図 2-16 タワラモトタクシー利用者内訳

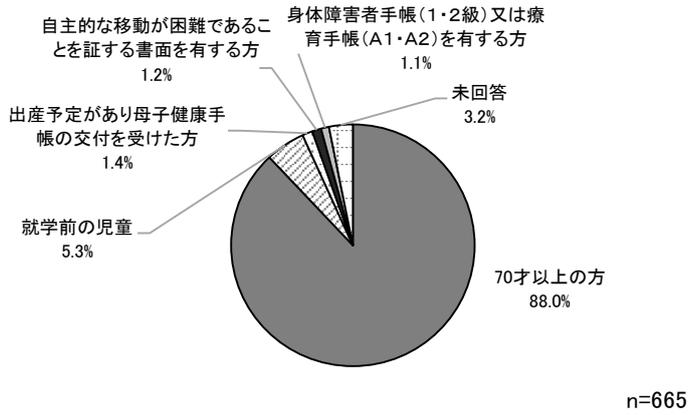
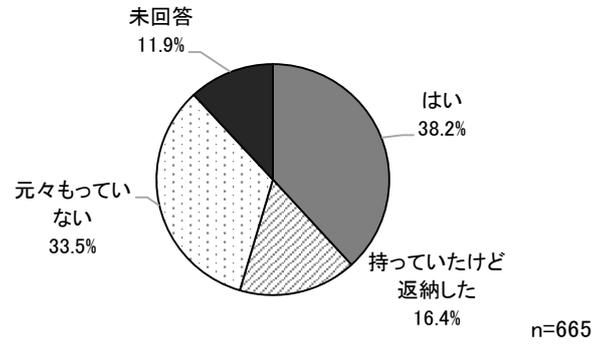


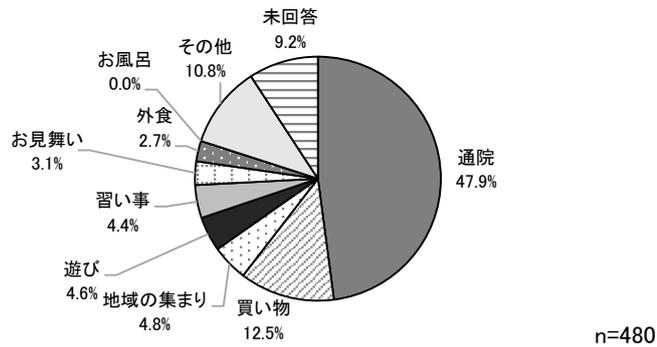
図 2-17 運転免許証の有無



(イ) 利用状況

申請者に、利用目的について尋ねたところ、約半数が通院、買い物が 12.5%であることから、病院へいくためにタクシーを利用している高齢者が多いことがわかる(図 2-18)。

図 2-18 主な利用目的

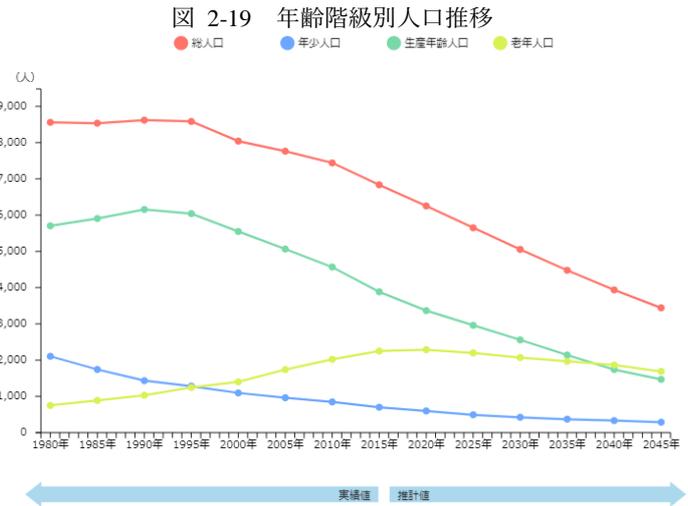


(3) 三宅町

ア. 人口

三宅町の総人口は平成2年(1990年)の8,620人をピークに減少傾向にあり、平成27年(2015年)には6,834人となっている。

高齢化率は年々上昇し続け、平成27年(2015年)に32.9%となっており、令和27年(2045年)には、49.0%に達することが予測されており、約2人に1人は65歳以上の高齢者となることが見込まれている。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

イ. 交通

町内の公共交通網は鉄道2駅(近鉄橿原線 石見駅、近鉄田原本線 但馬駅)、民間タクシーにより形成されている。

また、町内外への移動を支援するため、地域公共交通タクシー補助事業を行っている。補助事業は、妊婦と65歳以上の条件を満たした対象者を対象に、タクシー補助券を、申請により交付している。詳細は下記の通りである。

■対象者

1. 町内在住の満65歳以上で、次のいずれかに該当する者
 - ・自動車運転免許証を所持していない者
 - ・自動車を所有していない者
 - ・病気、その他の事由により自動車を運転できないと認められる者
 2. 出産予定があり、母子健康手帳の交付を受けている町内在住の者
- ※1、2ともに町税の滞納がある者は対象外

■利用できる条件

乗降場所のいずれかが三宅町内である場合

■補助金額

1回の乗車につき、初乗運賃料金を補助(距離制基本料金)(時間制運賃は対象外)

※注意点 1回の乗車につき使用できるのは1枚で年間48回を超える利用はできない。

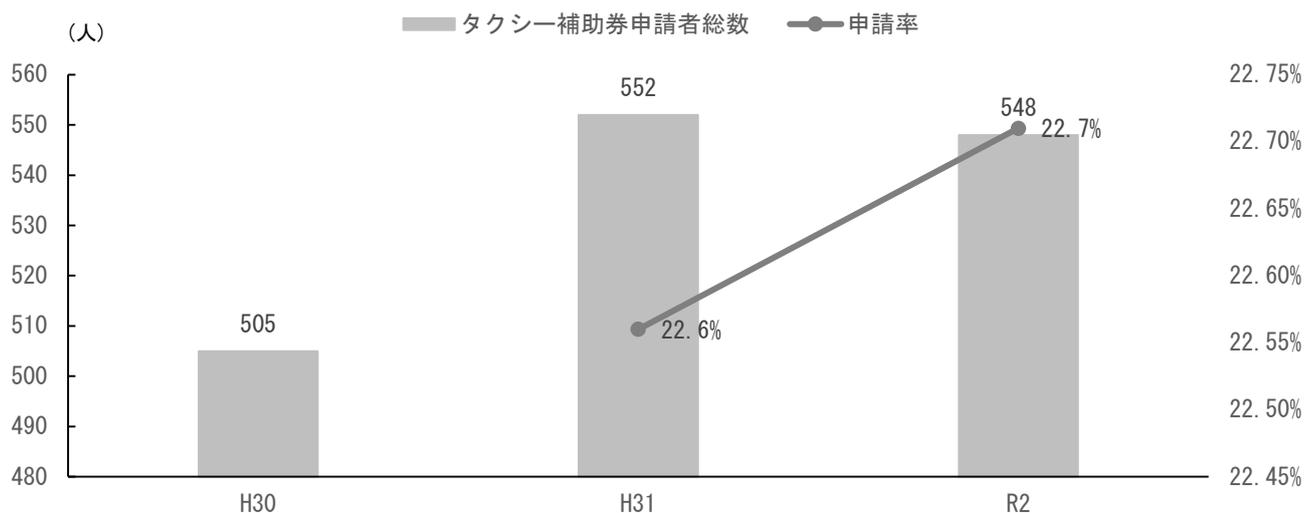
また、補助券の範囲を超える金額については自己負担となる。

ア. 地域公共交通タクシーについて

(ア) 利用者

三宅町でのタクシー補助券申請者数は、平成 30 年度に 505 人、平成 31 年度(令和元年度)に 552 人、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり横ばいになっている(図 2-20)。65 歳以上人口に占める申請率は、平成 31 年度(令和元年度)に 22.6%、令和 2 年度に 22.7%と微増傾向となっている。

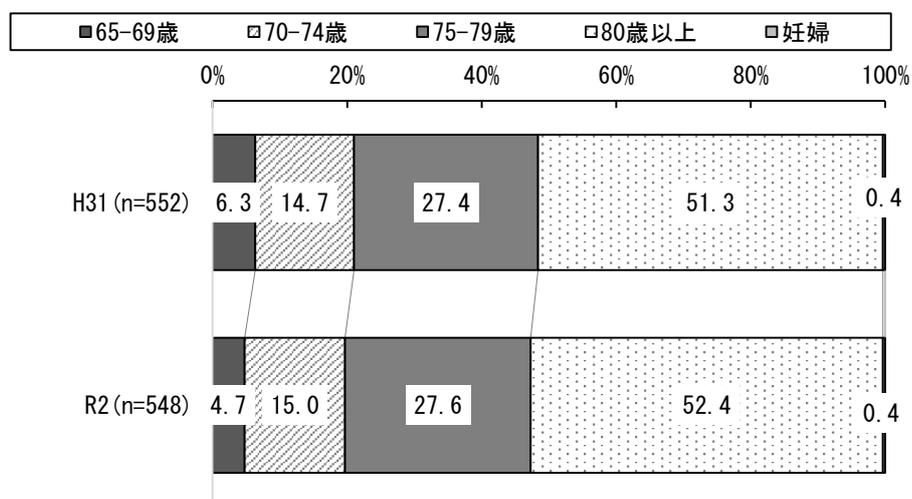
図 2-20 タクシー補助券申請者、申請率



出典：平成 30 年、平成 31 年、令和 2 年三宅町地域公共交通タクシー利用者アンケート調査報告書

年齢別申請者数を見てみると、平成 31 年(令和元年)から令和 2 年にかけて、65-69 歳の申請者割合が減少し、70-74 歳、75-79 歳、80 歳以上の申請者割合が増加しており、全体的に年齢別申請者数は高齢化していることが見て取れる(図 2-21)。

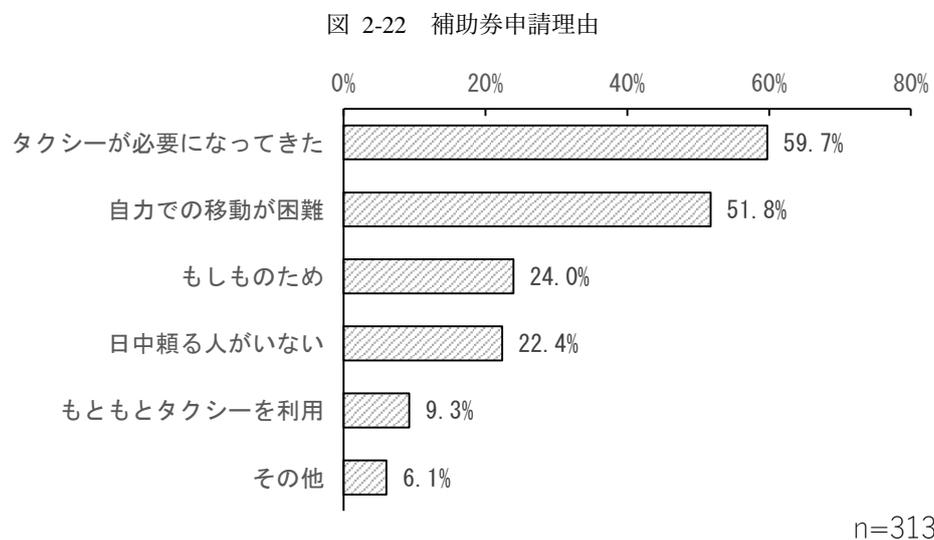
図 2-21 年齢別申請者数



出典：平成 31 年、令和 2 年三宅町地域公共交通タクシー利用者アンケート調査報告書

(イ) 利用状況

補助券を申請する主な理由は、「タクシーが必要になってきた」が59.7%、「自力での移動が困難」が51.8%と年齢が高齢化することによる理由が多くなっている(図2-22)。



出典：令和2年三宅町地域公共交通タクシー利用者アンケート調査報告書

主な行先は、田原本町が最も多く、また、用件別については医療機関が一番多くなっている。医療機関の内訳を見てみると、田原本町にある国保中央病院が最も多くなっており、国保中央病院へのアクセスとして、タクシーが多く利用されていることがうかがえる。

その他、自由記述欄をみると、現行制度に対する評価が高く、「補助枚数を増やしてほしい」という意見が多くを占めるほか、「この補助事業を継続してほしい・ありがたい」という声も挙げられている。

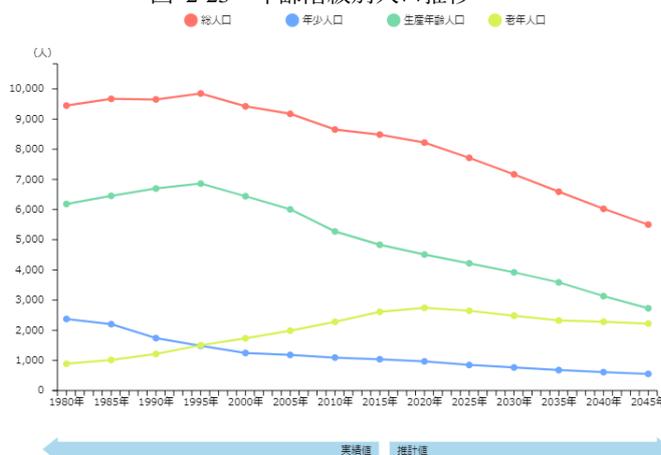
(4) 川西町

ア. 人口

川西町の人口は平成7年(1995年)の9,847人をピークに減少傾向にあり、平成27年(2015年)には8,485人となっている。

高齢化率は年々上昇し続け、平成27年(2015年)に30.8%となっており、令和27年(2045年)には、40.4%に達することが予測されており、約5人に2人は65歳以上の高齢者となることが見込まれている。

図 2-23 年齢階級別人口推移



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

イ. 交通

川西町における現在の公共交通としては、町内を通過する近鉄橿原線の結崎駅がある。しかしながら、町内の路線バスが利用者の減少とともに撤退し、現在では路線バスが存在していない。そのため、町民からは高齢者および通勤・通学の「生活の足」の確保が求められている。また、公共交通の空白地域の存在が町の活性化を図る上で課題となっている。

この住民ニーズ・課題に対応するため、平成 24 年 11 月から無料の町内巡回バスを試行、平成 25 年 4 月実証として運行していた。現在は試行運行内容を踏まえて、鉄道と交通空白地（鉄道の駅などから遠い地域）の住民をつなぐために、国の補助金を活用しながら、川西こすもす号の運行を 1 日 15 便継続している。

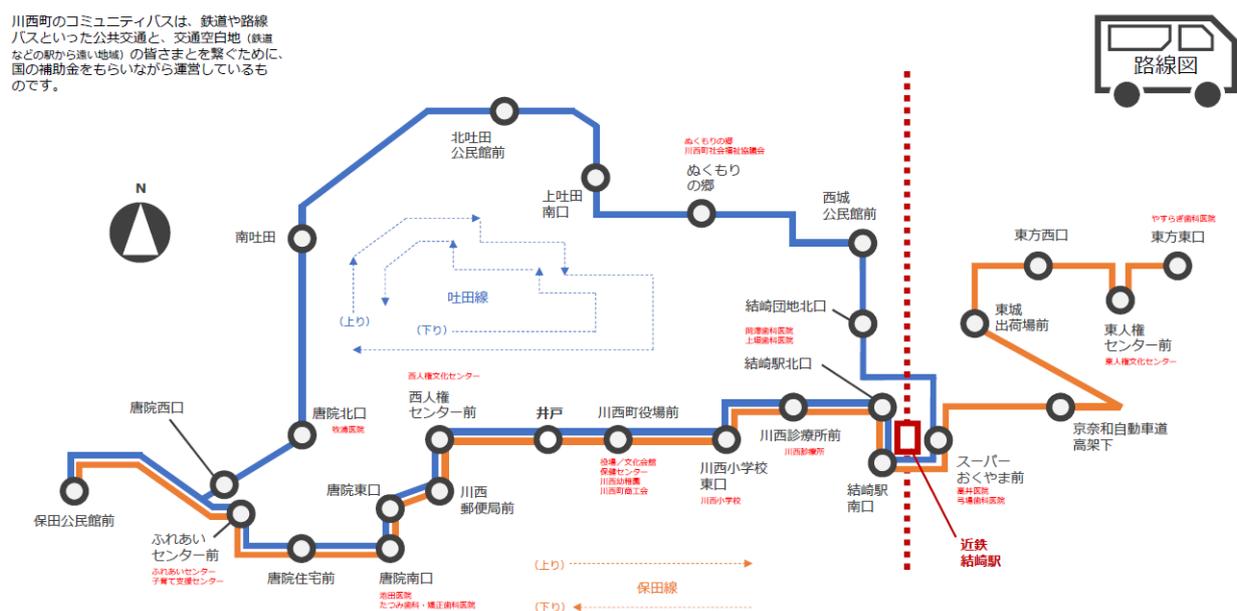
平成 26 年 7 月より有償運行を開始し、1 乗車定額 100 円（小学生以下は無料）の運賃を徴取しているが、町内在住で下記の要件に該当するかつ、事前申請を行った人に対し、使用料の減額（1 回 50 円）を行っている。

- ① 満 70 歳以上の者
- ② 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している者
- ③ 母子保健手帳の交付を受けた者（減額期間は、母子保健手帳交付後、最長 1 年間）

また、令和 2 年 10 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている町内店舗の買い物促進や、住民生活の支援のため、川西こすもす号の全ての路線を無料で利用できるようにしている。

一般社団法人自動車検査登録情報協会の情報及び川西町の世帯数情報から、川西町内の自動車保有台数及び一世帯当たり自動車保有台数を算出すると、例年減少しつつあり、自動車保有台数は平成 21 年から平成 31 年にかけて 5,558 台から 4,447 台へ、一世帯当たり自動車保有台数は平成 21 年から平成 31 年にかけて 1.6 台から 1.2 台へと減少している。今後高齢化や免許返納などに伴い、ますます自動車保有台数が減少することが見込まれるため、特に高齢者の移手段の確保は重要な課題である。

図 2-24 川西こすもす号 路線図



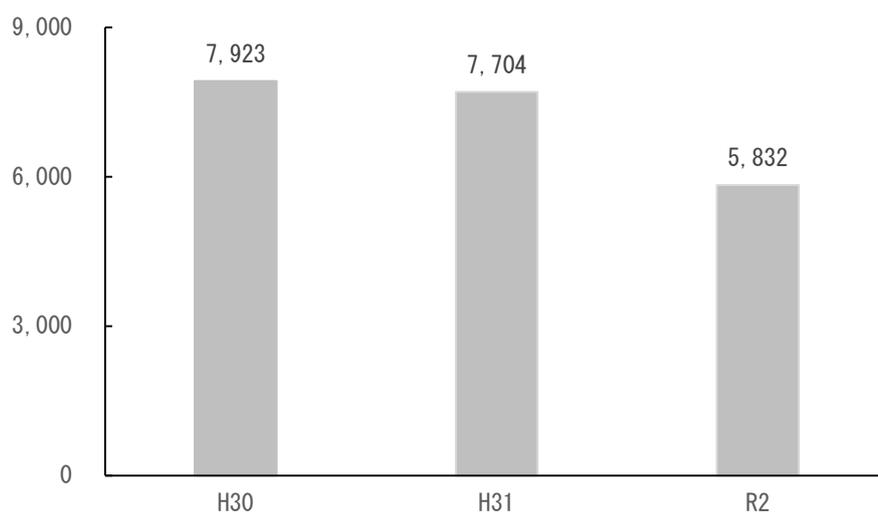
出典：川西町 HP

ア. 川西こすもす号について

(ア) 利用者

川西こすもす号の利用者は、平成 30 年度に 7,923 人、平成 31 年度(令和元年度)に 7,704 人、令和 2 年度に 5,832 人と減少傾向にある。

図 2-25 川西こすもす号利用者推移



平成 31 年度(令和元年度)、令和 2 年度に減少した理由としては新型コロナウイルスの影響が大きいことが推測される。なお、令和 2 年 10 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日までは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている町内店舗の買い物促進や、住民生活の支援のため、川西こすもす号の全ての路線を無料で利用できるようにしている。

2.1.3. 4町の事業費推移

広陵町及び川西町のコミュニティバス運行に関わる事業費推移と、田原本町及び三宅町のタクシー助成に関わる事業費推移は下記の通りである。

ア. コミュニティバス運行に関わる事業費推移

広陵元気号を運行している広陵町及び、川西こすもす号を運行している川西町の事業費推移は下記の通りであり、ほぼ横ばいとなっている(図 2-26、図 2-27)。コミュニティバスの性質上、利用者数が増加してもバスの台数が増加しなければほとんど事業費が変わらないことが読み取れる。

図 2-26 広陵元気号 運行事業費推移

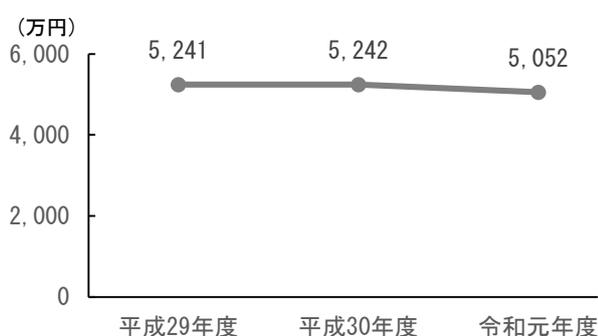
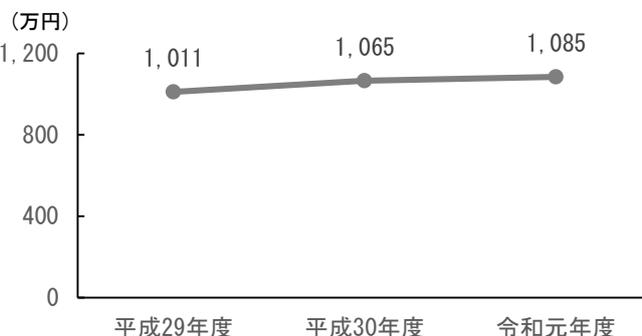


図 2-27 川西こすもす号 運行事業費推移



イ. タクシー助成費推移

田原本町が実施しているタワラモトンタクシー利用料金助成費及び、三宅町が実施している地域公共交通タクシー補助事業費の推移は下記の通りである(図 2-28、図 2-29)。タクシーの場合、利用者数が増加するにつれ、助成費用も増加していく傾向にある。

図 2-28 田原本町タワラモトンタクシー利用料金助成費推移

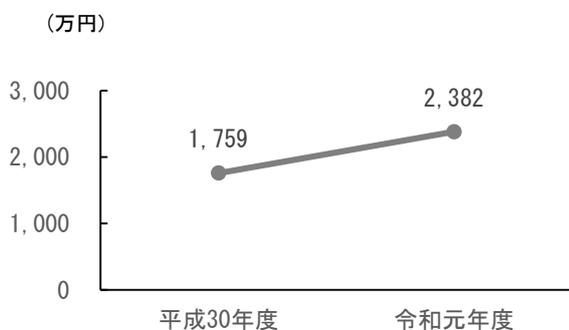
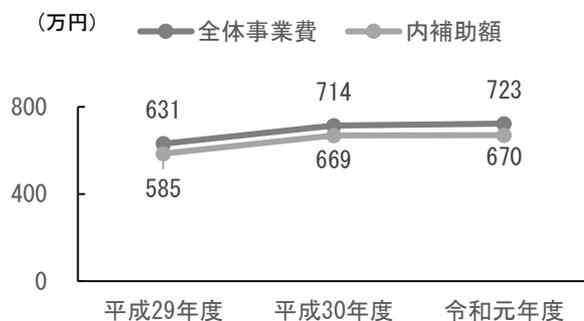


図 2-29 三宅町地域公共タクシー事業費推移



※内補助額；初乗り運賃×枚数

2.2. 病院をとりまく環境について

2.2.1. 市場、顧客

ア. 市場

(ア) 病院数、診療所数とその内訳

令和元年における全国の病院数は 8,300 施設であり、年々減少傾向で 10 年前と比較すると 4.3%減少している(図 2-30)。病院は大きく精神科病院と一般病院に分けられ、精神科病院は 1,054 施設(2.6%減少)、一般病院は 7,246 施設(4.5%減少)となっている。

一方で、令和元年における診療所数は 102,616 施設と増加傾向を維持しており、10 年前と比較すると 2.8%増加している。内訳をみると、有床診療所が 6,644 施設(37.4%減少)と大きく減少しているのに対し、無床診療所は 95,972 施設(7.6%増加)と増加している(図 2-31)。

図 2-30 医療施設数(病院)の推移

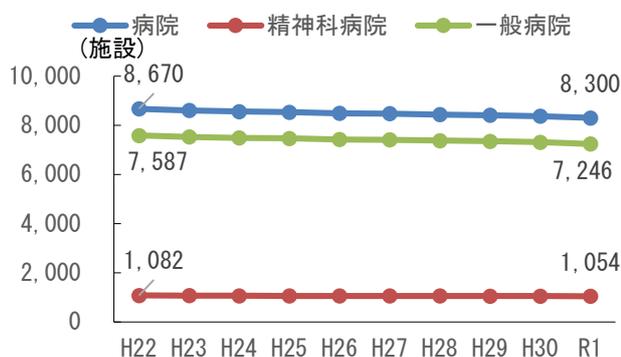
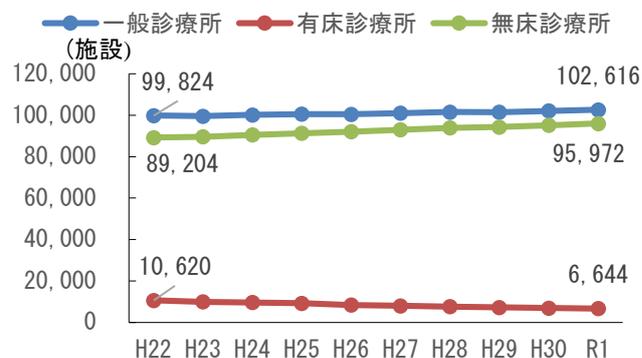


図 2-31 医療施設数(診療所)の推移



出典：厚生労働省「医療施設(静態・動態)調査・病院報告の概況」

一般病院の施設数を診療科目別にみると、「1 内科」が 6,705 施設（一般病院総数の 92.5%）と最も多く、次いで、「34 リハビリテーション科」5,613 施設（同 77.5%）、「25 整形外科」4,897 施設（同 67.6%）となっている。前年と比べると、「5 腎臓内科」（61 施設増）、「7 糖尿病内科（代謝内科）」（45 施設増）、「39 救急科」（29 施設増）などが増加し、「1 内科」（54 施設減）、「13 小児科」（28 施設減）、「16 外科」（28 施設減）などが減少している。

表 2-3 病院の診療科目別にみた施設数(各年 10 月 1 日現在)

| | | 令和元年 | 平成30年 | 対前年 | | 令和元年総数 に対する割合 |
|----|-------------|-------|-------|-----|--------|------------------|
| | | | | 増減数 | 増減率(%) | |
| | 総数 | 7,246 | 7,314 | △68 | △0.9 | 100.0 |
| 1 | 内科 | 6,705 | 6,759 | △54 | △0.8 | 92.5 |
| 2 | 呼吸器内科 | 2,756 | 2,761 | △5 | △0.2 | 38.0 |
| 3 | 循環器内科 | 3,958 | 3,955 | 3 | 0.1 | 54.6 |
| 4 | 消化器内科（胃腸内科） | 3,988 | 4,005 | △17 | △0.4 | 55.0 |
| 5 | 腎臓内科 | 1,307 | 1,246 | 61 | 4.9 | 18.0 |
| 6 | 神経内科 | 2,524 | 2,530 | △6 | △0.2 | 34.8 |
| 7 | 糖尿病内科（代謝内科） | 1,524 | 1,479 | 45 | 3 | 21.0 |
| 8 | 血液内科 | 683 | 660 | 23 | 3.5 | 9.4 |
| 9 | 皮膚科 | 3,039 | 3,052 | △13 | △0.4 | 41.9 |
| 10 | アレルギー科 | 448 | 447 | 1 | 0.2 | 6.2 |
| 11 | リウマチ科 | 1,340 | 1,323 | 17 | 1.3 | 18.5 |
| 12 | 感染症内科 | 163 | 153 | 10 | 6.5 | 2.2 |
| 13 | 小児科 | 2,539 | 2,567 | △28 | △1.1 | 35.0 |
| 14 | 精神科 | 1,760 | 1,752 | 8 | 0.5 | 24.3 |
| 15 | 心療内科 | 638 | 633 | 5 | 0.8 | 8.8 |
| 16 | 外科 | 4,500 | 4,528 | △28 | △0.6 | 62.1 |
| 17 | 呼吸器外科 | 994 | 992 | 2 | 0.2 | 13.7 |
| 18 | 心臓血管外科 | 1,147 | 1,139 | 8 | 0.7 | 15.8 |
| 19 | 乳腺外科 | 986 | 958 | 28 | 2.9 | 13.6 |
| 20 | 気管食道外科 | 82 | 88 | △6 | △6.8 | 1.1 |
| 21 | 消化器外科（胃腸外科） | 1,765 | 1,740 | 25 | 1.4 | 24.4 |
| 22 | 泌尿器科 | 2,831 | 2,819 | 12 | 0.4 | 39.1 |
| 23 | 肛門外科 | 1,181 | 1,187 | △6 | △0.5 | 16.3 |
| 24 | 脳神経外科 | 2,594 | 2,594 | - | - | 35.8 |
| 25 | 整形外科 | 4,897 | 4,913 | △16 | △0.3 | 67.6 |
| 26 | 形成外科 | 1,396 | 1,390 | 6 | 0.4 | 19.3 |
| 27 | 美容外科 | 124 | 128 | △4 | △3.1 | 1.7 |
| 28 | 眼科 | 2,388 | 2,398 | △10 | △0.4 | 33.0 |
| 29 | 耳鼻いんこう科 | 1,957 | 1,957 | - | - | 27.0 |
| 30 | 小児外科 | 384 | 376 | 8 | 2.1 | 5.3 |
| 31 | 産婦人科 | 1,104 | 1,116 | △12 | △1.1 | 15.2 |
| 32 | 産科 | 196 | 191 | 5 | 2.6 | 2.7 |
| 33 | 婦人科 | 871 | 858 | 13 | 1.5 | 12.0 |
| 34 | リハビリテーション科 | 5,613 | 5,589 | 24 | 0.4 | 77.5 |
| 35 | 放射線科 | 3,340 | 3,365 | △25 | △0.7 | 46.1 |
| 36 | 麻酔科 | 2,743 | 2,738 | 5 | 0.2 | 37.9 |
| 37 | 病理診断科 | 916 | 897 | 19 | 2.1 | 12.6 |
| 38 | 臨床検査科 | 239 | 233 | 6 | 2.6 | 3.3 |
| 39 | 救急科 | 764 | 735 | 29 | 3.9 | 10.5 |
| 40 | 歯科 | 1,100 | 1,100 | - | - | 15.2 |
| 41 | 矯正歯科 | 144 | 144 | - | - | 2.0 |
| 42 | 小児歯科 | 150 | 150 | - | - | 2.1 |
| 43 | 歯科口腔外科 | 988 | 976 | 12 | 1.2 | 13.6 |

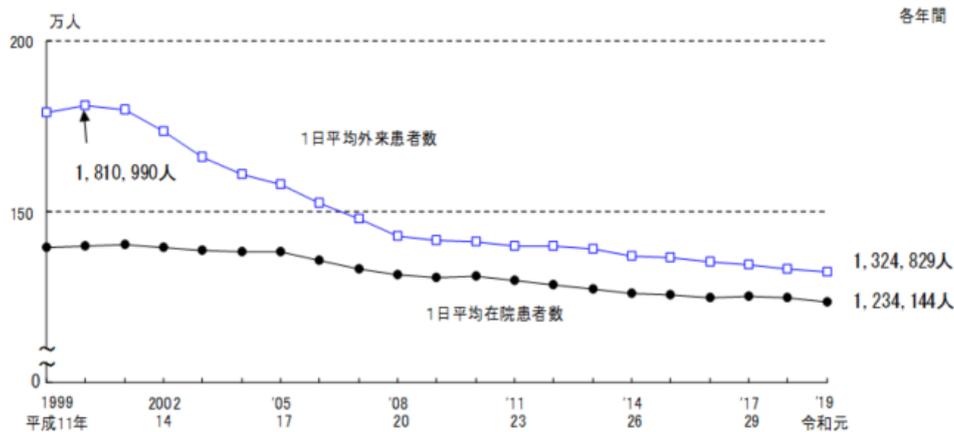
出典：厚生労働省「令和元年医療施設(動態)調査・病院報告の概況」

(イ) 患者数

1日平均在院患者数及び1日平均外来患者数は年々減少傾向にあり、令和元年中における1日平均在院患者数は1,234,144人(前年比1.0%)、1日平均外来患者数は1,324,829人(前年比0.7%減少)となっている。人口10万対1日平均外来患者数は全国1,050.1人で、前年(1,055.1人)に比べ5.0人減少している。

都道府県別にみると、高知県(1,747.8人)が最も多く、次いで徳島県(1,473.3人)となっており、奈良県は1,147.7人で全国平均より高くなっている。

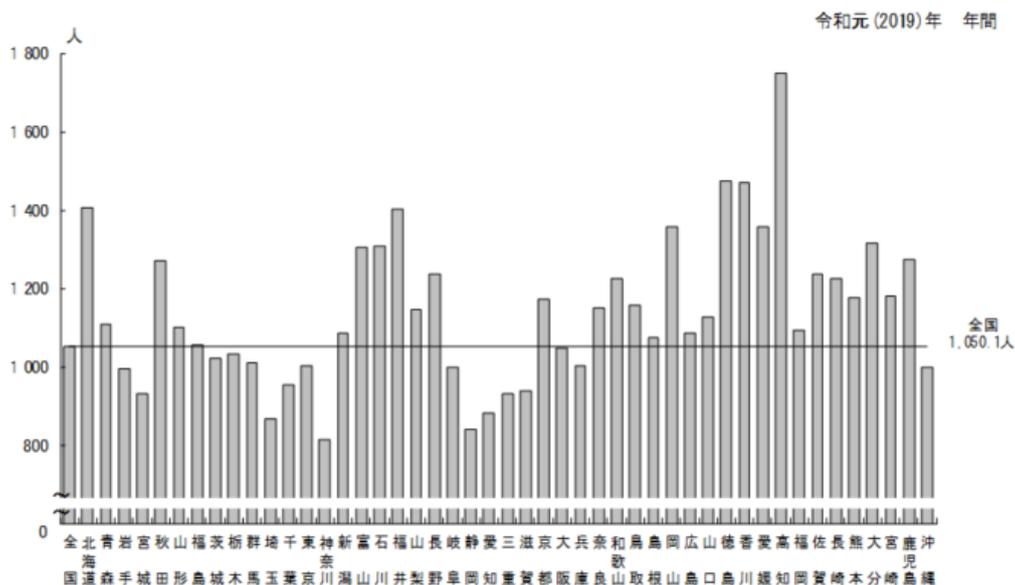
図 2-32 1日平均外来患者数及び在院患者数推移



注)東日本大震災の影響により、平成23年3月分の報告において、病院の合計11施設(岩手県気仙医療圏1施設、岩手県宮古医療圏1施設、宮城県石巻医療圏2施設、宮城県気仙沼医療圏2施設、福島県相双医療圏5施設)は報告のあった患者数のみ集計した。熊本地震の影響により、平成28年4月分の報告において、熊本県の病院1施設(阿蘇医療圏)は、報告がなかったため除いて集計した。平成30年7月豪雨の影響により、平成30年7月分、8月分の報告において、広島県の病院1施設(尾三医療圏)は報告がなかったため、除いて集計した。

出典：厚生労働省「令和元年医療施設(動態)調査・病院報告の概況」

図 2-33 病院の都道府県別にみた人口10万対1日平均外来患者数



出典：厚生労働省「令和元年医療施設(動態)調査・病院報告の概況」

(ウ) 国の動向

平成 31 年 12 月、厚生労働省は紹介状なしで大きな病院を受診した患者に、初診で五千元以上の追加負担を求める制度を巡り、令和 2 年 4 月から、これまでの対象であるベッド数「400 床以上」から、「200 床以上」の病院に拡大することを決め、中央社会保険医療協議会（厚生労働省の諮問機関）で了承された。これにより、対象病院は、420 施設から 670 施設へ増加した。

狙いとして、大病院の外来は紹介患者を中心とした専門的な医療を担い、それ以外の一般的な外来受診は地域の診療所等の「かかりつけ医」に相談することを基本とするシステムの普及、定着をより一層進めることが挙げられる。

図 2-34 紹介状有無の負担額について

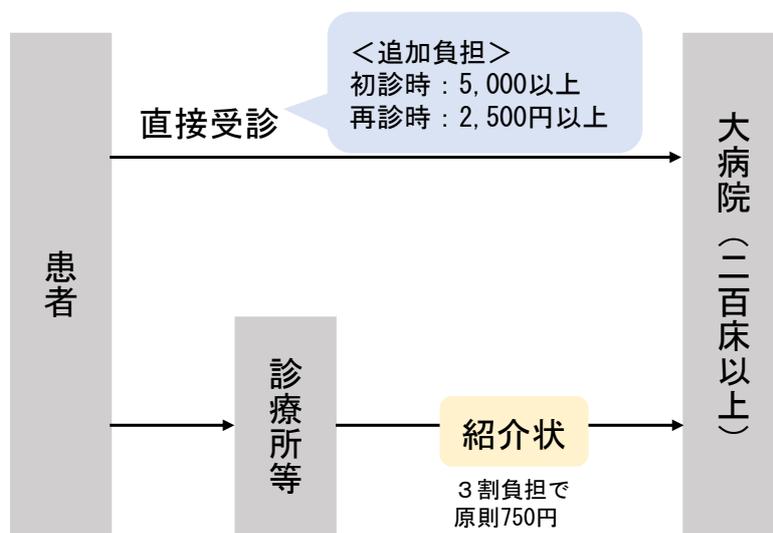
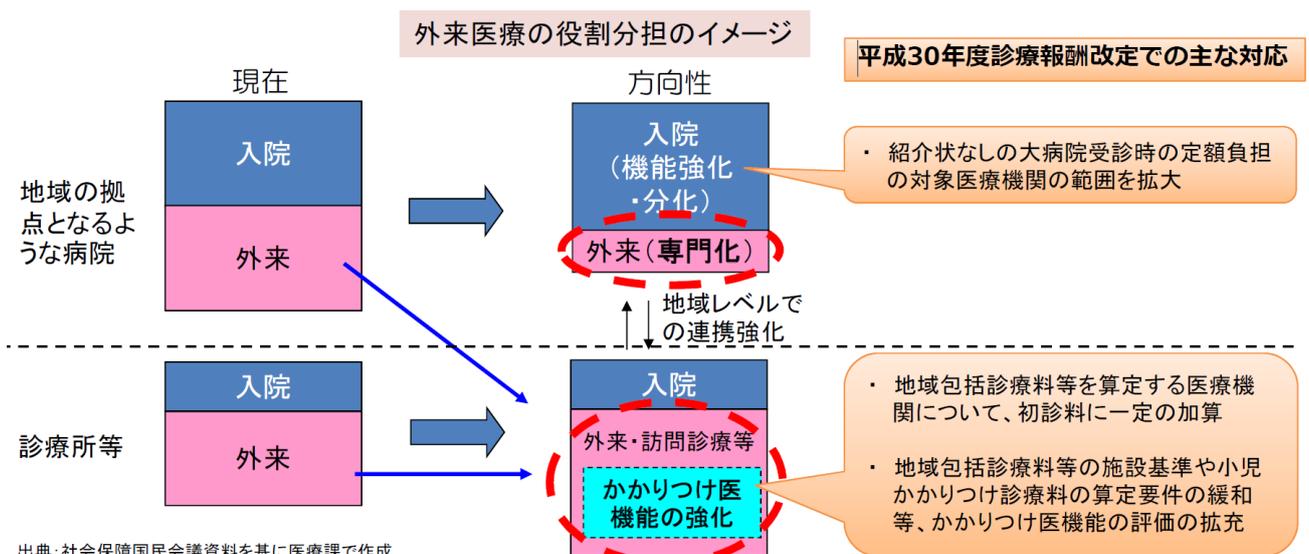


図 2-35 外来医療の役割分担のイメージ

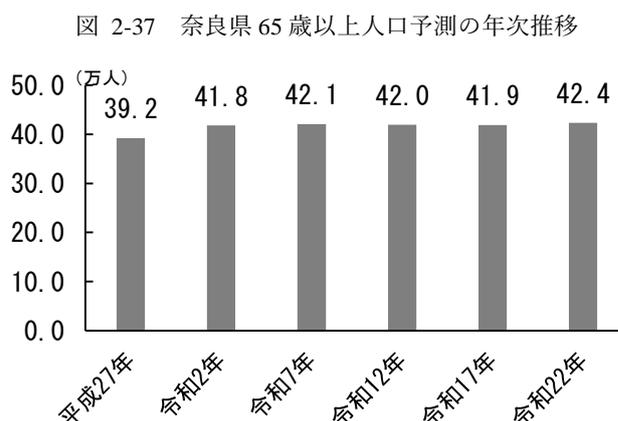
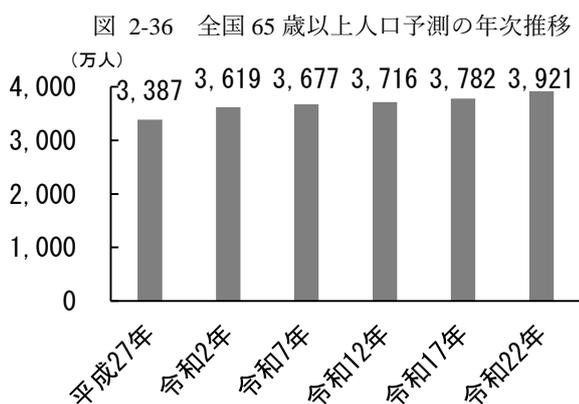


イ. 顧客

(ア) 高齢者人口推移

全国における高齢者人口は、平成 27 年実績で約 3,387 万人であり、その後も増加し続け、令和 22 年(2040 年)には、約 3,921 万人に達してピークを迎えると推計されている(図 2-36)。

奈良県における高齢者人口は、平成 27 年実績で 39.2 万人であり、その後も増加し続け、令和 22 年(2040 年)に 42.4 万人に達すると推計されている(図 2-37)。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 2018 年推計」

一般的に、年齢が高くなるにつれて受療率が高くなる傾向があるため、今後も患者数の増加が続くことが想定される。国内の高齢化は年々進行し、平成 27 年 10 月時点の全人口に占める 65 歳以上の割合は、26.6%となっている。入院患者の高齢化はさらに急速に進んでおり、高齢者の入院数は約 96 万人で、全体に対する割合が 73%を超えた。

図 2-38 年齢階級別にみた受療率

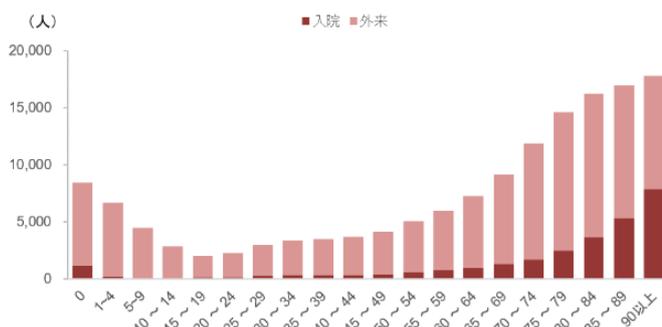
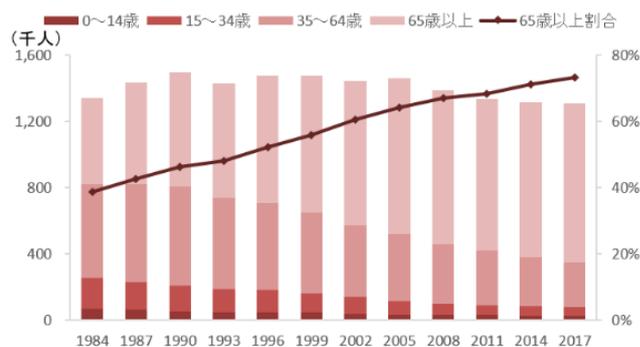


図 2-39 年齢階級別にみた推計入院患者数の年次推移



出典：厚生労働省 平成 29 年患者調査の概況

(イ) 顧客 KBF

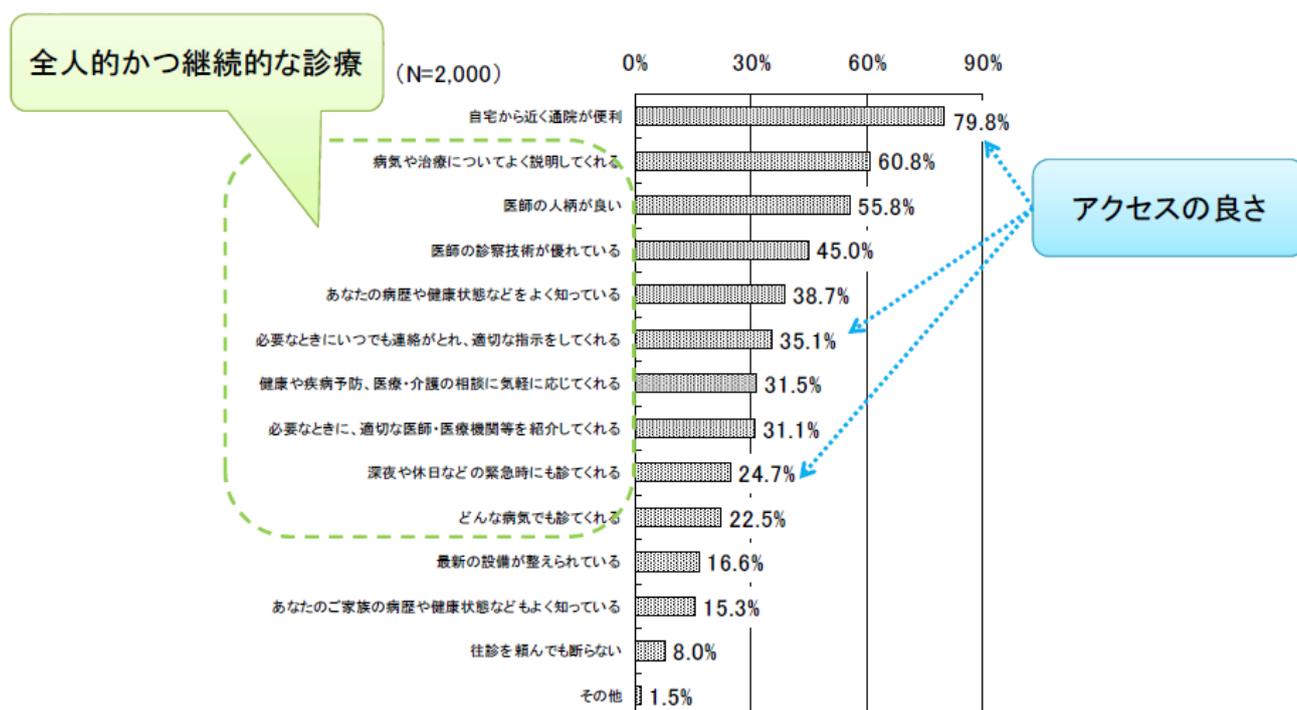
健康保険組合連合が平成 23 年に実施した調査では、「日ごろから相談・受診している医師・医療機関へ期待すること(複数回答)」として、最も高いのが「自宅から近く通院が便利」が 79.8%と最も高く、次いで「病気や治療についてよく説明してくれる」が 60.8%、「医師の人柄が良い」が 55.8%となっている(図 2-40)。

このことから、患者が医師・医療機関を決める理由として重視する要素(KBF:Key Buying Factor)は、アクセスの良さと全人的かつ継続的な診療であることがわかる。高齢者は必然的に通院する機会が増えるため、通院の利便性が重視されるのはうなづける。

(ウ) その他

200 床以上の大病院を受診する際、診療所等からの紹介状がない場合、追加負担額として初診料 5,000 円以上、再診料 2,500 円以上かかるため、一般的には診療所等のかかりつけ医の紹介経由で大病院を受診する形が多いことが想定される。かかりつけ医とは、なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師と定義されている。

図 2-40 日ごろから相談・受診している医師・医療機関へ期待すること(複数回答)



出典：厚生労働省「中央社会保険医療協議会総会(第 346 回)資料」

2.2.2. 周辺病院について

4町の周辺病院として、天理市の「天理よろづ相談所病院」、大和高田市の「土庫病院」、上牧町の「服部記念病院」などが挙げられる。これらの病院の概要及び、顧客 KBF の1つとなるアクセスについて下記の通り整理する。

ア. 天理よろづ相談所病院

(ア) 概要

天理よろづ相談所病院は、昭和41年4月に開設された病院である。外来診療棟、入院棟(本館・南病棟、東病棟・西病棟、白川分院)で構成され、東病棟・西病棟は平成26年2月にオープン、白川分院は平成15年7月に開院されている。本館・南病棟は201床あり、一般病棟、血液浄化センター、無菌室となっている。東病棟・西病棟は514床あり、一般病棟、手術室、ICU・CCU、SCU、白川分院は143床あり、療養病棟、リハビリ病棟、精神科病棟となっている。

診療科目としては、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、脳神経内科、内分泌内科、総合内科、小児科、皮膚科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、形成外科、腎透析科、精神神経科、リハビリテーション科(リハビリセンター)、病理診断科、臨床検査科、緩和ケア科、脳卒中センター、内視鏡センター、緩和ケアセンター、がん相談支援センター、血液浄化センター、健診センター、感染症管理センター、糖尿病センター、膠原病センター、先天性心疾患センター、心臓カテーテルセンター、呼吸管理センター、小児アレルギーセンター、救急外来(救急診療部)、在宅世話どりセンターと多岐に渡る。

(イ) 患者

国内各地はもとより海外からの受診者も少なくなく、外来患者数は土曜日も含め1日平均2,000人以上で、年間では延べ66万人。同じく入院患者数は延べ27万人を数え、京阪神地域の基幹病院の一つとしての責務も担っている。

令和元年度の天理よろづ相談所病院の年齢階級別退院患者数をみると、60歳以降の年代の方が多く、全体の7割を占めている(表2-4)。この年代の方々は複数の疾患を有していたり、重症化しやすい等の特徴がある。また、小児では先天性心疾患など慢性疾患が多いのが特徴となっている。

年齢階級別退院患者数の推移をみると、平成29年度から令和元年度にかけて横ばいとなっている。年齢区分の内訳としては、30～39歳の減少率が最も高く30%の減少となっている。逆に0～9歳及び、70歳以上の退院患者数は増加していることがわかる。

表 2-4 年齢階級別退院患者数推移

| 年齢区分 | 0～9 | 10～19 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～69 | 70～79 | 80～89 | 90～ | 合計 |
|-------------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|
| 令和元年度 | 536 | 241 | 275 | 369 | 813 | 1,351 | 3,201 | 5,552 | 2,909 | 457 | 15,704 |
| 平成30年度 | 509 | 263 | 332 | 551 | 915 | 1,382 | 3,559 | 5,295 | 2,796 | 416 | 16,018 |
| 平成29年度 | 440 | 274 | 301 | 527 | 862 | 1,490 | 3,781 | 4,953 | 2,725 | 410 | 15,763 |
| 増減率(H29→R1) | 21.8% | -12.0% | -8.6% | -30.0% | -5.7% | -9.3% | -15.3% | 12.1% | 6.8% | 11.5% | -0.4% |

出典：天理よろづ相談所病院 HP より作成

(ウ) アクセス

患者が医師・医療機関を決める理由として重視する要素の一位として挙げられている「アクセスの良さ」について、天理よろづ相談所病院の状況を見ると、天理市に立地しており、病院までのアクセスはJR/近鉄天理駅から徒歩13～17分となっている。

また、近鉄天理駅正面にある奈良交通のバス乗り場からバスが出ており、本館・南病棟、外来棟・東病棟・西病棟へは、64系統（天理桜井線）が8時～12時まで1本/hペース、50、65系統（JR奈良駅方面行き）が2～5本/hペースで運行しており、交通利便性が比較的高くなっている。白川分院へは、18、21、38、39系統（天理都祁線）が7時から18時まで4時間おき毎に1～3本/h運行されている。

その他、本館・南病棟、外来診療棟、東・西病棟、白川分院を結ぶシャトルバス(無料)が運行されている。

図 2-41 無料シャトルバス標準時刻表

| | 南病棟(本館) | | 外来診療棟 | | 東病棟 | | 白川分院 | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------|--------|-----------|--------|---------------------------------|---------------------------------|------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 東病棟行き | 白川分院行き | 南病棟(本館)行き | 白川分院行き | 南病棟(本館)行き | 白川分院行き | A棟行き | B棟行き | | | | | | | | | | | | | |
| 平日 | 7 | 45 | 30 | 55 | 33 | 53 | 35 | 43 | 45 | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 15 | 45 | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 9 | 15 | 45 | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 10 | 15 | 45 | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 11 | 15 | 45 | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 12 | 15 | 45 | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 13 | | | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 14 | | | 0 | 30 | 25 | 55 | 3 | 33 | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | | |
| | 15 | | | 0 | 30 | 25 | 55 | 3 | 33 | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | | |
| | 16 | 15 | 45 | 0 | 30 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | |
| 土日 | 7 | | | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 8 | | | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 9 | | | 0 | 30 | 10 | 25 | 40 | 55 | 3 | 33 | 8 | 23 | 38 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 |
| | 10 | 30 | 0 | | | 25 | 55 | 3 | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 11 | 30 | 0 | | | 25 | 55 | 3 | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 12 | 30 | 0 | | | 25 | 55 | 3 | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 13 | 30 | 0 | | | 25 | 55 | 3 | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 14 | 30 | 0 | | | 25 | | 3 | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 15 | | | 0 | | | | | | | 23 | 5 | | | | 13 | 15 | | | | |
| | 16 | | | 0 | 30 | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | |
| 17 | | | 0 | 30 | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | | |
| 休日(外来診療日) | 7 | | | 0 | 30 | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | |
| | 8 | | | 0 | 30 | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | |
| | 9 | | | 0 | 30 | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | |
| | 10 | 30 | 0 | | | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 11 | 30 | 0 | | | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 12 | 30 | 0 | | | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 13 | 30 | 0 | | | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 14 | 30 | 0 | | | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | | | 13 | 15 | | | | |
| | 15 | | | 0 | | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 5 | | | | 13 | 15 | | | | |
| | 16 | | | 0 | 30 | この時間帯は止まりません。 東病棟待留所をご利用下さい。 | | | | | 23 | 53 | 5 | 35 | 13 | 43 | 15 | 45 | | | |

★行先、コース案内

出典：天理よろづ相談所病院 HP

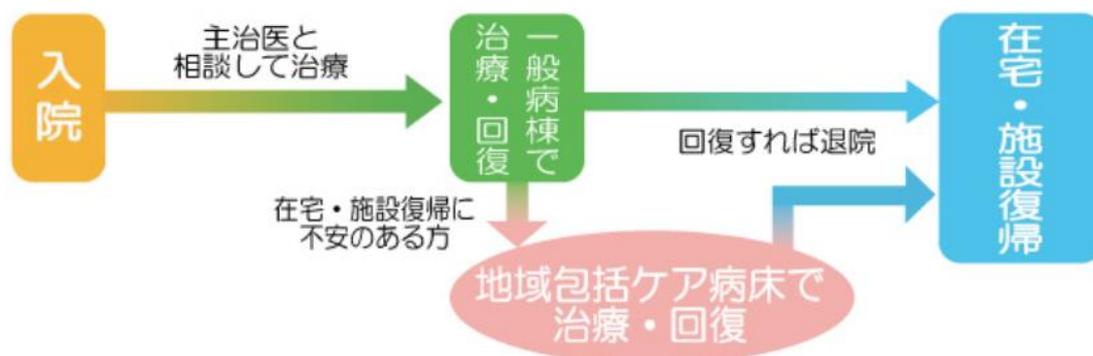
イ. 服部記念病院

(ア) 概要

服部記念病院は、上牧町にある病院で、診療科目は、内科、循環器内科、外科、整形外科、精神科、婦人科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科となっている。病床数は162床で一般病棟が120床(うち地域包括ケア44床)、療養病棟が42床となっている。

また、入院治療後、病状が安定した患者様に対して、リハビリや退院支援など在宅復帰を目的とした効果的かつ密度の高い医療を提供するため平成27年8月より「地域包括ケア病床」を開設している。

図 2-42 地域包括ケア病床について



入院期間としては、地域包括ケア病床に転棟（移動）してから最長で60日を限度としておりますが、患者様の病状により異なります。

出典：服部記念病院 HP

(イ) アクセス

患者が医師・医療機関を決める理由として重視する要素の一位として挙げられている「アクセスの良さ」について、服部記念病院の状況を見ていく。服部記念病院は上牧町に立地しており、病院までのアクセスはJR志都美駅から徒歩15分、もしくはJR王寺駅方面、JR志都美駅、近鉄五位堂駅方面から送迎バス(無料)が出ている。

送迎バス(無料)は、王寺駅から周遊コースとして、8時台から11時台まで1本/h、直行便として13時～15時台まで1本/h運行されている。志都美駅からは、平日は9時台～14時台まで1～2本/h運行されている。五位堂駅方面からは、周回コースとして、9時台～12時台まで1本/h、直行便として13時～15時台まで1本/h運行されている。

上記のように送迎バスのコースが幅広く、多方面からアクセスが可能になるように設定されている。

図 2-43 アクセス地図



出典：服部記念病院 HP

図 2-44 服部記念病院送迎バス時刻表

| 王寺駅方面 | | | 志都美駅直行便 | | | | | | |
|--------------------------------------|-------|-------|-------------------------------------|------------------|----------------------|---|--------|--------|--------|
| 桜ヶ丘～王寺駅コース | | | 片岡台～王寺駅～明神コース | | 服部記念病院 ↔ 志都美駅 | | | | |
| 服部記念病院 発 | 9:50 | 11:55 | 服部記念病院 発 | 8:30 | 10:50 | 病院 発 | 志都美駅 着 | 志都美駅 発 | 病院 着 |
| 上牧町役場前 | 9:52 | 11:57 | 上牧町役場前 | 8:32 | 10:52 | | | | |
| 桜ヶ丘1丁目バス停 | 9:56 | 12:01 | 文化センターバス停 | 8:34 | 10:54 | | | 8:45 | 8:50 |
| 高塚台1丁目バス停 | 9:58 | 12:03 | 服部バス停 | 8:36 | 10:56 | 9:25 | 9:30 | 9:35 | 9:40 |
| 広瀬台2丁目バス停 | 9:59 | 12:04 | 下牧南口バス停 | 8:37 | 10:57 | 9:45 | 9:50 | 10:00 | 10:05 |
| 中山台2丁目バス停 <small>(イトヨシ北側)</small> | 10:00 | 12:05 | 片岡台幼稚園 | 8:38 | 10:58 | 10:40 | 10:45 | 10:50 | 10:55 |
| 星和台1丁目バス停 | 10:02 | 12:07 | 片岡台1丁目バス停 | 8:39 | 10:59 | 11:40 | 11:45 | 11:50 | 11:55 |
| 王寺駅前(南口) | 10:07 | 12:12 | 中山台2丁目バス停 <small>(上田産科前)</small> | 8:40 | 11:00 | 12:40 | 12:45 | 12:50 | 12:55 |
| 王寺霊園バス停 | 10:11 | 12:16 | 星和台1丁目バス停 | 8:41 | 11:01 | ※13:40 | ※13:45 | ※13:50 | ※13:55 |
| 天平台バス停 | 10:12 | 12:17 | 王寺駅前(南口) | 8:45 | 11:05 | ※14:40 | ※14:45 | ※14:50 | ※14:55 |
| 王寺園芸前 | 10:13 | 12:18 | 王寺園芸前 | 8:55 | 11:15 | ※印は土曜日運休です。 | | | |
| 王寺本町4丁目バス停 | 10:14 | 12:19 | 王寺幼稚園前 | 8:56 | 11:16 | 路線図は病院内に掲示しています。 また当院ホームページから印刷できます。 | | | |
| 元ローソン <small>(イトヨシ東隣)</small> | 10:16 | 12:22 | 明神2丁目バス停 | 8:58 | 11:18 | | | | |
| 下牧南口バス停 | 10:17 | 12:23 | 明神4丁目バス停 | 9:00 | 11:20 | | | | |
| 服部バス停 | 10:18 | 12:25 | 畠田南バス停 | 9:01 | 11:21 | | | | |
| 文化センターバス停 | 10:20 | 12:26 | 服部記念病院 着 | 9:15 | 11:35 | | | | |
| 服部記念病院 着 | 10:24 | 12:30 | | | | | | | |
| 病院→王寺駅直行便 | 13:15 | 14:00 | 14:55 | ◆土曜日は13:15発のみです。 | | | | | |
| 王寺駅→病院直行便 | 13:30 | 14:15 | 15:10 | ◆土曜日は13:30発のみです。 | | | | | |
| 近鉄五位堂駅方面 | | | | | | | | | |
| 馬見～近鉄五位堂～真美ヶ丘コース | | | 広陵～近鉄五位堂コース | | | | | | |
| 服部記念病院 発 | 10:15 | 12:00 | 服部記念病院 発 | 9:00 | 11:05 | | | | |
| 上牧町役場前 | 10:17 | 12:02 | 馬見北9丁目バス停 <small>(五位堂方面)</small> | 9:05 | 11:10 | | | | |
| 馬見北6丁目バス停 | 10:21 | 12:06 | ローソン信号前 | 9:07 | 11:12 | | | | |
| 馬見北5丁目バス停 | 10:22 | 12:07 | 信号手前 | 9:09 | 11:14 | | | | |
| 馬見北1丁目バス停 | 10:23 | 12:08 | 赤部薬局前 | 9:13 | 11:18 | | | | |
| 馬見中2丁目バス停 | 10:23 | 12:08 | 広陵町役場前 | 9:18 | 11:23 | | | | |
| 馬見中1丁目バス停 | 10:24 | 12:09 | 平尾バス停 | 9:20 | 11:25 | | | | |
| 真美ヶ丘7丁目バス停 | 10:25 | 12:10 | 安部バス停 | 9:21 | 11:26 | | | | |
| 真美ヶ丘センターバス停 | 10:26 | 12:11 | 喫茶風見鶏前 | 9:24 | 11:29 | | | | |
| 近鉄五位堂駅 | 10:34 | 12:19 | 近鉄五位堂駅 | 9:30 | 11:35 | | | | |
| 真美ヶ丘1丁目バス停 | 10:36 | 12:21 | コープ左折前 | 9:33 | 11:38 | | | | |
| 香芝高校バス停 | 10:37 | 12:22 | 西真美3丁目バス停 | 9:35 | 11:40 | | | | |
| 馬見中5丁目バス停 | 10:38 | 12:23 | 関屋化学前 | 9:40 | 11:45 | | | | |
| 馬見北9丁目バス停 <small>(王寺方面)</small> | 10:39 | 12:24 | 服部記念病院 着 | 9:43 | 11:48 | | | | |
| 葛城台バス停 | 10:41 | 12:26 | | | | | | | |
| 服部記念病院 着 | 10:45 | 12:30 | | | | | | | |
| 病院→近鉄五位堂駅 直行便 | 13:05 | 14:10 | 15:10 | ◆土曜日は13:05のみです。 | | | | | |
| 近鉄五位堂駅→病院 直行便 | 13:15 | 14:20 | 15:20 | ◆土曜日は13:15のみです。 | | | | | |

日曜・祝日 運休



道路状況により
やむをえず遅延する場合がありますので、ご了承下さい。

医療法人 郁慈会
服部記念病院
奈良県北葛城郡上牧町4244
電話 0745-77-1333

ホームページ
<http://www.hattorin.jp/>

ウ. 土庫病院

(ア) 概要

土庫病院は、中規模の病院でありながら消化器病センター(大腸肛門病センター)を併設し、近畿圏でも特色ある病院として発展してきた。

診療科目は、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、内視鏡内科、外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、胃外科、大腸外科、内視鏡外科、小児科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、病理診断科となっている。

許可病床数は 199 床（地域包括ケア病床 48 床）となっている。

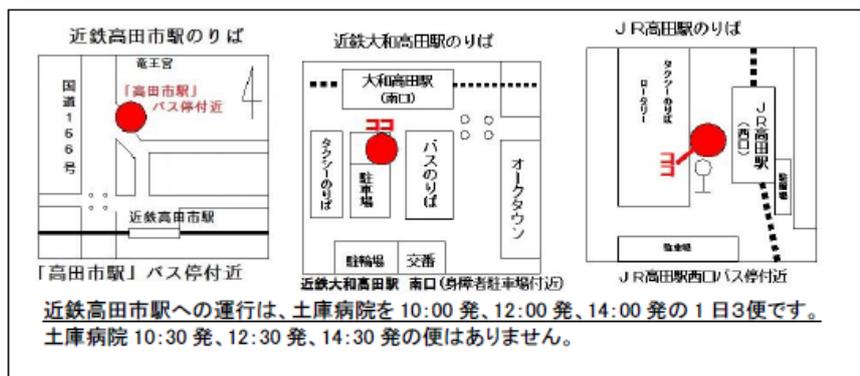
(イ) アクセス

患者が医師・医療機関を決める理由として重視する要素の一位として挙げられている「アクセスの良さ」について、土庫病院の状況を見ると、大和高田市に立地しており、病院までのアクセスは近鉄大和高田駅から徒歩7分、JR 高田駅から徒歩 10 分となっている。

また、近鉄高田市駅、近鉄大和高田駅、JR 高田駅から土庫病院まで送迎車(無料)がでており、近鉄高田市駅は 1 日 3 便、近鉄大和高田駅、JR 高田駅は、1～2 本/h 運行されており、周辺駅からのアクセスが比較的容易になっている。

図 2-45 土庫病院 送迎車 時刻表

| 土庫病院：発⇒日の出診療所 ⇒近鉄大和高田駅 ⇒ JR 高田駅 ⇒ 近鉄高田市駅⇒JR 高田駅 ⇒近鉄大和高田駅⇒日の出診療所⇒ 土庫病院：着 | | | | | | | | |
|---|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| — | — | — | — | — | 8：45 | 8：50 | 8：58 | 9：00 |
| 9：00 | 9：02 | (下車のみ) | — | — | 9：15 | 9：20 | 9：28 | 9：30 |
| 9：30 | 9：32 | (下車のみ) | — | — | 9：45 | 9：50 | 9：58 | 10：00 |
| 10：00 | 10：02 | (下車のみ) | (下車のみ) | 10：30 | 10：45 | 10：50 | 10：58 | 11：00 |
| 11：00 | 11：02 | (下車のみ) | — | — | 11：15 | 11：20 | 11：28 | 11：30 |
| 11：30 | 11：32 | (下車のみ) | — | — | 11：45 | 11：50 | 11：58 | 12：00 |
| 12：00 | 12：02 | (下車のみ) | (下車のみ) | 12：30 | 12：45 | 12：50 | 12：58 | 13：00 |
| 13：00 | 13：02 | (下車のみ) | — | — | 13：15 | 13：20 | 13：28 | 13：30 |
| 13：30 | 13：32 | (下車のみ) | — | — | 13：45 | 13：50 | 13：58 | 14：00 |
| 14：00 | 14：02 | (下車のみ) | (下車のみ) | 14：30 | 14：45 | 14：50 | 14：58 | 15：00 |
| 15：00 | 15：02 | (下車のみ) | — | — | 15：15 | 15：20 | 15：28 | 15：30 |
| ※17：30 | 17：32 | 17：40 | 17：50 | — | — | — | — | 18：00 |



運行日は月曜～土曜です

日曜・祝日の運行は休みです

〔※17:30 発は月曜～金曜です〕
〔土曜・日曜・祝日の運行は休み〕

土庫病院・日の出診療所の乗り場は
正面玄関です

お問合：健生会友の会事務局

TEL 0745-22-2989

出典：土庫病院 HP

2.2.3. 国保中央病院について

ア. 概要

国保中央病院は、平成5年4月に設立された広陵町、田原本町、川西町及び三宅町の4町による組合立の自治体病院であり、地域医療機関・介護保険施設・自治体との連携を密にし、患者のQOLを第一に考えた医療を目指している。診療科目としては、内科、外科、整形外科、小児科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、麻酔科、緩和ケア科、リハビリテーション科、心療内科が挙げられ、その他、救急処置室・人工透析(22床)を備えている。

特徴としては、内科、外科を中心とした消化器病センター、奈良県が推し進めている地域包括ケアシステム構築の中での地域包括ケア病棟、手の外科を専門とする整形外科、がん患者のための緩和ケア病棟、さらに中南和地域の中核病院としての小児の2次救急などが挙げられる。

病床数は一般220床となっており、紹介状なしで受診する場合には、初診で1,100円の追加負担がかかるようになっている。

イ. 病院事業状況等

(ア) 収益について

国保中央病院の医業収益のうち、約70%が入院収益、約25%が外来収益となっている。医業収支比率は、全国平均や類似平均より高く推移しているが、赤字の年が比較的多い。

平成30年の総収益は34億5,510万1,000円、総費用は約32億6,135万8,000円、純損益は1億9,374万3,000円となっている。

総収益は、医業収益の31億1,781万円と医業外収益の3億3,729万1,000円で構成されている。医業収益は、入院収益が約21億3,820万円(医業収益のうち68.6%)を占め、外来収益が約7億6,345万円(医業収益のうち24.5%)を占め、その他医業収益が約2億1,616万円となっている。医業外収益は、国・都道府県補助金が約1,512万円、他会計補助・負担金が約2億3,252万円、長期前受金戻入が約6,899万円となっている。総費用は、医業費用の31億2,972万9,000円、医業外費用の1億3,156万9,000円、特別損失の6万円で構成されている。

国保中央病院の経常収支比率は全体的に波はあるものの、平成20年及び平成25年を除いて100%を越えており、資金繰り悪化の可能性は低い。経常収支比率は、通常長期にわたって100%を下回る場合や、直近の比率が著しく低い場合は、資金繰りの悪化の可能性があり、財務的に危険な状態と言える。全国平均や類似平均の経常収支比率がかなりの割合で100%を切っており、資金繰り悪化の可能性がある中、国保中央病院の経常収支比率はそれらの病院よりは高く推移していることがわかる(図2-46)。

医業収支比率は、医療機関別の経営指標として収益状況を見るための比率のことで、100%を切る医療機関は、収益的収支が均衡しておらず赤字の状態になっていると考えられる。全体的に下落傾向にあり、全国平均の医業収支比率は90%前後で推移している。類似平均の医業収支比率は85%~90%であり、赤字の状態になっている病院が多いことが見てとれる。国保中央病院の医業収支比率は、全国平均や類似平均より高く推移しているものの、100%を割り込んでいる年も多く、赤字の年が比較的多いことがわかる(図2-47)。

図 2-46 経常収支比率

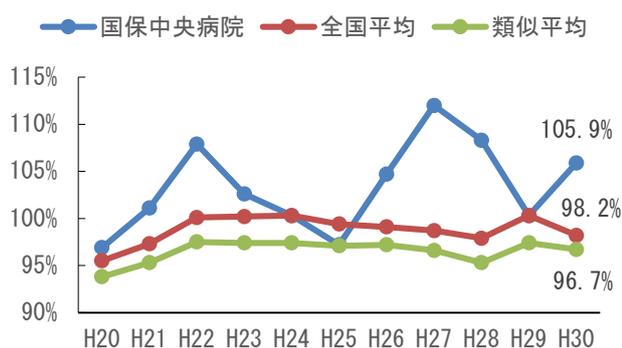
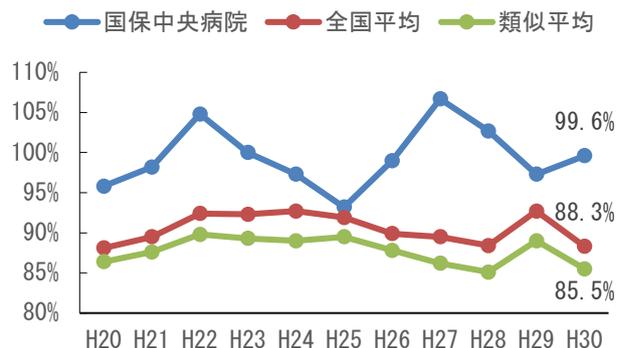


図 2-47 医業収支比率



注)「類似平均」については経営規模別区分(一般病院の500床以上、同400床以上500床未満、同300床以上400床未満、同200床以上300床未満、同100床以上200床未満、同50床以上100床未満、同50床未満、結核病院、精神科病院、建設中)に基づき算出している。

出典：総務省「病院事業決算状況」より作成

(イ) 外来入院患者比率、患者1人1日当たり診療収入

国保中央病院の入院患者は微増傾向、外来患者は減少傾向にあり、外来入院患者比率が減少傾向になっている。全国平均や類似平均と比較しても外来入院患者比率は低く推移し、入院患者数割合が高い。

平成30年度における国保中央病院の外来入院患者比率は121.1%で入院患者より外来患者が多くなっている。全国平均や類似平均の外来入院患者比率は、それぞれ163.4%、158.9%となっており、より入院患者より外来患者が多くなっている。国保中央病院は、全国平均や類似平均の病院と比較すると、比較的入院患者の割合が高いことが言える。平成20年から平成30年までの経年推移をみると、全国平均の外来入院患者比率は165%前後で推移しており、類似平均の外来入院患者比率は微減傾向にある。国保中央病院の外来入院患者比率は乱高下があるものの、平成25年以降減少傾向にある(図2-48)。

平成30年度における国保中央病院の1日平均患者数の内訳をみると、入院患者数は147人、外来患者数は240人となっている。平成20年から平成30年までの経年推移をみると、入院患者数は微増傾向にあるものの、外来患者数は減少傾向にあり、外来患者数の減少により、外来入院患者比率も低くなっていると考えられる(図2-49)。

図 2-48 外来入院患者比率

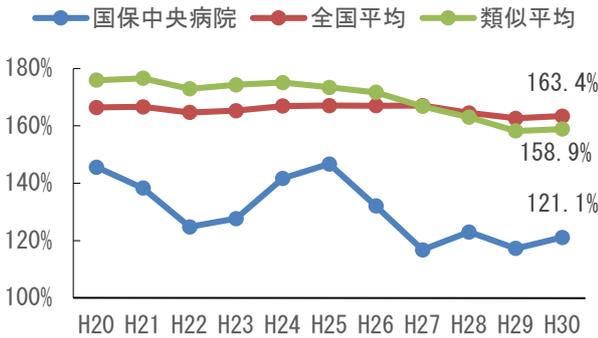
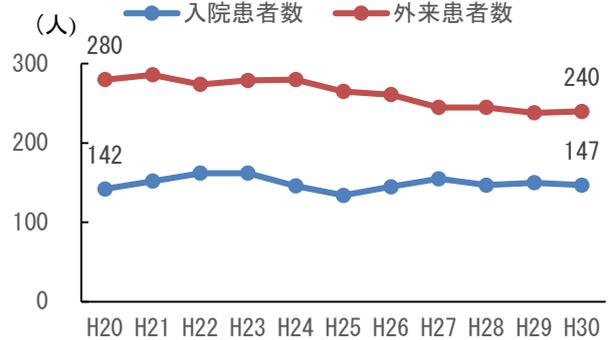


図 2-49 1日平均患者数



注「類似平均」については経営規模別区分（一般病院の 500

床以上、同 400 床以上 500 床未満、同 300 床以上 400 床未満、同 200 床以上 300 床未満、同 100 床以上 200 床未満、同 50 床以上 100 床未満、同 50 床未満、結核病院、精神科病院、建設中）に基づき算出している。

出典：総務省「病院経営分析比較表」より作成

国保中央病院における平成 30 年度の患者 1 人 1 日当たり診療収入(入院)は、39,972 円となっており、全国平均の 47,009 円、類似平均の 40,005 円よりも低くなっている。国保中央病院の患者 1 人 1 日当たり診療収入(入院)の平成 20 年から平成 30 年までの経年変化を見てみると、平成 27 年以降微減傾向にあるものの、平成 21 年度からの推移をみると、全体的に増加傾向にある。しかしながら、全国平均の経年変化と比較すると増加幅は比較的緩やかになっている(図 2-50)。

国保中央病院における平成 30 年度の患者 1 人 1 日当たり診療収入(外来)は、11,788 円となっており、類似平均の 10,624 円よりは高く、全国平均の 13,353 円よりは低くなっている。患者 1 人 1 日当たり診療収入(外来)の平成 20 年から平成 30 年までの経年変化を見てみると、国保中央病院、全国平均、類似平均ともに増加傾向にある(図 2-51)。

図 2-50 患者 1 人 1 日当たり診療収入(入院)

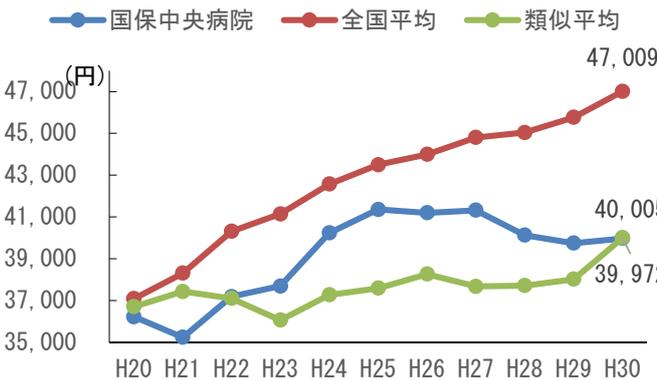
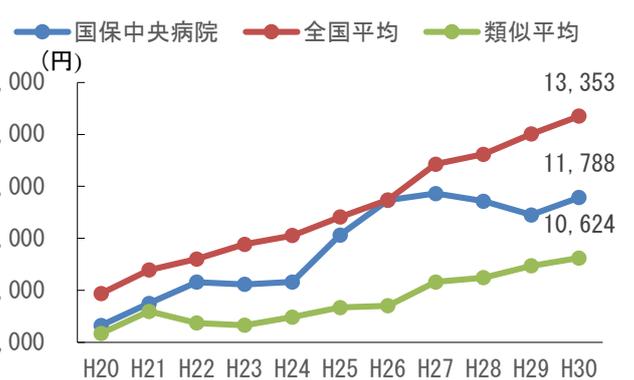


図 2-51 患者 1 人 1 日当たり診療収入(外来)



注「類似平均」については経営規模別区分（一般病院の 500 床以上、同 400 床以上 500 床未満、同 300 床以上 400 床未満、同 200 床以上 300 床未満、同 100 床以上 200 床未満、同 50 床以上 100 床未満、同 50 床未満、結核病院、精神科病院、建設中）に基づき算出している。

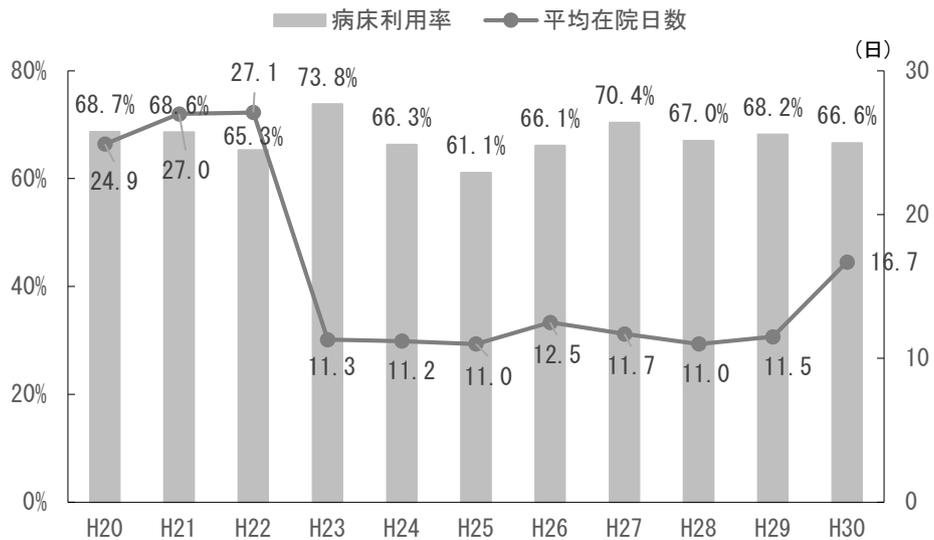
出典：総務省「病院経営分析比較表」より作成

(ウ) 病床利用率、平均在院日数

病床利用率はほぼ微減傾向で、平均在院日数は近年増加傾向にある。

平成 30 年度の病床利用率は、66.6%、平均在院日数(一般病床のみ)は 16.7 日となっている。平成 20 年度からの経年推移をみると、病床利用率は 61%～74%の間を推移しており、平成 27 年度以降は微減傾向にある。平均在院日数は、平成 22 年度までは 25 日以上と高かったが、平成 23 年以降は 11 日前後を推移しており、平成 30 年度は 16.7 日と長くなっている。

図 2-52 国保中央病院 病床利用率、平均在院日数



出典：総務省「病院事業決算状況」より作成

ウ. アクセス

患者が医師・医療機関を決める理由として重視する要素の一位として挙げられている「アクセスの良さ」について、国保中央病院の状況を見ていく。国保中央病院は田原本町に立地しており、病院までのアクセスは近鉄黒田駅から徒歩 10 分、もしくは近鉄田原本駅から無料送迎バスが 1～2 本/h 運行されている。

(ア) 無料送迎シャトルバス

近鉄田原本駅⇨国保中央病院の無料送迎シャトルバスが平日は往復 19 便、休日は往復 12 便運行されている。車輛は病院所有のハイエースで 1 台 13 人乗りとなっている。無料送迎シャトルバスの時刻表は下記の通りである。

表 2-5 近鉄田原本駅⇨国保中央病院無料送迎シャトルバス時刻表(令和 3 年 1 月時点)

| 近鉄田原本駅 → 国保中央病院 | | | | 国保中央病院 → 近鉄田原本駅 | | | |
|-----------------|----|-------------|----|-----------------|----|-------------|----|
| 平日 | | 第1・第3・第5土曜日 | | 平日 | | 第1・第3・第5土曜日 | |
| 時 | 分 | 時 | 分 | 時 | 分 | 時 | 分 |
| 7 | 35 | 7 | 50 | 7 | 44 | 7 | |
| 8 | 17 | 8 | 10 | 8 | 05 | 8 | 00 |
| 9 | 07 | 9 | 13 | 9 | 28 | 9 | 27 |
| 10 | 18 | 10 | 45 | 10 | 04 | 10 | 06 |
| 11 | 30 | 11 | 47 | 11 | 00 | 11 | 20 |
| 12 | 10 | 12 | 24 | 12 | 00 | 12 | 02 |
| 13 | 23 | 13 | 07 | 13 | 02 | 13 | 20 |
| 14 | 23 | 14 | 25 | 14 | 02 | 14 | 02 |
| 15 | 45 | 15 | 25 | 15 | 03 | 15 | 02 |
| 16 | 24 | 16 | 25 | 16 | 06 | 16 | 07 |
| 17 | 19 | 17 | | 17 | 09 | 17 | 16 |
| 18 | 16 | 18 | | 18 | 03 | 18 | |

出典：国保中央病院 HP

令和元年11月～令和2年1月及び、令和2年11月～令和3年1月における1便当たりのシャトルバス利用者(職員を除く)は、最大でも5名以下であり、乗車率(最大積載人数13名)は、3割程度と少ない状況である。病院に行く時間、病院から帰る時間帯として、アンケート等でも希望が多かった午前8時から午後2時台については、6便から13便の利用者人数が多いが、4便は利用が最も少ない現状となっている。また、令和元年11月～令和2年1月実績においては、11便の乗車人数も少なくなっている。

図 2-53 令和元年11月～令和2年1月 シャトルバス利用者(職員除く)平均人数

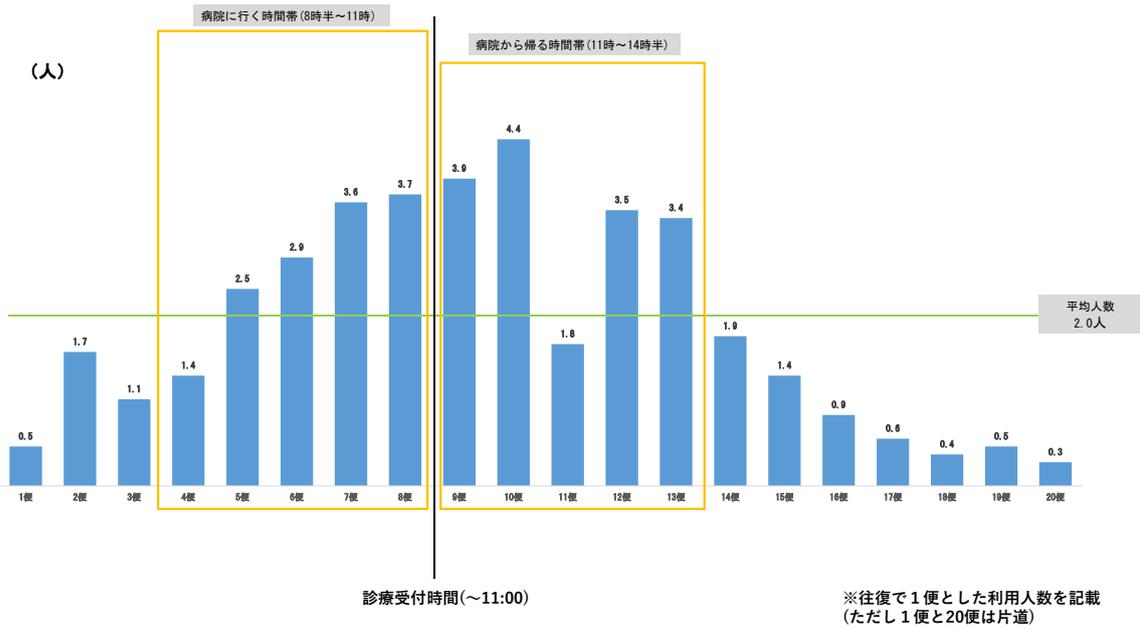
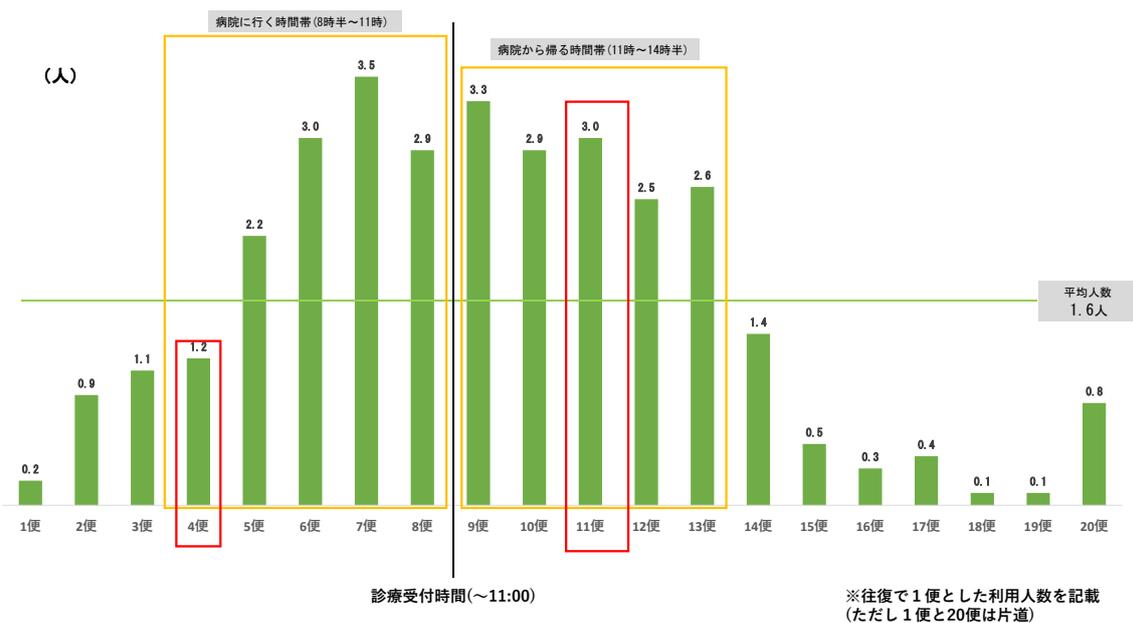


図 2-54 令和2年11月～令和3年1月 シャトルバス利用者(職員除く)平均人数



(イ) 4町からのアクセス

広陵町が運営するコミュニティバス「広陵元気号」は1～2時間おきに1本乗り入れているが、診療受付時間に対応するのは2便のみとなっている。以前は奈良交通株式会社の国保中央病院線（田原本バスセンター～国保中央病院）が運行されていたものの、平成29年3月末をもって運行休止となった。

現在、無料送迎シャトルバスを中心とした交通体系は、国保中央病院を運営する4町のアクセスを網羅できておらず、アクセス格差が生じている状況である。4町ではいずれも高齢化が進展しており、また高齢者の免許返納が進みつつある中で、代替の交通手段の確保が課題となっている。特に病院へのアクセス利便性向上は住民からも望まれており、周辺病院のように幅広い方面からバスを運行させるなど、アクセスを拡充していくことなどを検討する必要がある。なお、4町の高齢化率、一世帯当たり自家用乗用車数、公共交通状況は下記の通りである。

表 2-6 4町の高齢化率、自家用乗用車数、公共交通状況等について

| | 広陵町 | 田原本町 | 三宅町 | 川西町 |
|--------------------|---|---|---------------------------------|-----------------|
| 高齢化率(H27) | 23.4% | 28.9% | 32.9% | 30.8% |
| 高齢化率(R27 予測) | 35.5% | 39.9% | 49.0% | 40.4% |
| 一世帯当たり自家用乗用車数(H31) | 1.31 台 | 1.37 台 | 1.25 台 | 1.22 台 |
| 鉄道 | 1 駅(箸尾) | 4 駅(黒田、田原本、西田原本、笠縫) | 2 駅(石見、但馬) | 1 駅(結埼) |
| 路線バス | 奈良交通路線バス 5 路線 | — | — | — |
| コミュニティバス | 広陵元気号 3 路線 | — | — | こすもす号 |
| タクシー | 民間タクシー ※助成なし | デマンド型乗り合いタクシー「ももたろう号」H30.6 月廃止 H30.7 開始タワラモトンタクシー利用助成有 | 地域公共交通タクシー補助有 | 民間タクシー ※助成なし |
| 備考 | 元気号中央幹線は、通院利用者が22.7%と高く、高齢者の病院へ行く足になっている。 | タクシー助成制度を活用し、通院を行っている高齢者が多い。要望としては、タクシーが一番多く、ついでバス等である。 | 国保中央病院へのアクセスとして、タクシーが多く利用されている。 | |

出典：各種 HP などから作成

(ウ) 周辺病院とのアクセス比較

国保中央病院と周辺病院のバスの路線数と便数は下表の通りである。

天理よろづ相談所病院は路線数、便数ともに多く、アクセス利便性の良さが見て取れる。服部記念病院や土庫病院は、便数はそこまで多くはないものの、送迎バスを幅広い方面へ走行させることで周辺地域からのアクセスを担保している。

これら周辺病院の路線数、便数と比較すると、国保中央病院は路線数が少なく、特定の場所からのアクセスに限定されていることがわかる。

表 2-7 周辺病院とのアクセス比較

| 病院名 | 路線バス/コミュニティバス | | | 送迎バス | | |
|------------|---------------|----------------|----------|------|--|-----------|
| | 路線数 | | 便数(往路のみ) | 路線数 | | 便数(往路/復路) |
| 国保中央病院 | 1 | 広陵元気号 | 4 | 1 | 近鉄田原本駅～国保中央病院 | 38(19/19) |
| 天理よろづ相談所病院 | 3 | 64 系統 | 5 | 3 | 東病棟 | 13 |
| | | 50,65 系統 | 29 | | 本館 | 37 |
| | | 18,21,38,39 系統 | 6 | | 白川分院 | 24 |
| 服部記念病院 | 0 | — | — | 7 | 広陵・五位堂送迎 | 2 (1/1) |
| | | | | | 桜ヶ丘～王寺送迎 | 2 (1/1) |
| | | | | | 馬見・五位堂・真美ヶ丘送迎 | 2 (1/1) |
| | | | | | 片岡台～王寺～明神方面 | 2 (1/1) |
| | | | | | 病院⇔志都美方面 | 15(8/7) |
| | | | | | 病院⇔王寺駅直行便 | 6 (3/3) |
| | | | | | 病院⇔近鉄五位堂駅直行便 | 6 (3/3) |
| 土庫病院 | 0 | — | — | 3 | 病院～日の出診療所～近鉄大和高田駅～JR 高田駅～近鉄大和高田駅～日の出診療所～病院 | 4 |
| | | | | | 病院～日の出診療所～近鉄大和高田駅 | 7 |
| | | | | | JR 高田駅～近鉄大和高田駅～日の出診療所～病院 | 8 |

※本数、便数は平日のものとする。

※本数は往路と復路、それぞれ分けてカウントしている。

出典：各種 HP より作成

周辺病院の時間別便数をみると、9時～11時、13時～14時の便数が比較的多くなっており、それぞれ病院へ向かう時間帯、病院から帰る時間帯に相当すると考えられる。

表 2-8 各病院の時間帯別バスの本数

| 時間帯 | 国保中央病院 | | 天理よろづ相談所病院 | 服部記念病院 | | 土庫病院 | |
|------|--------|----|------------|--------|----|------|----|
| | 往路 | 復路 | 往路 | 往路 | 復路 | 往路 | 復路 |
| 7時台 | 2本 | 1本 | 6本 | | | | |
| 8時台 | 3本 | 3本 | 3本 | 2本 | | 1本 | |
| 9時台 | 2本 | 1本 | 4本 | 3本 | 2本 | 2本 | 2本 |
| 10時台 | 3本 | 2本 | 4本 | 4本 | 1本 | | 1本 |
| 11時台 | 1本 | 1本 | 4本 | 3本 | 1本 | 2本 | 2本 |
| 12時台 | 3本 | 2本 | 2本 | 2本 | 1本 | 1本 | 1本 |
| 13時台 | 1本 | 1本 | 2本 | 2本 | 4本 | 2本 | 2本 |
| 14時台 | 2本 | 1本 | 2本 | 3本 | 4本 | 1本 | 1本 |
| 15時台 | 1本 | 1本 | 4本 | 2本 | 1本 | 1本 | 1本 |
| 16時台 | 1本 | 1本 | 1本 | | | | |
| 17時台 | 2本 | 2本 | 3本 | | | | 1本 |
| 18時台 | 2本 | 3本 | 4本 | | | | |
| 19時台 | | | 1本 | | | | |

※国保中央病院は送迎バスと広陵元気号の合算本数、天理よろづ相談所病院は路線バスの本数、服部記念病院、土庫病院は送迎バスの本数となっている。

※本数、便数は平日のものとする。

※本数は往路と復路、それぞれ分けてカウントしている。

出典：各種HPより作成

2.3. 現況の整理分析のまとめ

(1) 社会情勢

令和 27 年には日本の高齢化率が 30%を越え、今後高齢化に歯止めがかからない状況の中、高齢者の免許返納数の増加が見込まれる。特に公共交通機関がそこまで充実していない地方都市では移動手段を自動車に頼っていることが多く、高齢者が免許返納するとその後の代替の交通手段の確保が課題となっている。

(2) 4 町の現状

4 町においても高齢化が進展しており、令和 27 年(2045 年)の各町の高齢化率は、広陵町 35.5%、田原本町 39.9%、三宅町 49.0%、川西町 40.4%となることが推測されている。高齢者の免許返納数が増加すると、今後受け皿としての移動手段を確保することがますます重要な課題になっている。

表 2-9 4 町の現状のまとめ

| 項目 | 広陵町 | 田原本町 | 三宅町 | 川西町 |
|-----------------------------|---|----------------------------|--------------------|--------------------------------|
| 人口(H27) | 33,487 人 | 31,691 人 | 6,834 人 | 8,485 人 |
| 高齢化率(H27) | 23.4% | 28.9% | 32.9% | 30.8% |
| 高齢化率(R27)予測 | 35.5% | 39.9% | 49.0% | 40.4% |
| 交通 | 鉄道 1 駅、奈良交 通路線バス 5 路 線、コミュニティ バス広陵元気号 3 路線、民間タクシ ー | 鉄道 4 駅、民間タ クシー | 鉄道 2 駅、民間タ クシー | 鉄道 1 駅、コミュ ニティバス、民間 タクシー |
| 交通に係わる制度 or コミュニティバ ス | 広陵元気号 3 路線 | タワラモトンタク シー利用料金助成 制度 | 地域公共交通タク シー補助事業 | 川西こすもす号 |
| 事業費推移 | ほぼ横ばい | 利用者増加に伴い 増加傾向 | 利用者増加に伴い 増加傾向 | ほぼ横ばい |

(3) 無料送迎シャトルバス

現在、近鉄田原本駅⇄国保中央病院の無料送迎シャトルバスが平日は往復 19 便、休日は往復 12 便運行されているが、シャトルバスの利用者は 5 名以下が多く、最大積載人数である 13 名と比較し、少ない状況になっている。病院に行く時間帯(8 時 30 分～11 時)の 4 便における利用者平均(職員除く)人数は 1.2 人～1.4 人と少なく、まだまだ改善の余地がある。

(4) 病院をとりまく環境

患者が医師・医療機関を決める理由で重視する要素として、アクセスの良さが挙げられており、今後高齢者患者を多く獲得するためには、通院の利便性を高めていくことも必要である。

国保中央病院及び他病院のアクセス環境を比較すると表 2-10 の通りとなる。これら周辺病院の路線数、便数と比較すると、国保中央病院は路線数が少なく、特定の場所からのアクセスに限定されていること

がわかる。また、1日当たりに運行している便数が多いことがわかる。

表 2-10 各病院のアクセス環境

| | 国保中央病院 | 天理よろづ | 服部記念病院 | 土庫病院 |
|-----------|--------|--------------------------------------|--------|--------|
| 路線数 | 1 | 路線バスが7系統 接続 シャトルバスは病 院間移動のみ | 7 | 1 |
| 便数 | 19 | | 2 | 11 |
| 病床数 | 220 | 715 | 162 | 199 |
| 最寄り駅からの距離 | 1.2km | 1.0km | 1.7km | 0.85km |

3. アンケート調査

今後の地域の交通環境の向上に向けた課題の抽出や方策の検討を行うに当たり、基礎資料とするために、「国保中央病院への交通に係るアンケート」、「通院を中心とした公共交通の利用に係る4町アンケート」、「無料送迎シャトルバス利用者アンケート」の3つを実施した。

3.1. 国保中央病院への交通に係るアンケート

3.1.1. 調査概要

通院やお見舞いなどで国保中央病院に来院している人に対して、来院時に利用している交通手段や困りごとなどを聞き、今後の地域の交通環境の向上に向けた課題の抽出や方策の検討を行うため、国保中央病院への交通に係るアンケート調査を実施した。

表 3-1 調査方法などの概要

| | |
|------|------------------|
| 調査期間 | 令和2年10月26日～11月8日 |
| 調査対象 | 国保中央病院への来院者 |
| 調査方法 | 病院の窓口での依頼・回収 |
| 回収数 | 392 サンプル |

3.1.2. 調査結果の概要

(1) 国保中央病院の利用について

■川西町、三宅町、田原本町の8割以上の方が自宅から近いため国保中央病院を利用。広陵町で、自宅から近いからを挙げている人は約5割にとどまる。

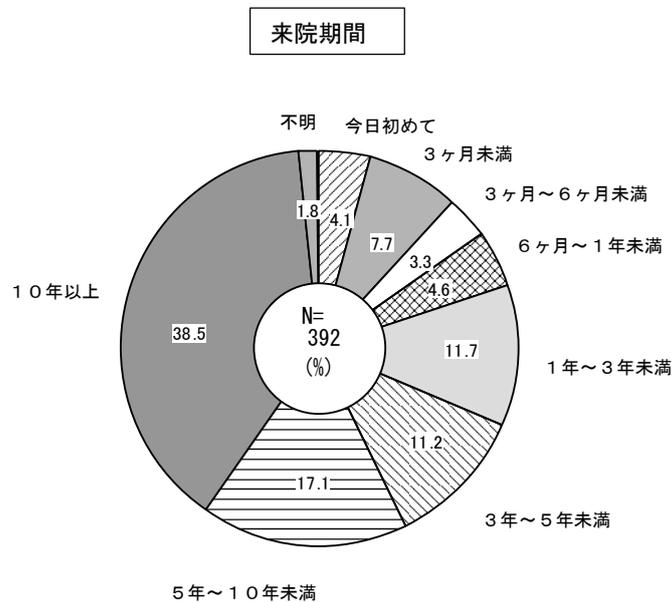
国保中央病院来院者に、国保中央病院を選ぶ理由について聞いたところ「自宅から近いから」が71.2%で最も多く、続いて「受診したい診療科があるから」が32.1%、「信頼できる医師がいるから」が30.6%などとなっている。国保中央病院を選ぶ理由について居住地別に見たところ、川西町、三宅町、田原本町、広陵町で「自宅から近いから」が最も多くなっている。全体平均(TOTAL)と比べて三宅町及び広陵町では、「受診したい診療科があるから」が、川西町及びその他では、「信頼できる医師がいるから」が多くなっている。

| 国保中央病院を選ぶ理由(居住地別) | | (%) | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-------|----------|---------------|--------------|------------------|-------------|---------------|-------------------|--------------------|----------------------|-------------------|--------------|-----|-----|--|
| | TOTAL | 自宅から近いから | 受診したい診療科があるから | 信頼できる医師がいるから | 良い自宅からの交通の便があるから | 他院から紹介されたから | 医療設備が充実しているから | 受診したい時間帯に診療しているから | 他院よりも混まず、待ち時間がないから | 救急で受診したから、または搬送されたから | 親族等が利用している(通院・入院) | 病院内のロコミが良いから | その他 | 不明 | |
| TOTAL | 392 | 71.2 | 32.1 | 30.6 | 16.1 | 14.5 | 13.5 | 8.2 | 7.1 | 4.8 | 4.8 | 2.0 | 3.1 | 0.8 | |
| 川西町 | 23 | 82.6 | 26.1 | 39.1 | 4.3 | 13.0 | 17.4 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 8.7 | 4.3 | 4.3 | 0.0 | |
| 三宅町 | 56 | 87.5 | 44.6 | 23.2 | 17.9 | 8.9 | 17.9 | 7.1 | 5.4 | 3.6 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | |
| 田原本町 | 167 | 86.2 | 28.7 | 27.5 | 16.2 | 15.6 | 9.6 | 10.2 | 7.2 | 3.6 | 4.8 | 0.6 | 1.8 | 0.0 | |
| 広陵町 | 37 | 51.4 | 43.2 | 32.4 | 18.9 | 13.5 | 16.2 | 5.4 | 8.1 | 2.7 | 8.1 | 0.0 | 8.1 | 0.0 | |
| その他 | 47 | 21.3 | 23.4 | 44.7 | 12.8 | 25.5 | 12.8 | 2.1 | 12.8 | 10.6 | 10.6 | 8.5 | 8.5 | 0.0 | |

(注) 網掛けはTOTALと比較して3ポイント以上のもの。表側の不明サンプルは除く。

■来院期間が長い人が多い

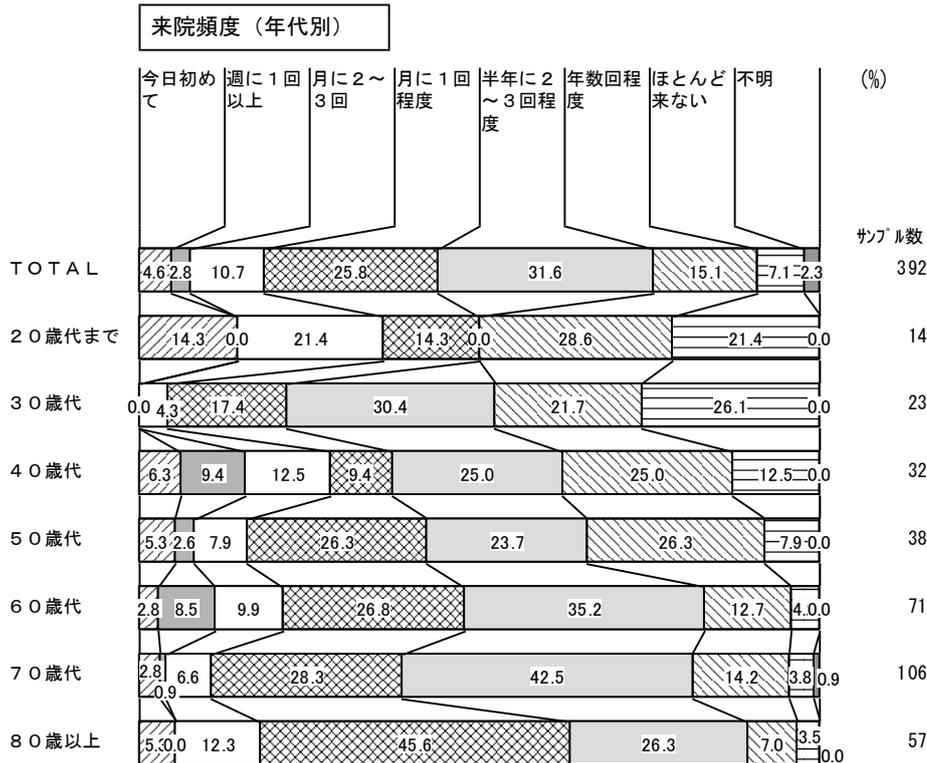
国保中央病院来院者に、現在までの来院期間について聞いたところ「10年以上」が38.5%で最も多く、続いて「5～10年未満」が17.1%、「1年～3年未満」が11.7%などとなっている。



■60歳以上の来院頻度は多い

国保中央病院来院者に、来院頻度について聞いたところ「半年に2～3回程度」が31.6%で最も多く、続いて「月に1回程度」が25.8%、「年数回程度」が15.1%などとなっている。

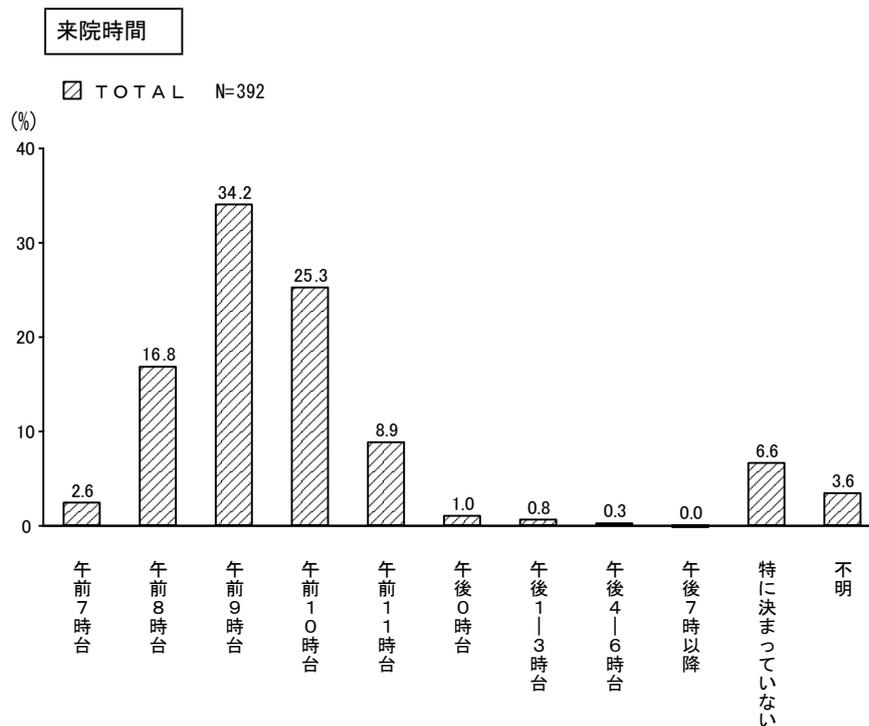
来院頻度について年代別に見たところ、20歳台までは「年数回程度」、30歳台では「半年に2～3回程度」、40歳台では「半年に2～3回程度」及び「年数回程度」、50歳台では「月1回程度」、60歳台及び70歳台では「半年に2～3回程度」、そして80歳台で「月に1回程度」が最も多くなっている。



(注)表側の不明サンプルは除く。

■来院時間は午前9時台、午前10時台が多い

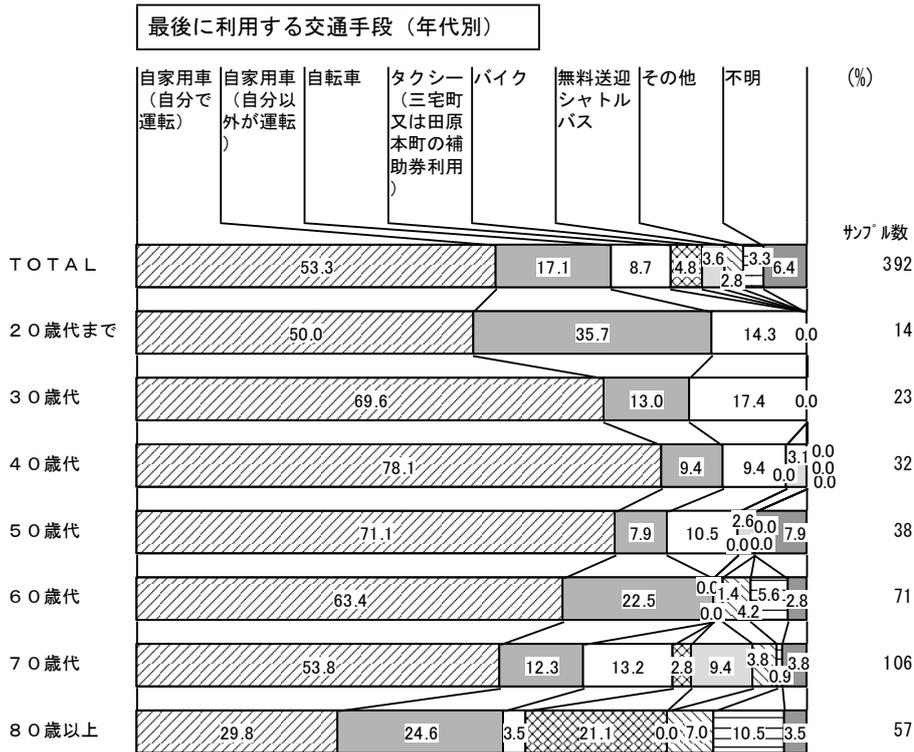
国保中央病院来院者に、来院時間について聞いたところ「午前9時台」が34.2%で最も多く、続いて「午前10時台」が25.3%、「午前8時台」が16.8%などとなっている。



■最後に利用する交通手段は自家用車が多く、高齢者になるにつれ、自家用車(自分で運転)が減少し、タクシーや無料送迎シャトルバスの割合が高くなる

国保中央病院来院者に、最後に利用する交通手段について聞いたところ「自家用車 自分で運転」が53.3%で最も多く、続いて「自家用車 自分以外が運転」が17.1%、「自転車」が8.7%などとなっている。

最後に利用する交通手段について年代別に見たところ、いずれの年代でも「自家用車 自分で運転」が最も多くなっているが、全体平均(TOTAL)と比べて20歳代まで、60歳代及び80歳代以上で「自家用車 自分以外が運転」が多くなっている。



(注) 表側の不明サンプルは除く。

(2) 無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由

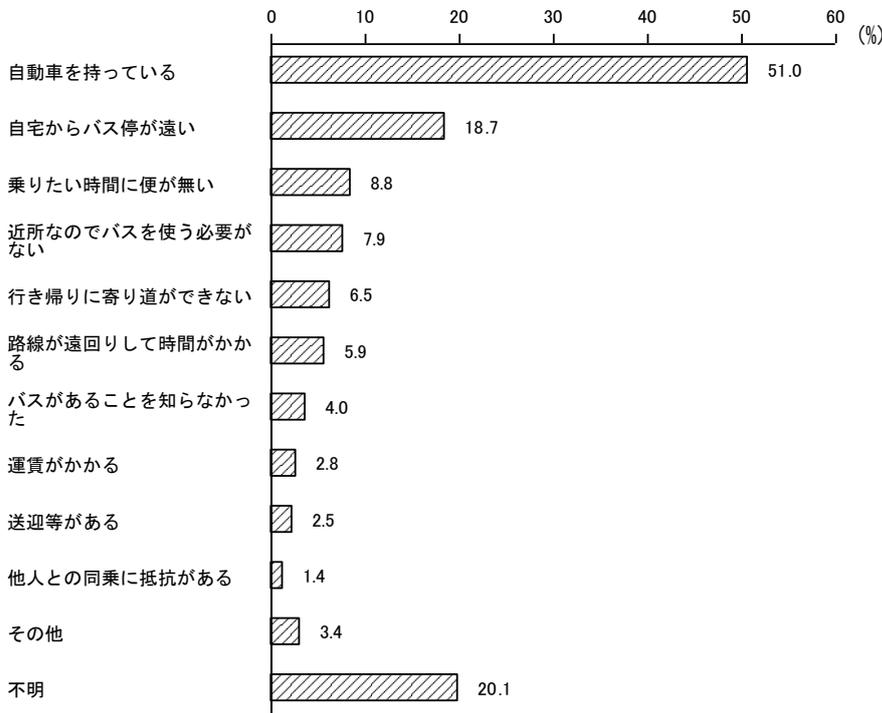
■無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由は自動車を持っているからが多いが、バスルートや時間帯の工夫等、改善の余地がある

国保中央病院来院者に、無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由について聞いたところ「自動車を持っている」が51.0%で最も多く、続いて「自宅からバス停が遠い」が18.7%、「乗りたい時間に便が無い」が8.8%などとなっている。

無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由について居住地別に見たところ、いずれの居住地でも「自動車を持っている」が最も多くなっているが、全体平均(TOTAL)と比べて田原本町で「自宅からバス停が遠い」が、川西町及び広陵町で「乗りたい時間に便がない」及び「路線が遠回りして時間がかかる」が多くなっている。

無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由

☑ TOTAL N=353



無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由(居住地別)

| | TOTAL | 自動車を持っている | 自宅からバス停が遠い | 乗りたい時間に便が無い | 近所なのでバスを使う必要がない | 行き帰りに寄り道ができない | 路線が遠回りして時間がかかる | バスがあることを知らなかった | 運賃がかかる | 送迎等がある | 他人との同乗に抵抗がある | その他 | 不明 |
|-------|-------|-----------|------------|-------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|--------|--------|--------------|-----|------|
| TOTAL | 353 | 51.0 | 18.7 | 8.8 | 7.9 | 6.5 | 5.9 | 4.0 | 2.8 | 2.5 | 1.4 | 3.4 | 20.1 |
| 川西町 | 20 | 70.0 | 15.0 | 15.0 | 5.0 | 10.0 | 20.0 | 5.0 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | 0.0 | 10.0 |
| 三宅町 | 54 | 50.0 | 11.1 | 9.3 | 11.1 | 7.4 | 5.6 | 5.6 | 1.9 | 1.9 | 1.9 | 3.7 | 22.2 |
| 田原本町 | 154 | 50.0 | 25.3 | 3.2 | 11.7 | 5.8 | 1.9 | 2.6 | 3.9 | 2.6 | 1.3 | 3.2 | 18.2 |
| 広陵町 | 34 | 47.1 | 20.6 | 32.4 | 0.0 | 11.8 | 23.5 | 0.0 | 2.9 | 0.0 | 2.9 | 5.9 | 14.7 |
| その他 | 46 | 67.4 | 15.2 | 8.7 | 2.2 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 0.0 | 2.2 | 0.0 | 21.7 |

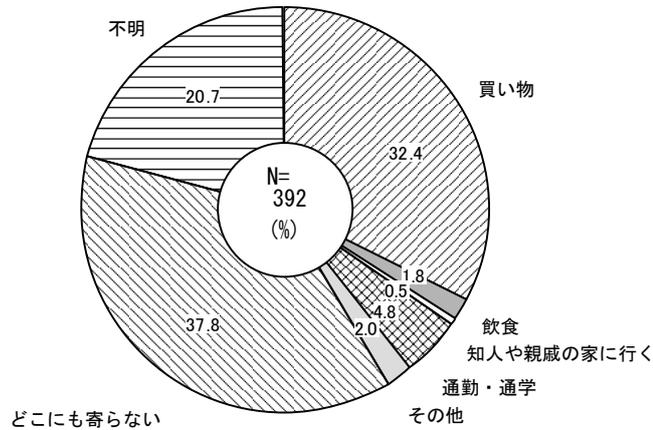
(注)網掛けはTOTALと比較して3ポイント以上のもの。表側の不明サンプルは除く。

(3) 病院の帰りに行く別の用事

■病院の帰りに行く別の用事は、買い物が3割以上

国保中央病院来院者に、病院の帰りに行く別の用事について聞いたところ「どこにも寄らない」が37.8%で最も多く、続いて「買い物」が32.4%、「通勤・通学」が4.8%などとなっている。

病院の帰りに行う別の用事



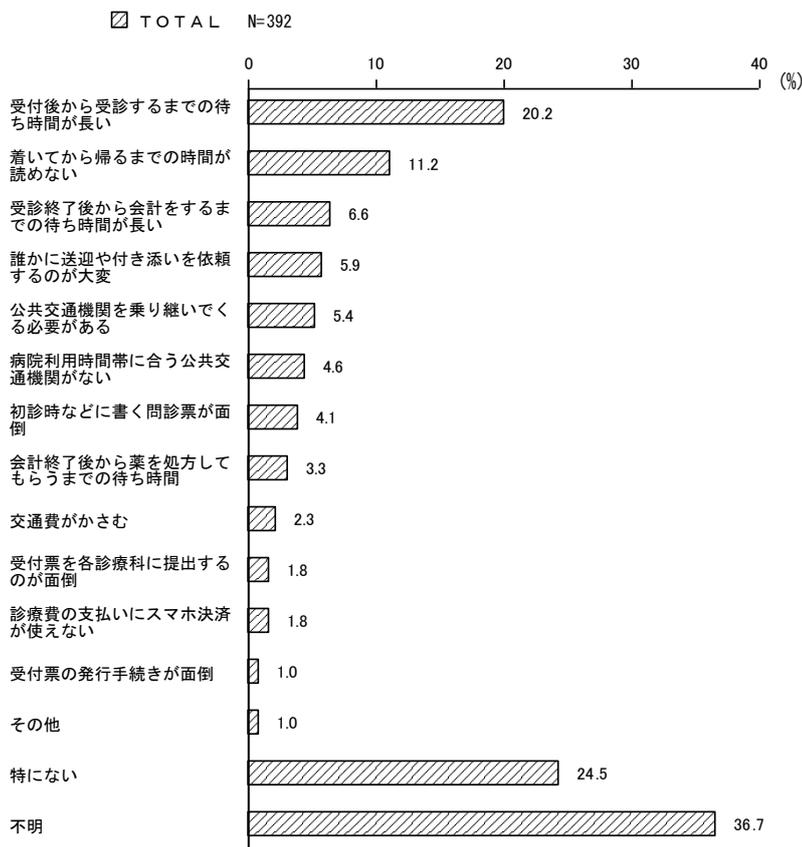
(4) 病院に関する困りごと

■病院に関する困りごとのうち、無料送迎シャトルバスや広陵元気号の運行改善により、下記の項目が解消された場合、無料送迎シャトルバスや広陵元気号の利用意向が高くなる。

- ✓ 公共交通機関を乗り継いでくる必要がある
- ✓ 病院利用時間帯に合う公共交通機関がない

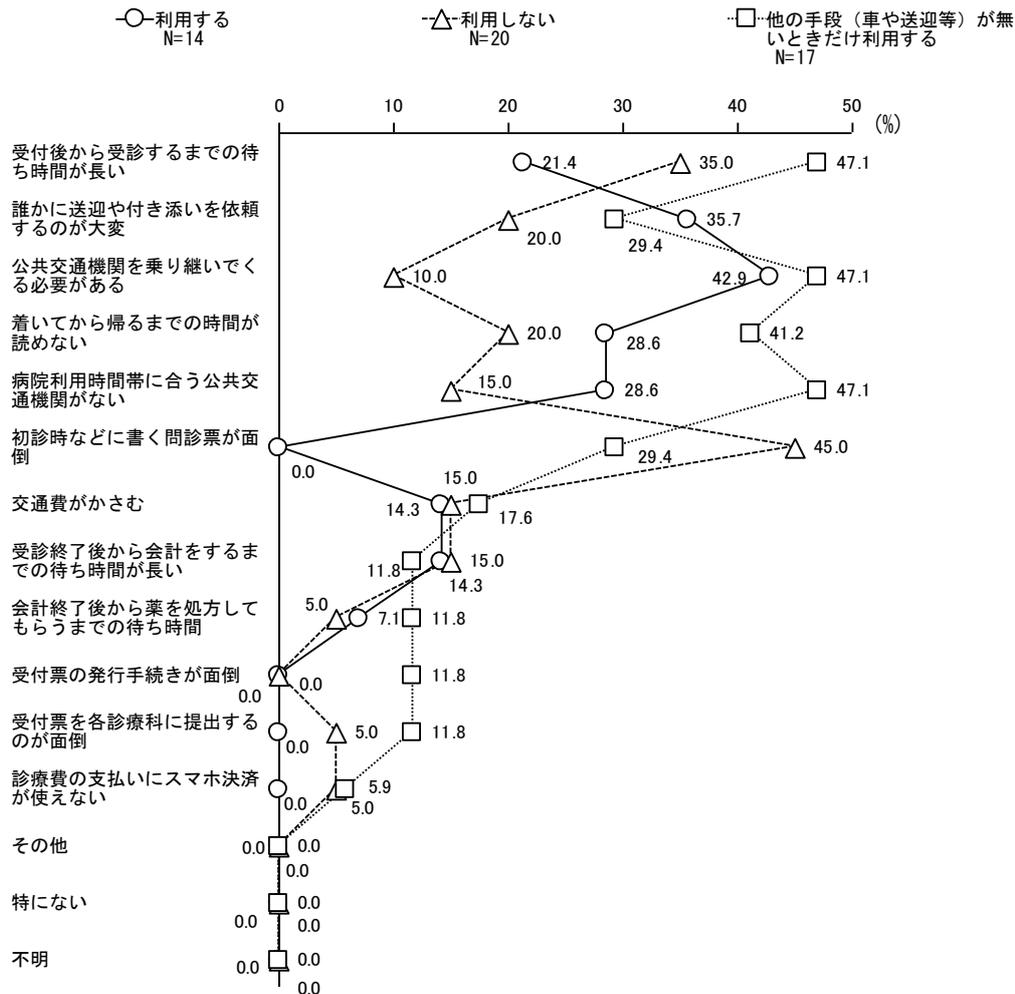
国保中央病院来院者に、当院及び通院に関する困りごとについて聞いたところ「特にない」が24.5%で最も多く、続いて「受付後から受診するまでの待ち時間が長い」が20.2%、「着いてから帰るまでの時間が読めない」が11.2%などとなっている。

病院に関する困りごと



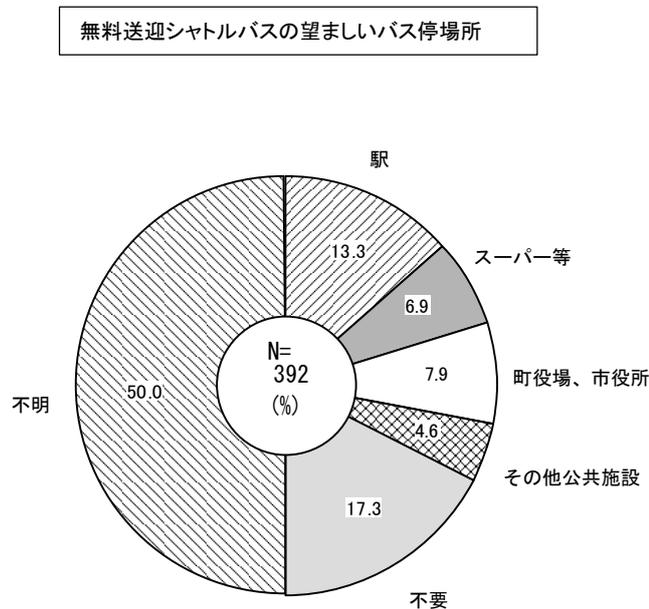
当院及び通院に関する困りごとについて、現行バスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向別に見たところ、利用するで「公共交通機関を乗り継いでくる必要がある」、「誰かに送迎や付き添いを依頼するのが大変」が、他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用するで「受付後から受診するまでの待ち時間が長い」、「公共交通機関を乗り継いでくる必要がある」、「病院利用時間帯に合う公共交通機関がない」が多くなっている。

病院に関する困りごと（現行バスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向別）



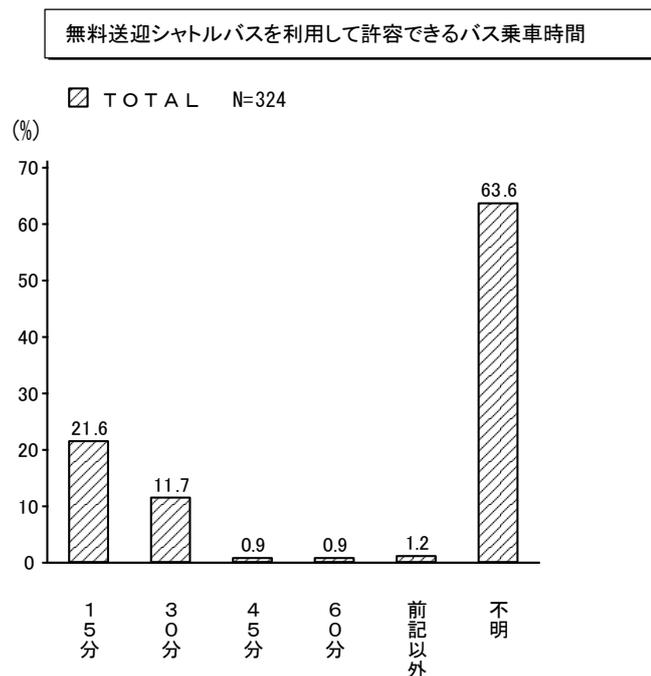
(5) 無料送迎シャトルバスのこれからのあり方について

■無料シャトルバスのバス停を設置する場合、望ましいと思うバス停の場所は、駅、スーパー等、町役場
 国保中央病院来院者に、無料送迎シャトルバスの望ましいバス停場所について聞いたところ「不要」が
 17.3%で最も多く、続いて「駅」が13.3%、「町役場、市役所」が7.9%などとなっている。



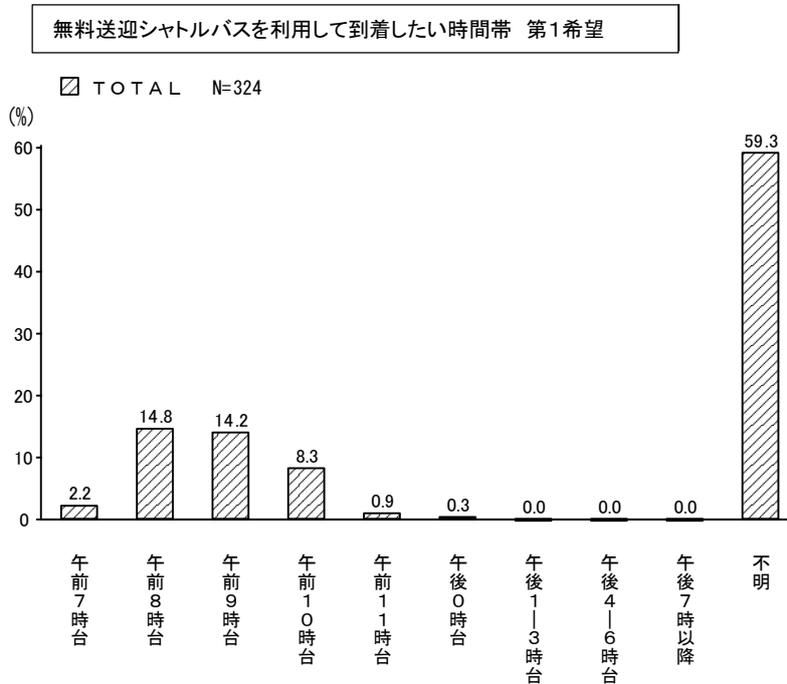
■許容できるバスの乗車時間は30分以内が多い

国保中央病院来院者に、無料送迎シャトルバスを利用して許容できるバス乗車時間について聞いたところ「15分」が21.6%で最も多く、続いて「30分」が11.7%、「45分」及び「60分」が0.9%などとなっている。



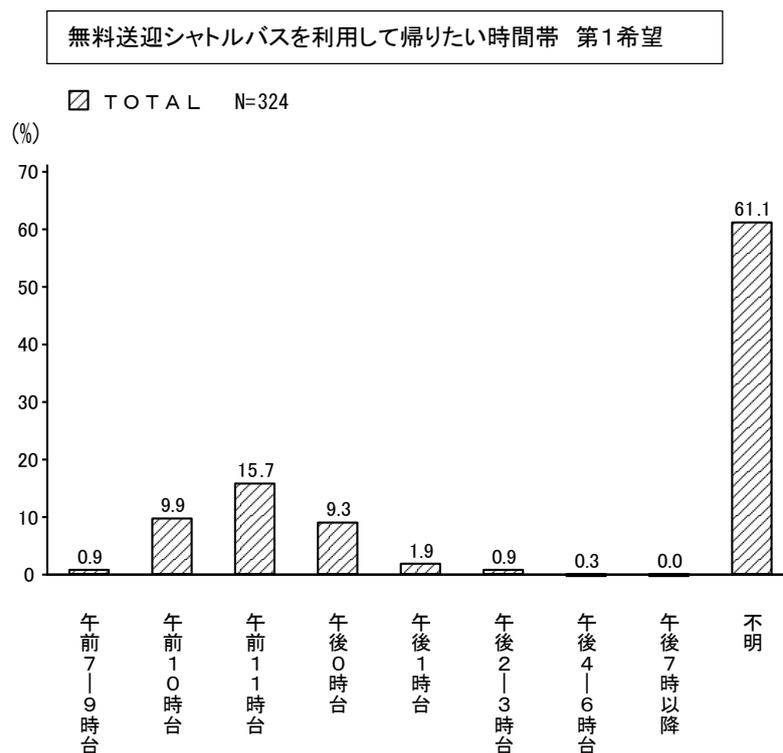
■病院に着きたい時間帯の第1希望は、午前8時台、午前9時台が多い

国保中央病院来院者に、無料送迎シャトルバスに乗車して病院に着きたい時間帯について聞いたところ、第1希望は「午前8時台」が14.8%で最も多く、続いて「午前9時台」が14.2%、「午前10時台」が8.3%などとなっている。



■病院から帰りたい時間帯の第1希望は、午前11時台、午前10時台が多い

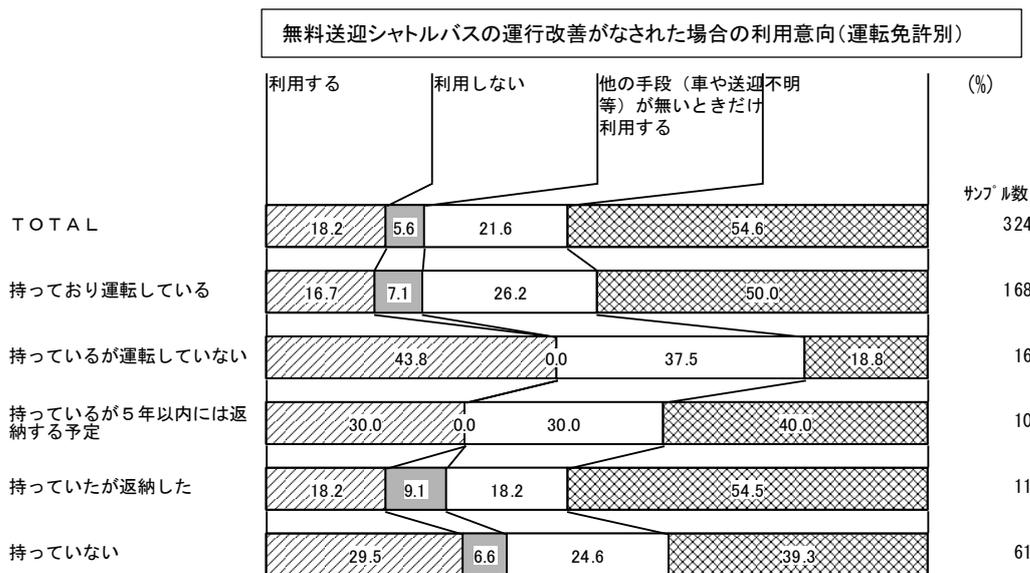
国保中央病院来院者に、無料送迎シャトルバスを利用して帰りたい時間帯について聞いたところ、第1希望は「午前11時台」が15.7%で最も多く、続いて「午前10時台」が9.9%、「午後0時台」が9.3%などとなっている。



■無料送迎シャトルバスが改善された場合のバスの利用意向は2割弱。他の手段が無い時だけ利用するも2割強。運転免許を持っていない人の利用意向は約3割。

国保中央病院来院者に、無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向について聞いたところ、「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が21.6%で最も多く、続いて「利用する」が18.2%、「利用しない」が5.6%などとなっている。

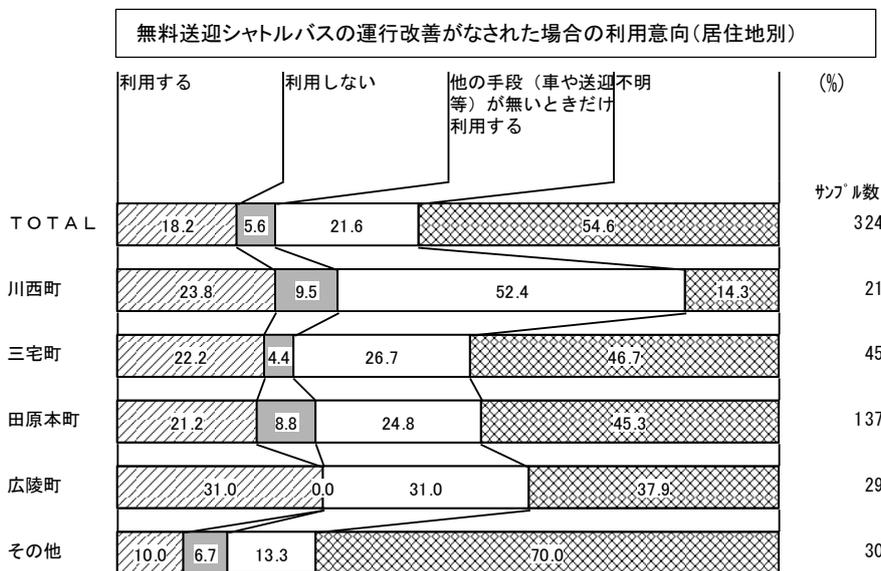
無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向について運転免許別に見てみると、持っており運転しているで「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が、持っているが運転していない及び持っていないで「利用する」が、持っているが5年以内には返納する予定及び持っていたが返納したで「利用する」及び「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が多くなっている。



(注)表側の不明サンプルは除く。

■無料送迎シャトルバスが改善された場合のバスの利用意向は広陵町が他町と比較して高い。他の手段が無い時だけ利用するは、川西町で5割強、広陵町で約3割と高い。

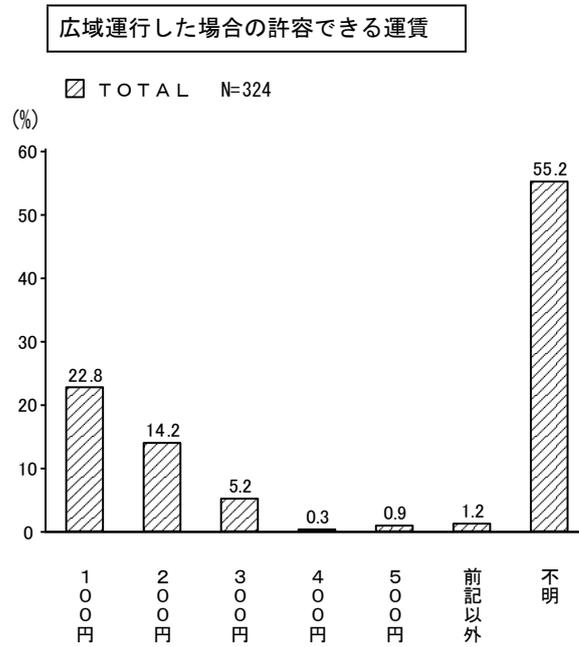
無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向について居住地別に見てみると、いずれの居住地でも「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が多くなっている。広陵町では「利用する」も同一で多くなっている。



(注)表側の不明サンプルは除く。

■広域運行で望む運賃は200円以内が4割弱、不明が半数

国保中央病院来院者に、広域運行した場合の許容できる運賃について聞いたところ、「100円」が22.8%で最も多く、続いて「200円」が14.2%、「300円」が5.2%などとなっている。



3.2. 通院を中心とした公共交通の利用に係る 4 町アンケート

3.2.1. 調査概要

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に対して国保中央病院や無料シャトルバスの利用状況、交通手段や困りごとなどを聞き、4 町で運営する国保中央病院を拠点とした地域間アクセスの向上に向けた課題の抽出や方策の検討を行うため、通院を中心とした公共交通の利用に係る 4 町アンケート調査を実施した。

表 3-2 調査方法などの概要

| | |
|----------|----------------------------|
| 調査期間 | 令和 2 年 10 月 30 日～11 月 16 日 |
| 調査対象 | 川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民 |
| 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| 回収数(回収率) | 721 サンプル (48.1%) |

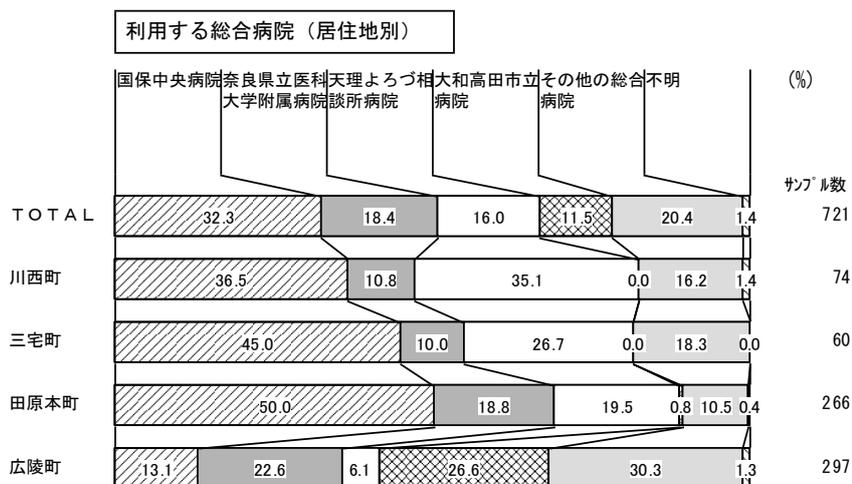
3.2.2. 調査結果の概要

(1) 総合病院の利用状況等について

■田原本町、三宅町、川西町では、国保中央病院の利用者が多く、広陵町は大和高田市立病院の利用者が多い

川西町、三宅町、田原本町、広陵町の住民に、通院で利用する総合病院について聞いたところ「国保中央病院」が 32.3%で最も多く、続いて「奈良県立医科大学附属病院」が 18.4%、「天理よろづ相談所病院」が 16.0%などとなっている。

通院で利用する総合病院について居住地別に見たところ、川西町、三宅町、田原本町で「国保中央病院」が最も多くなっているが、広陵町は「大和高田市立病院」が最も多くなっている。



(注) 表側の不明サンプルは除く。

■国保中央病院の選択理由は自宅から近いからが多い

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、通院で利用する総合病院の選択理由について聞いたところ「自宅から近いから」が45.9%で最も多く、続いて「受診したい診療科があるから」が33.6%、「医療設備が充実しているから」が29.0%などとなっている。

通院で利用する総合病院の選択理由について利用する総合病院別に見たところ、国保中央病院及び大和高田市立病院では、「自宅から近いから」が最も多く、奈良県立医科大学附属病院、天理よろづ相談所病院では「医療設備が充実しているから」が最も多くなっている。奈良県立医科大学附属病院、天理よろづ相談所病院では「受診したい診療科があるから」、「他院から紹介されたから」、「信頼できる医師がいるから」が相対的に多くなっている。

利用する総合病院選択理由(利用する総合病院別)

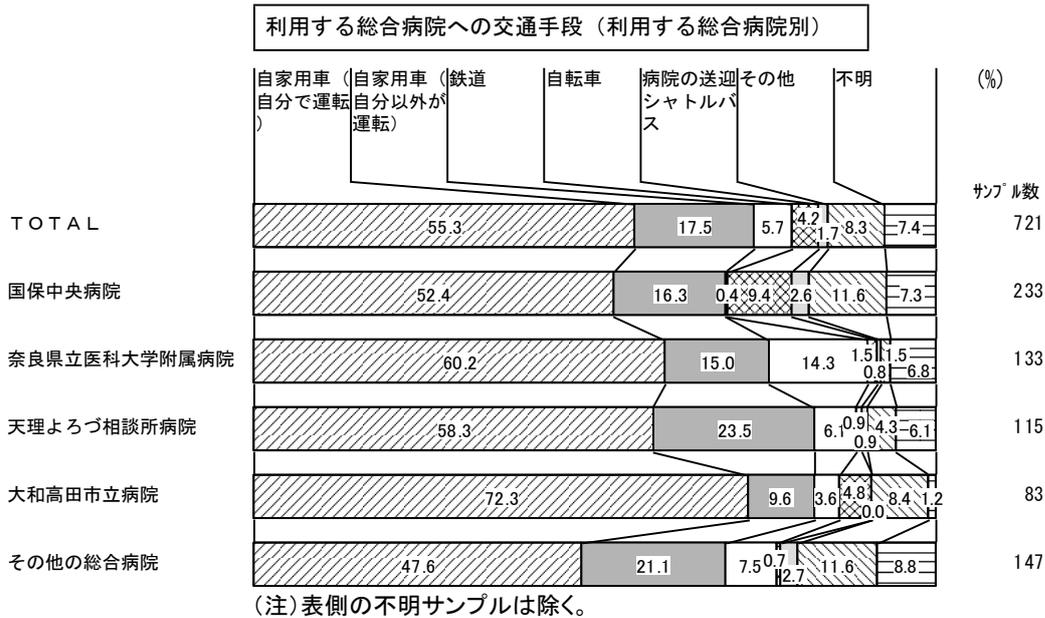
| | TOTAL | 自宅から近いから | 受診したい診療科があるから | 医療設備が充実しているから | 他院から紹介されたから | 信頼できる医師がいるから | 自宅からの交通の便が良いから | 救急で受診または搬送されたから | 病院のロコミが良いから | 受診したい時間帯に診療しているから | 他院よりも混まず、待ち時間が少ないから | 自宅付近から送迎バスが走っているから | その他 | 不明 |
|--------------|-------|----------|---------------|---------------|-------------|--------------|----------------|-----------------|-------------|-------------------|---------------------|--------------------|------|-----|
| TOTAL | 721 | 45.9 | 33.6 | 29.0 | 20.4 | 18.0 | 14.3 | 9.3 | 6.7 | 4.7 | 4.0 | 3.2 | 9.2 | 1.9 |
| 国保中央病院 | 233 | 85.0 | 29.2 | 9.9 | 11.6 | 6.4 | 17.6 | 6.9 | 3.0 | 4.3 | 7.7 | 7.3 | 3.9 | 0.0 |
| 奈良県立医科大学附属病院 | 133 | 11.3 | 36.8 | 59.4 | 34.6 | 29.3 | 9.8 | 7.5 | 8.3 | 1.5 | 1.5 | 0.0 | 12.0 | 0.0 |
| 天理よろづ相談所病院 | 115 | 18.3 | 41.7 | 53.0 | 24.3 | 21.7 | 8.7 | 14.8 | 19.1 | 4.3 | 0.0 | 0.9 | 8.7 | 3.5 |
| 大和高田市立病院 | 83 | 62.7 | 38.6 | 19.3 | 20.5 | 15.7 | 16.9 | 3.6 | 2.4 | 3.6 | 2.4 | 0.0 | 12.0 | 0.0 |
| その他の総合病院 | 147 | 30.6 | 30.6 | 20.4 | 19.7 | 25.2 | 16.3 | 14.3 | 4.1 | 9.5 | 4.8 | 3.4 | 14.3 | 0.7 |

(注) 網掛けは TOTAL と比較して 3 ポイント以上のもの。表側の不明サンプルは除く。

■国保中央病院への交通手段は自家用車(自分で運転)が約半数と多い

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、通院で利用する総合病院への交通手段について聞いたところ「自家用車 自分で運転」が55.3%で最も多く、続いて「自家用車 自分以外が運転」が17.5%、「鉄道」が5.7%などとなっている。

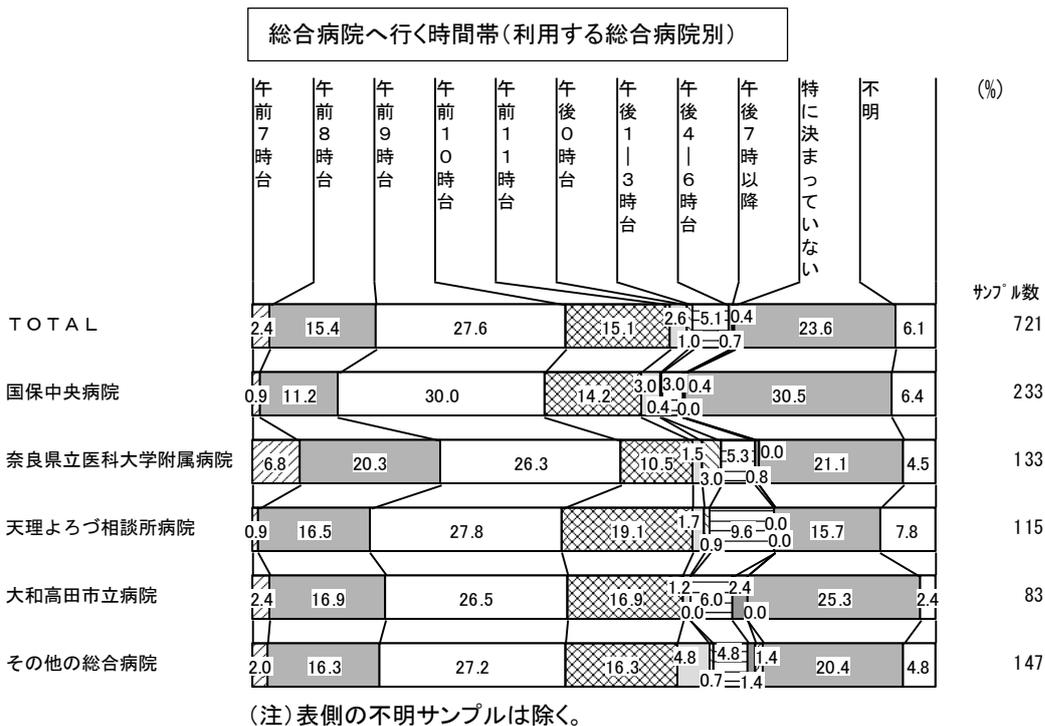
通院で利用する総合病院への交通手段について利用する総合病院別に見たところ、いずれの病院においても「自家用車 自分で運転」が最も多くなっているが、天理よろづ相談所病院では、「自家用車 自分以外が運転」が、奈良県立医科大学附属病院では「鉄道」が相対的に多くなっている。



■国保中央病院へ行く時間帯は、特に決まっていな及び午前9時台が約3割と多い

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、通院で利用する総合病院へ行く時間について聞いたところ「午前9時台」が27.6%で最も多く、続いて「特に決まっていない」が23.6%、「午前8時台」が15.4%などとなっている。

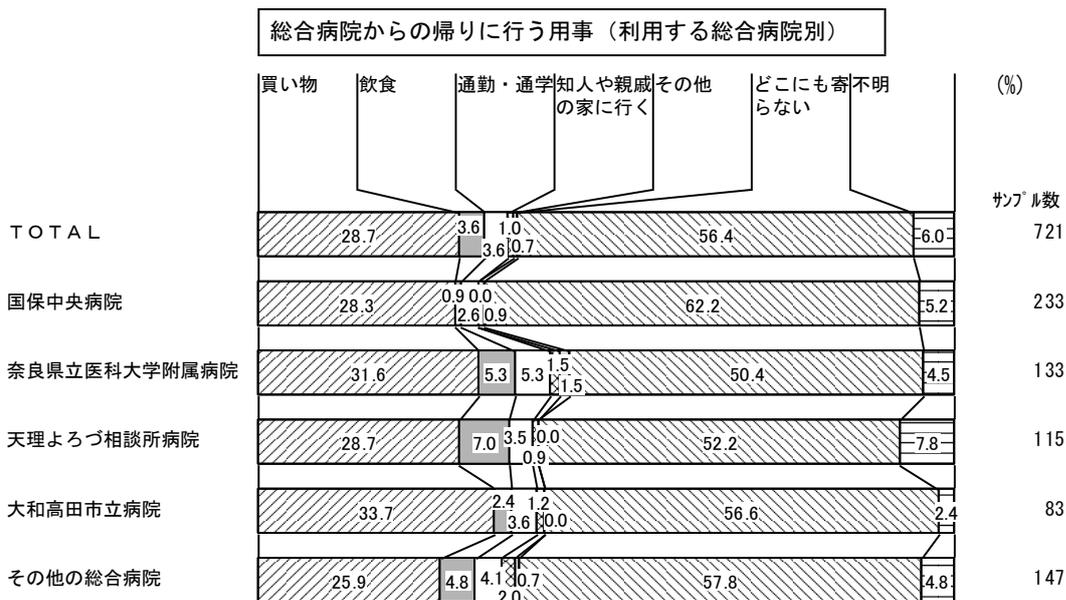
通院で利用する総合病院へ行く時間について利用する総合病院別に見たところ、国保中央病院では「特に決まっていない」が、国保中央病院以外の病院では「午前9時台」が多くなっている。国保中央病院及び大和高田市立病院で「特に決まっていない」が、奈良県立医科大学付属病院で「午前8時台」が、天理よろづ相談所病院で「午前11時台」が相対的に多くなっている。



■国保中央病院の帰りに行う用事は、どこにもよらないが約6割、買い物が約3割

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、通院で利用する総合病院の帰りに行う別の用事について聞いたところ「どこにも寄らない」が56.4%で最も多く、続いて「買い物」が28.7%、「飲食」が3.6%などとなっている。買い物と答えた人の内訳を見てみると「オークワ田原本インター店」が14.0%で最も多く、続いて「近鉄百貨店」が7.7%、「万代」が5.8%などとなっている。

通院で利用する総合病院の帰りに行う別の用事について利用する総合病院別に見たところ、いずれの病院でも「どこにも寄らない」が最も多くなっている。奈良県立医科大学附属病院では「買い物」が、天理よろづ相談所病院では「飲食」が相対的に多くなっている。

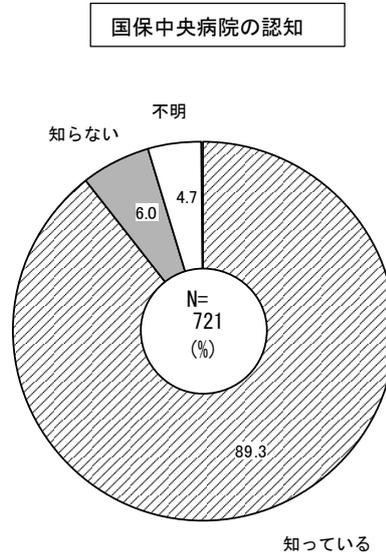


(注) 表側の不明サンプルは除く。

(2) 国保中央病院、無料送迎シャトルバスの利用について

■国保中央病院の認知度は比較的高い

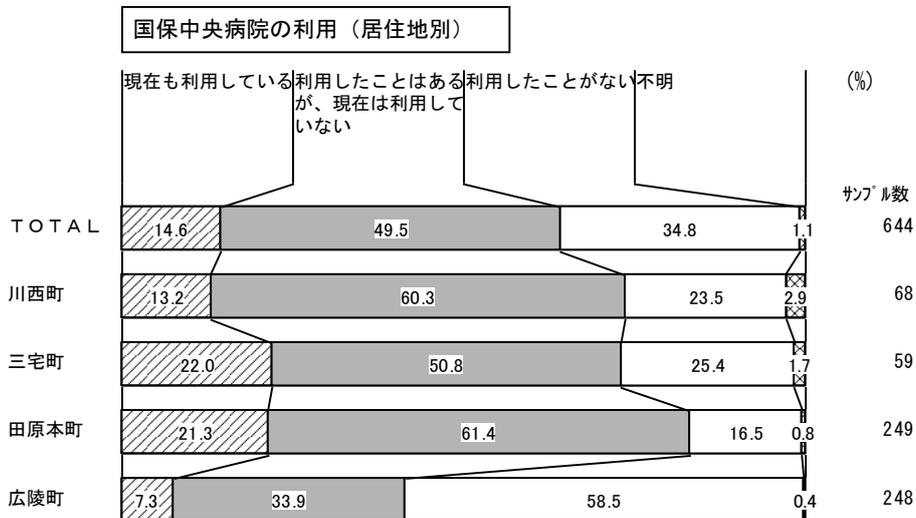
川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、国保中央病院の認知について聞いたところ「知っている」が89.3%で最も多く、「知らない」が6.0%などとなっている。



■国保中央病院を利用したことがない割合は、三宅町、川西町及び田原本町では2割前後にとどまるが、広陵町は約6割の人が利用したことがない状況が多い

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、国保中央病院の利用有無について聞いたところ「利用したことはあるが、現在は利用していない」が49.5%で最も多く、続いて「利用したことがない」が34.8%、「現在も利用している」が14.6%などとなっている。

国保中央病院の利用有無について居住地別に見たところ、川西町、三宅町及び田原本町で「利用したことはあるが、現在は利用していない」が、広陵町では「利用したことがない」が約5～6割と多くなっている。



(注) 表側の不明サンプルは除く。

■国保中央病院を利用していない理由は、かかりつけの病院や診療所があるから、病院に行く必要がないからが全体的に多くなっているが、広陵町では自宅からのアクセスの悪さを挙げている人が一定数見受けられる

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、国保中央病院を利用していない理由について聞いたところ「かかりつけの病院や診療所があるから」が42.5%で最も多く、続いて「病院に行く必要がないから」が39.2%、「自宅から遠いから」が11.0%などとなっている。

国保中央病院を利用していない理由について居住地別に見てみると川西町で「病院に行く必要がないから」が、三宅町、田原本町及び広陵町で「かかりつけの病院や診療所があるから」が多くなっている。また、広陵町では「自宅から遠いから」が想定的に多くなっているほか、川西町及び広陵町で「自宅からの交通の便が悪いから」が相対的に多くなっている。

国保中央病院を利用していない理由(居住地別)

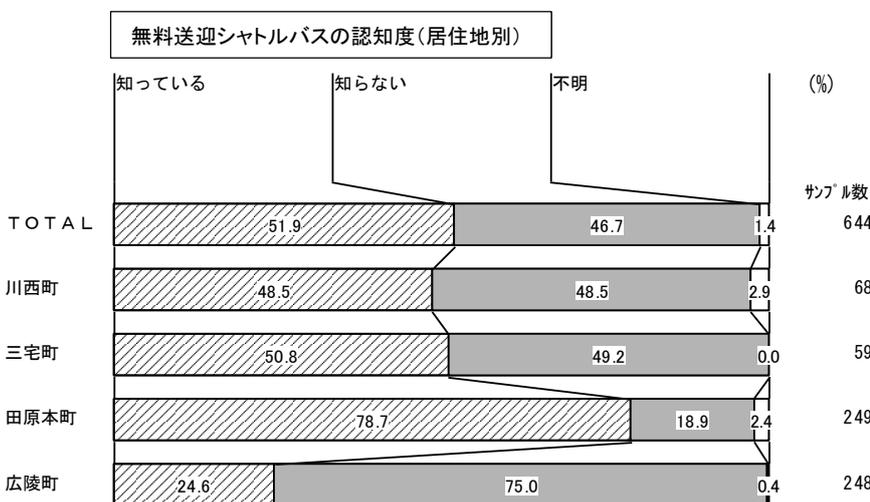
| | TOTAL | かかりつけの病院や診療所があるから | 病院に行く必要がないから | 自宅から遠いから | にかかりつけの病院や診療所を紹介されたから | ら受診したい診療科がないから | 自宅からの交通の便が悪いから | 待ち時間が長いから | 受診したい時間帯と診療時間が合わないから | 病院のロコミが悪いから | 医師の評判が悪いから | 行き方がわからないから | 医療設備が不足しているから | 自宅付近に送迎シャトルバスが走っていないから | その他 | 不明 |
|-------|-------|-------------------|--------------|----------|-----------------------|----------------|----------------|-----------|----------------------|-------------|------------|-------------|---------------|------------------------|------|-----|
| | | (%) | | | | | | | | | | | | | | |
| TOTAL | 543 | 42.5 | 39.2 | 11.0 | 10.7 | 9.6 | 9.2 | 5.0 | 3.7 | 3.7 | 3.3 | 2.9 | 1.8 | 1.7 | 7.2 | 7.0 |
| 川西町 | 57 | 38.6 | 47.4 | 7.0 | 5.3 | 5.3 | 14.0 | 3.5 | 3.5 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 12.3 | 7.0 |
| 三宅町 | 45 | 48.9 | 40.0 | 2.2 | 8.9 | 8.9 | 2.2 | 4.4 | 13.3 | 2.2 | 6.7 | 2.2 | 2.2 | 0.0 | 4.4 | 0.0 |
| 田原本町 | 194 | 45.9 | 40.2 | 2.1 | 9.8 | 15.5 | 2.6 | 8.8 | 3.1 | 5.7 | 5.2 | 0.0 | 2.1 | 1.5 | 6.2 | 7.7 |
| 広陵町 | 229 | 39.7 | 35.8 | 22.3 | 13.5 | 6.1 | 15.7 | 2.2 | 2.6 | 2.6 | 1.3 | 6.1 | 2.2 | 2.6 | 7.9 | 6.6 |

(注) 網掛けはTOTALと比較して3ポイント以上のもの。表側の不明サンプルは除く。

■無料送迎シャトルバスは川西町、三宅町及び広陵町の住民にはあまり認知されていない

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、近鉄田原本駅と病院間の無料送迎シャトルバスの認知について聞いたところ、「知っている」が51.9%、「知らない」が46.7%となっている。

無料送迎シャトルバスの認知について居住地別に見たところ、川西町、三宅町では「知っている」と「知らない」がほぼ半々となっており、田原本町では「知っている」が約80%と多く、広陵町では「知らない」が75.0%と多くなっている。

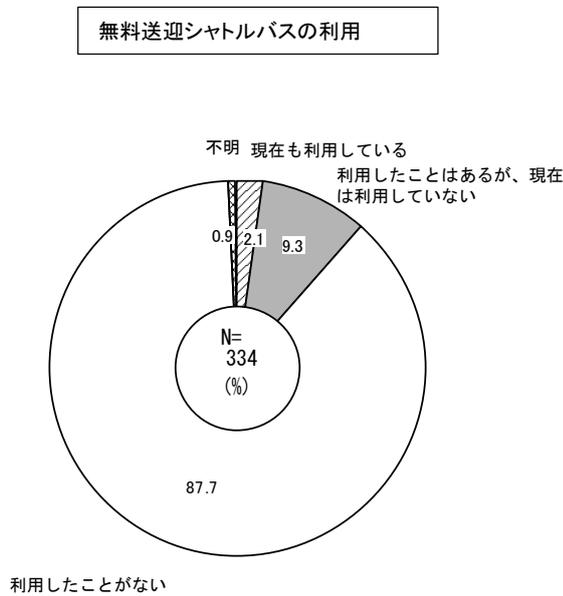


(注) 表側の不明サンプルは除く。

(3) 無料送迎シャトルバスの利用について

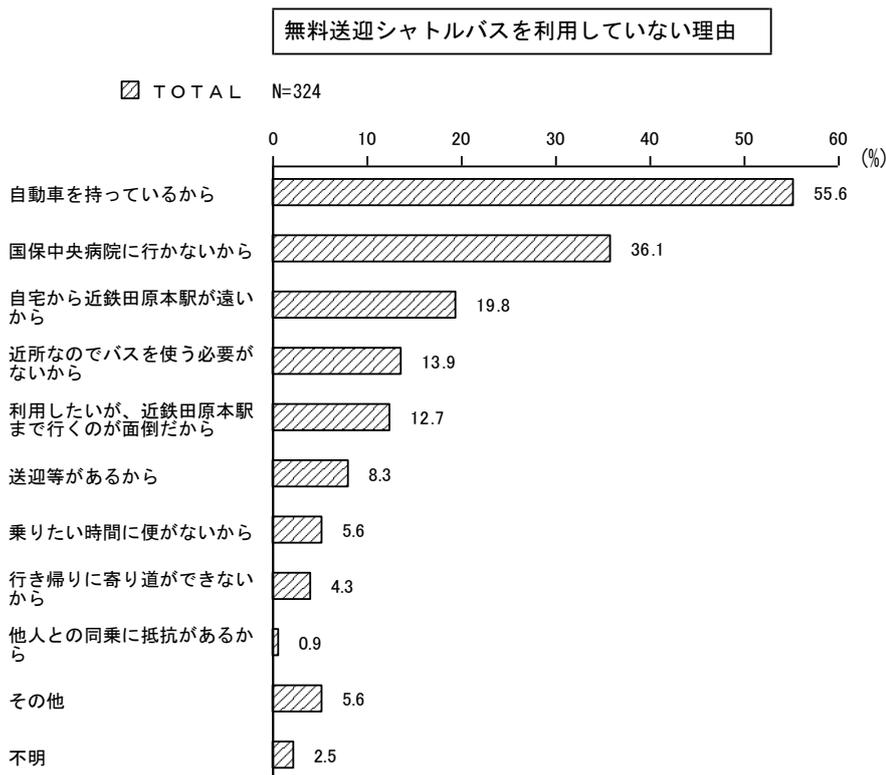
■無料送迎シャトルバスの利用者は約1割に留まる

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、無料送迎シャトルバスの利用有無について聞いたところ、「利用したことがない」が87.7%、続いて「利用したことはあるが、現在は利用していない」が9.3%、「現在も利用している」が2.1%となっている。



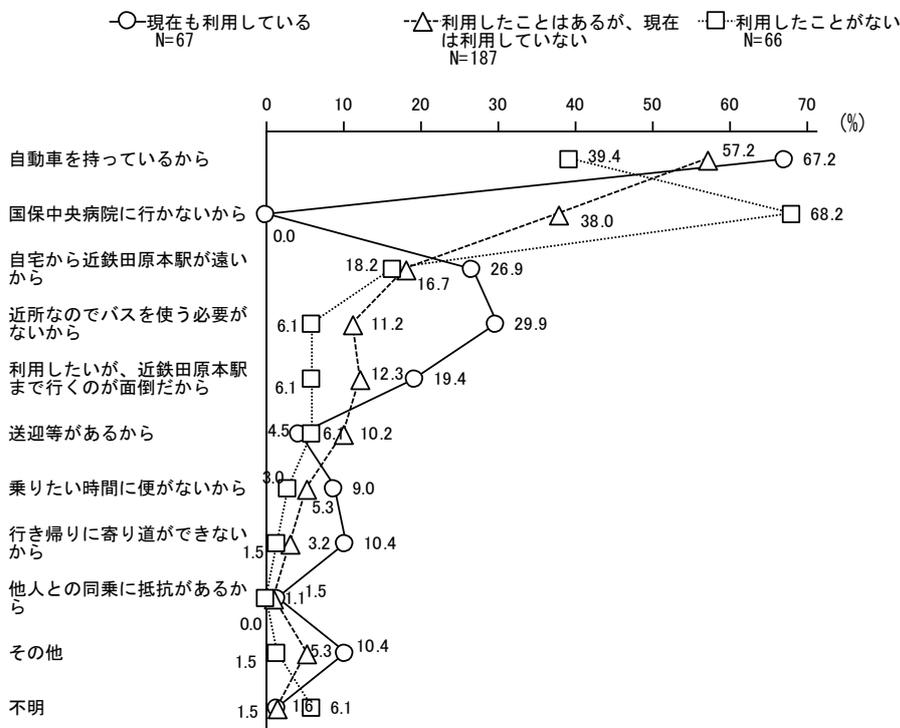
■無料送迎シャトルバスを利用していない理由は、自動車を持っているからが約半数を占める

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、無料送迎シャトルバスを利用していない、または利用したことがない理由について聞いたところ、「自動車を持っているから」が55.6%、続いて「国保中央病院に行かないから」が36.1%などとなっている。



国保中央病院の利用別に見ると、現在、病院を利用している人も「自宅から近鉄田原本駅が遠いから」、「近所なのでバスを使う必要がないから」などの理由で、無料送迎シャトルバスを利用していないと回答している人が多くなっている。

無料送迎シャトルバスを利用していない理由（国保中央病院の利用別）

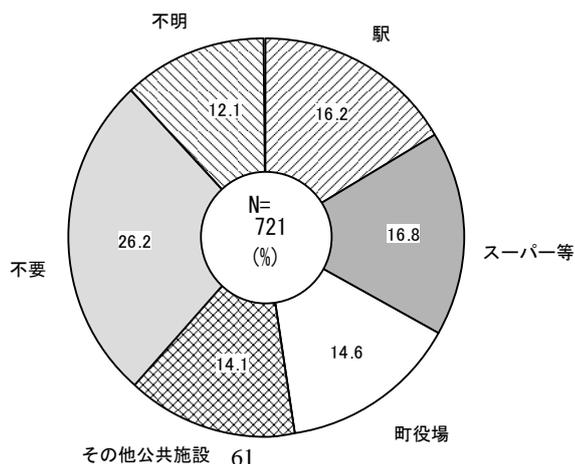


(4) 無料送迎シャトルバスのこれからのあり方について

■無料送迎シャトルバスのバス停を新たに設置する場合、望ましいと思うバス停の場所は、スーパー等、駅、町役場、その他公共施設

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の住民に、新たに無料送迎シャトルバスのバス停を設置する場合、望ましいと思うバス停の場所について聞いたところ、「不要」が26.2%と最も多く、続いて「スーパー等」が16.8%、「駅」が16.2%などとなっている。

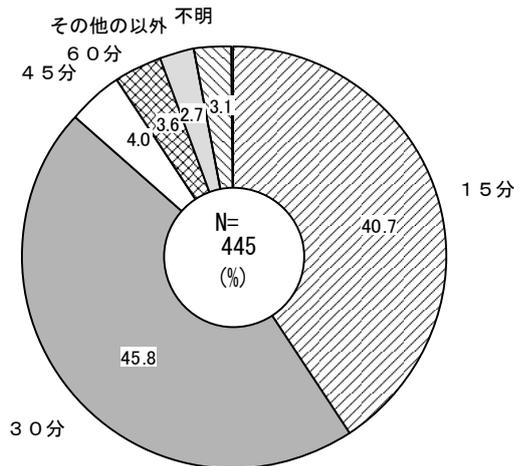
新たに無料送迎シャトルバスのバス停を設置する場合の望ましい場所



■許容できるバスの乗車時間は30分以内が多い

許容できるバスの乗車時間について聞いたところ、「30分」が45.8%で最も多く、続いて「15分」が40.7%、「45分」が4.0%などとなっている。

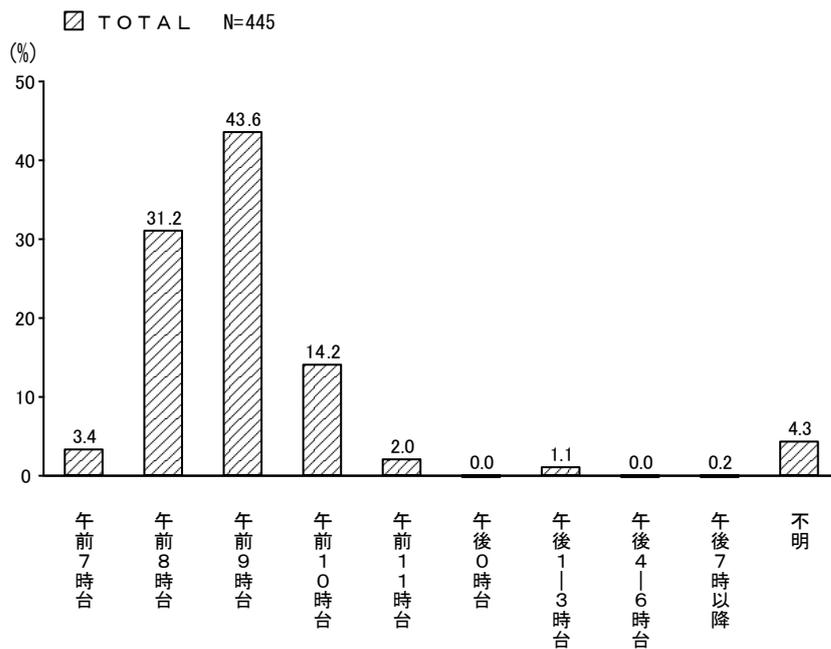
許容できるバスの乗車時間



■病院に着きたい時間帯の第1希望は、午前9時台が多い

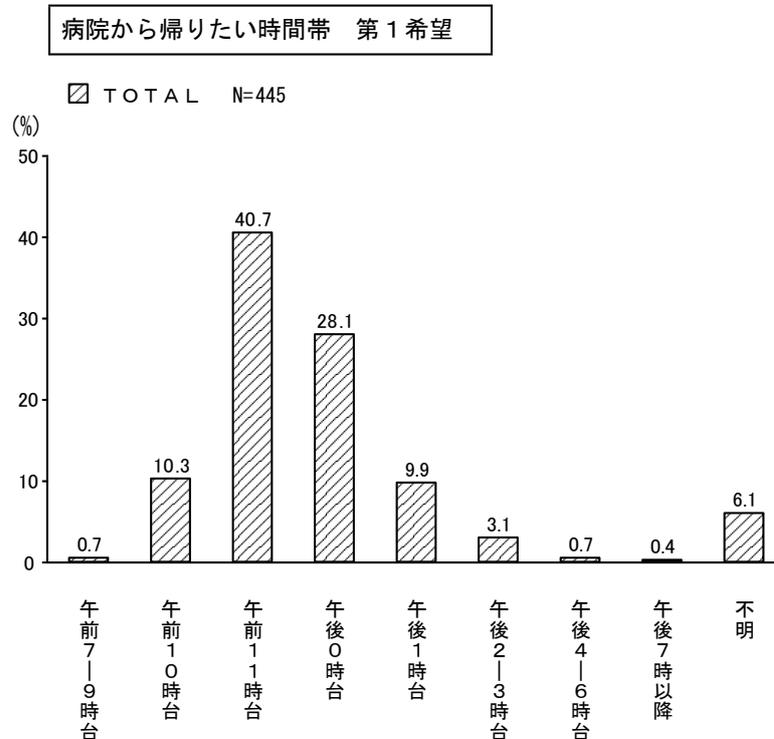
無料送迎シャトルバスに乗車して病院に着きたい時間帯 第1希望について聞いたところ、「午前9時台」が43.6%と最も多く、続いて「午前8時台」が31.2%、「午前10時台」が14.2%などとなっている。

病院に着きたい時間帯 第1希望



■病院から帰りたい時間帯の第1希望は、午前11時台が多い

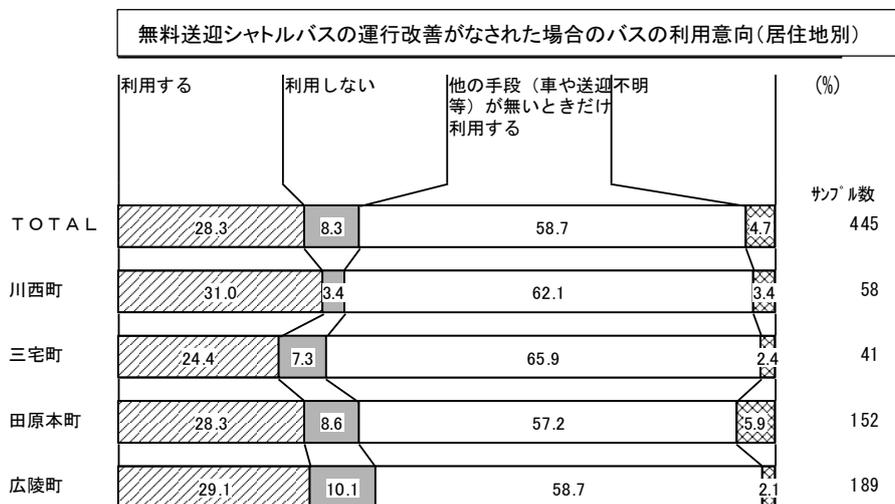
無料送迎シャトルバスに乗車して病院から帰りたい時間帯 第1希望について聞いたところ、「午前11時台」が40.7%と最も多く、続いて「午後0時台」が28.1%、「午前10時台」が10.3%などとなっている。



■無料送迎シャトルバスが改善された場合のバスの利用意向は高い

無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向について聞いたところ、「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が58.7%で最も多く、続いて「利用する」が28.3%、「利用しない」が8.3%などとなっている。

無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向について居住地別に見てみると、いずれの町でも「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が多くなっている。

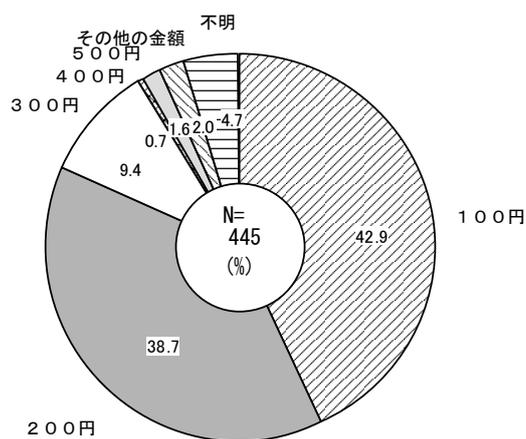


(注) 表側の不明サンプルは除く。

■広域運行で望む運賃は200円以内が約半数を占める

広域運行した場合の許容できる運賃について聞いたところ、「100円」が42.9%で最も多く、続いて「200円」が38.7%、「300円」が9.4%などとなっている。

広域運行した場合の許容できる運賃



3.3. 無料送迎シャトルバス利用者アンケート

3.3.1. 調査概要

無料送迎シャトルバス利用者に対して、利用状況や満足度などを聞き、今後の利用環境の向上に向けた課題の抽出や方策の検討を行うため、無料送迎シャトルバス利用者アンケート調査を実施した。

表 3-3 調査方法などの概要

| | |
|------|------------------|
| 調査期間 | 令和2年10月26日～11月8日 |
| 調査対象 | 無料送迎シャトルバス利用者 |
| 調査方法 | バス乗車時に依頼・下車時に回収 |
| 回収数 | 116 サンプル |

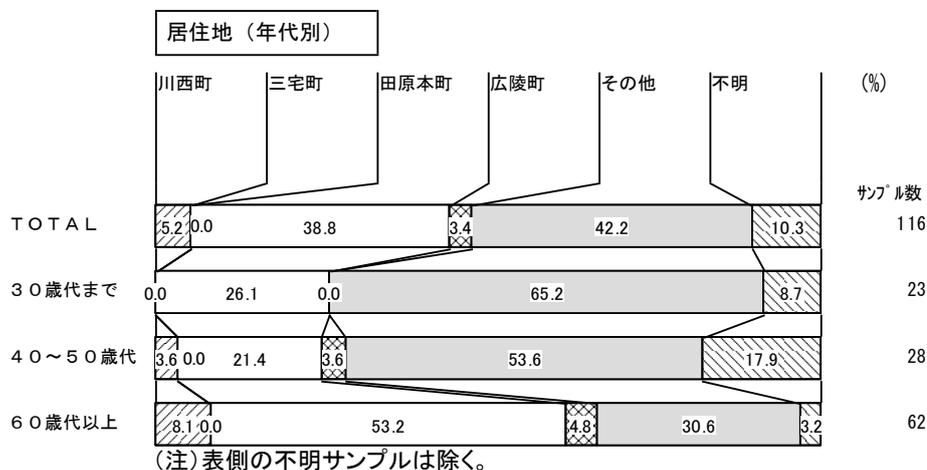
3.3.2. 調査結果の概要

(1) 無料送迎シャトルバスの利用について

■利用者の約4割は田原本町在住 60歳代以上が多い

無料送迎シャトルバス利用者に居住地、年代について尋ねたところ、田原本町の町民利用が約4割を占め、4町以外の利用者も4割強と高くなっている。

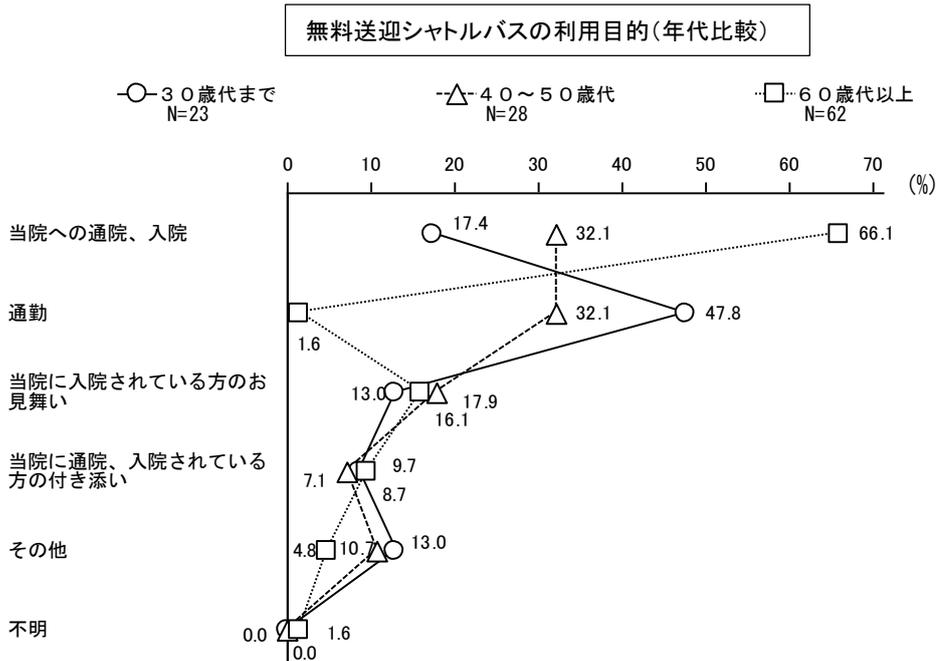
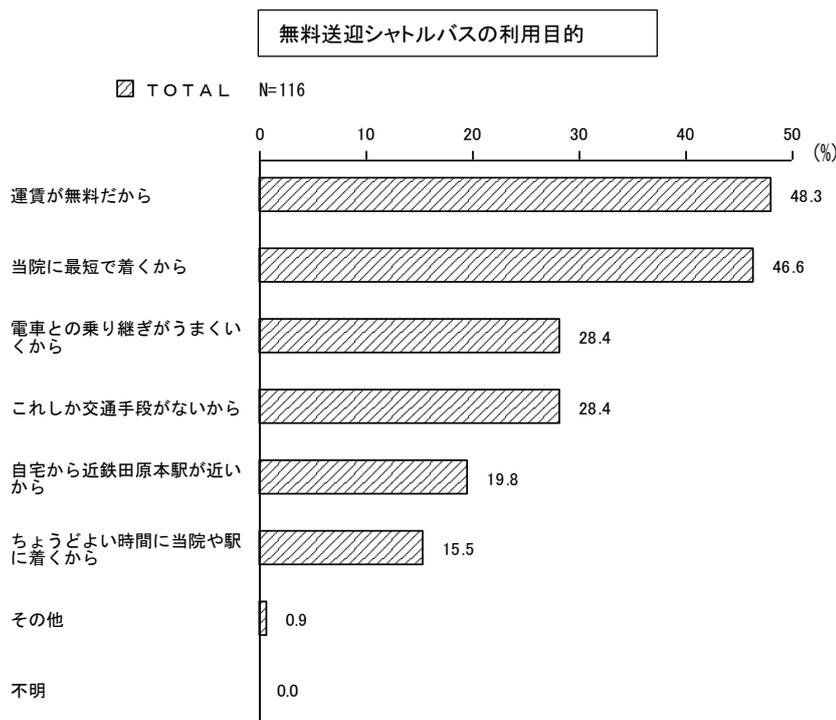
年代としては60歳以上の利用者が多くなっている。30歳代まで、40～50歳代までは職員が中心と推察される。



■利用目的は、通院、入院が半数約、通勤が約2割

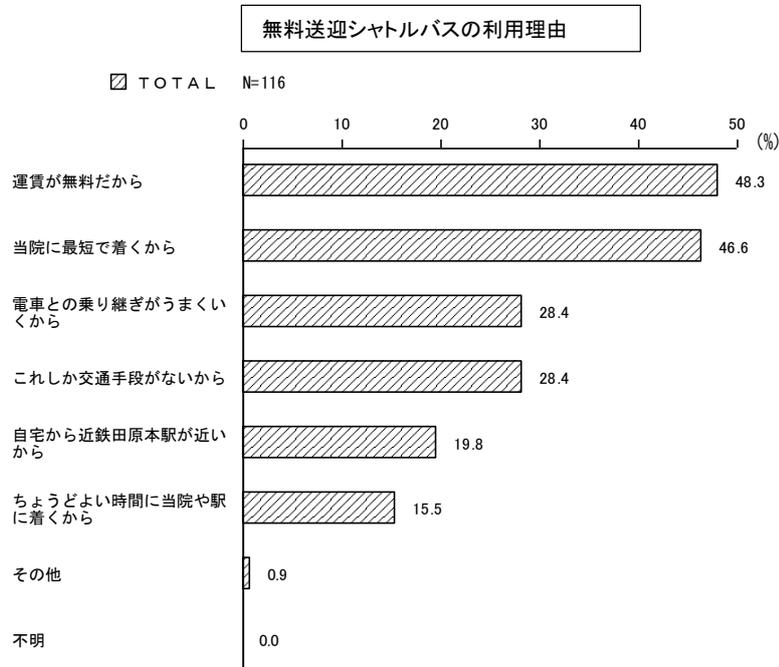
無料送迎シャトルバス利用者に、利用目的について聞いたところ「当院への通院、入院」が46.6%で最も多く、続いて「通勤」が19.0%、「当院に通院、入院されている方のお見舞い」が16.4%などとなっている。

シャトルバス利用目的について年代別に見たところ、30歳代までで「通勤」が、40～50歳代で「当院への通院、入院」及び「通勤」が、60歳代以上で「当院への通院、入院」が多くなっている。



■利用理由は、運賃の安さや到着の早さが多い

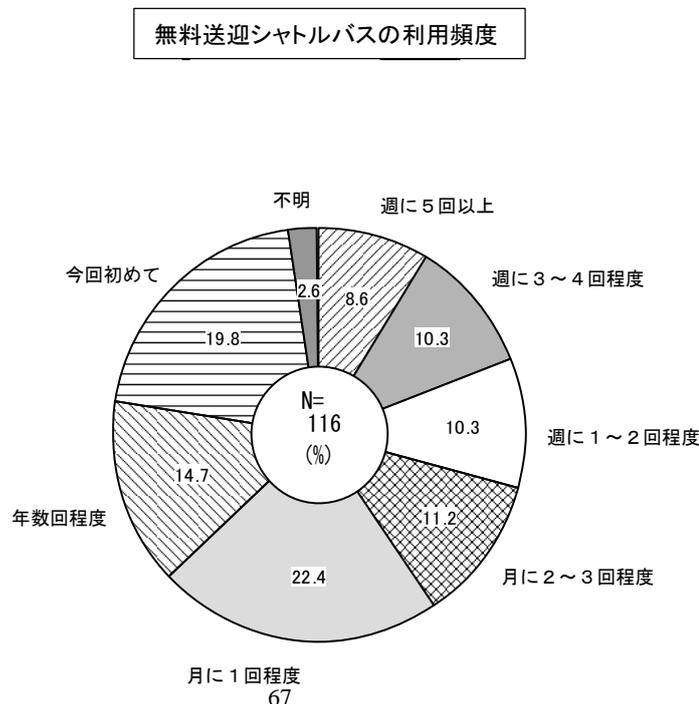
無料送迎シャトルバス利用者に、利用理由について聞いたところ「運賃が無料だから」が48.3%で最も多く、続いて「当院に最短で着くから」が46.6%、「電車との乗り継ぎがうまくいくから」及び「これしか交通手段がないから」が28.4%などとなっている。



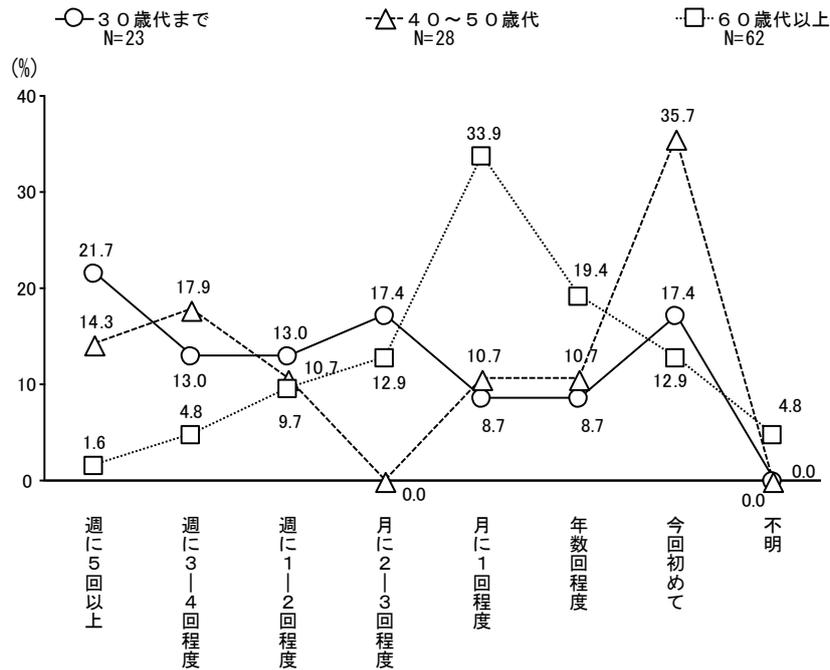
■利用頻度は、30歳代までで週に5回以上、40～50歳代で今回が初めて、60歳代以上で月に1回程度が多い

無料送迎シャトルバス利用者に、利用頻度について聞いたところ、「月に1回程度」が22.4%で最も多く、続いて「今回が初めて」が19.8%、「年数回程度」が14.7%などとなっている。

シャトルバス利用頻度について年代別に見たところ、30歳代までで「週に5回以上」、40～50歳代で「今回が初めて」、60歳代以上で「月に1回程度」が多くなっている。



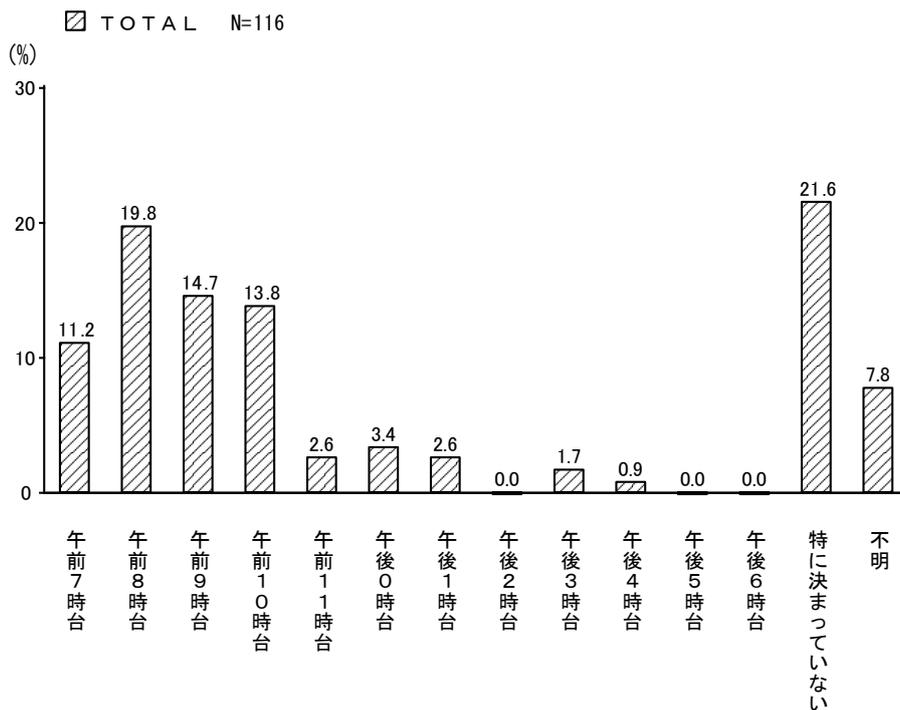
シャトルバス利用頻度（年代比較）



■病院到着時間帯は特に決まっていない、午前8時台が多い

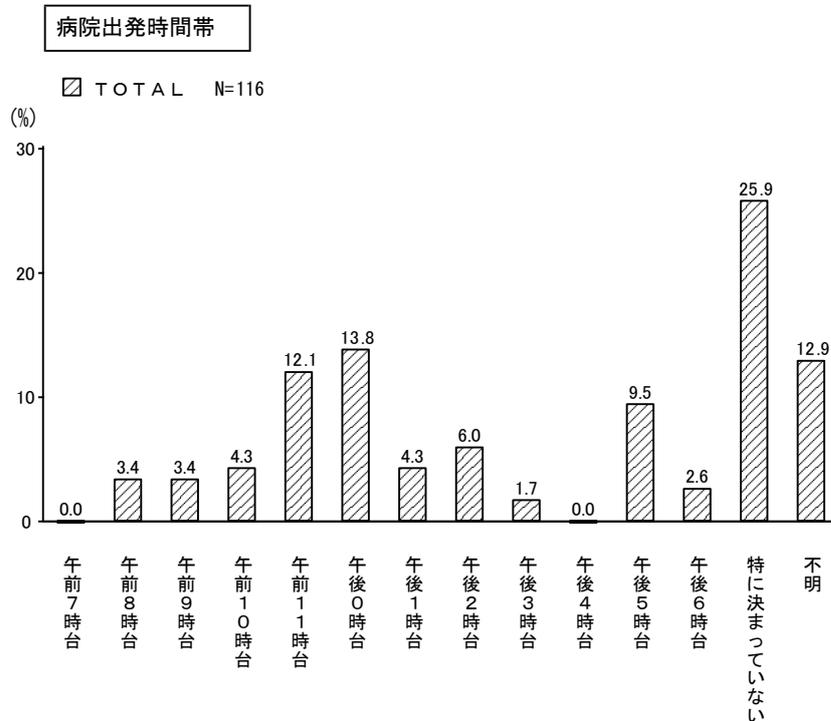
無料送迎シャトルバス利用者に、病院到着時間帯について聞いたところ、「特に決まっていない」が21.6%で最も多く、続いて「午前8時台」が19.8%、「午前9時台」が14.7%などとなっている。

病院到着時間帯



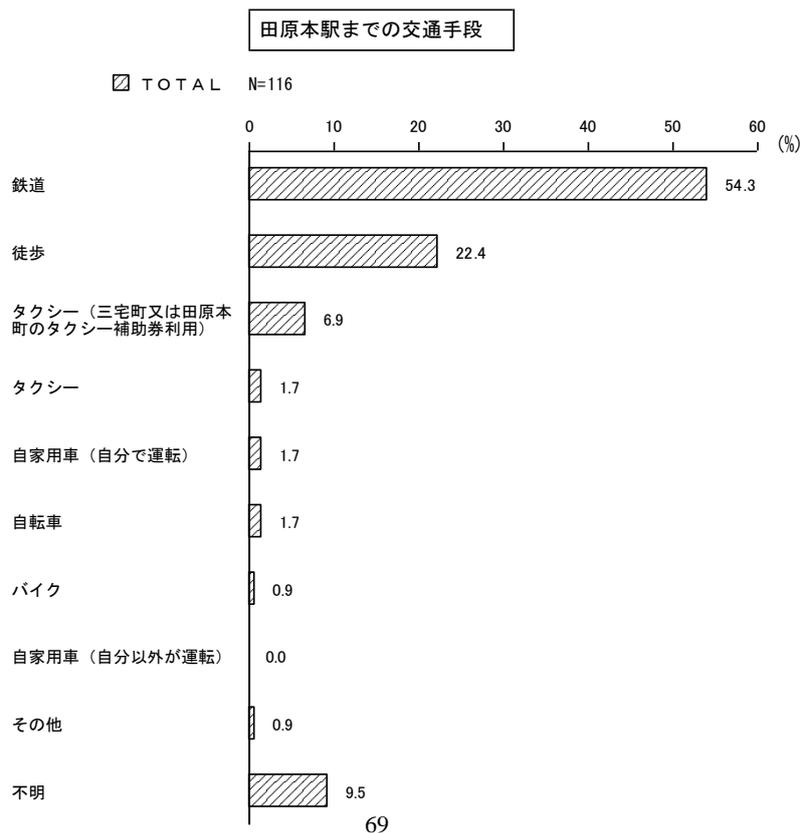
■病院出発時間帯は特に決まっていない、午後0時台が多い

無料送迎シャトルバス利用者に、病院出発時間帯について聞いたところ、「特に決まっていない」が25.9%で最も多く、続いて「午後0時台」が13.8%、「午前11時台」が12.1%などとなっている。



■田原本駅までの交通手段は鉄道が約半数と多い

無料送迎シャトルバス利用者に、田原本駅までの交通手段について聞いたところ、「鉄道」が54.3%で最も多く、続いて「徒歩」が22.4%、「タクシー 三宅町又は田原本町のタクシー補助券利用」が6.9%などとなっている。

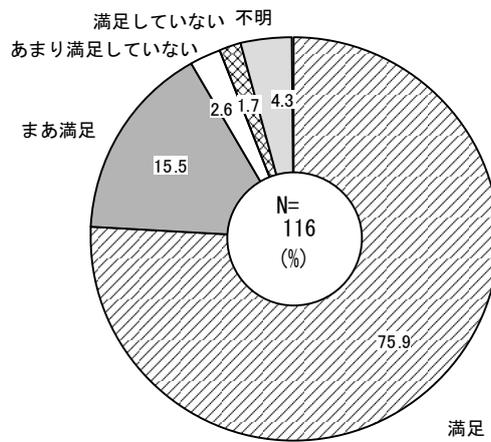


■シャトルバス利用者の約9割が満足している。年代が高くなるにつれ、満足度も高くなっている

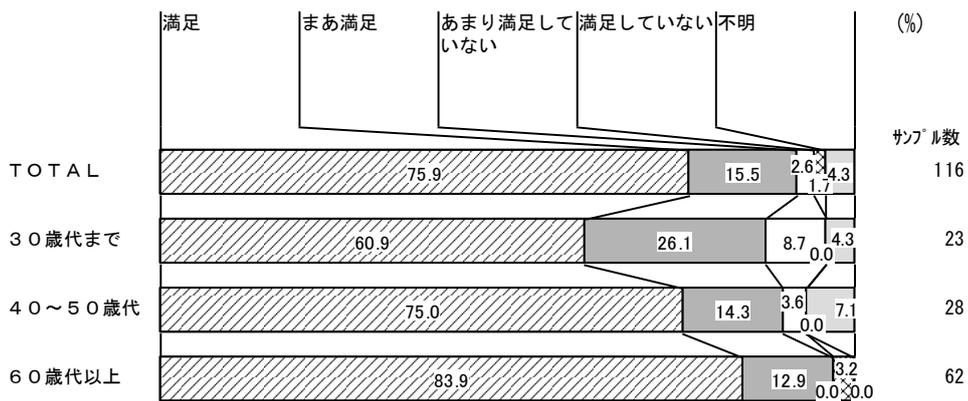
無料送迎シャトルバス利用者に、シャトルバス利用の満足度について聞いたところ、「満足」が75.9%で最も多く、続いて「まあ満足」が15.5%、「あまり満足していない」が2.6%などとなっている。

シャトルバス利用の満足度について年代別に見たところ、いずれの年代でも「満足」が多くなっているが、30歳代までで「満足していない」が、40～50歳代で「あまり満足していない」が、60歳代以上で「満足」が相対的に多くなっている。

無料送迎シャトルバスの満足度



無料送迎シャトルバスの満足度(年代別)



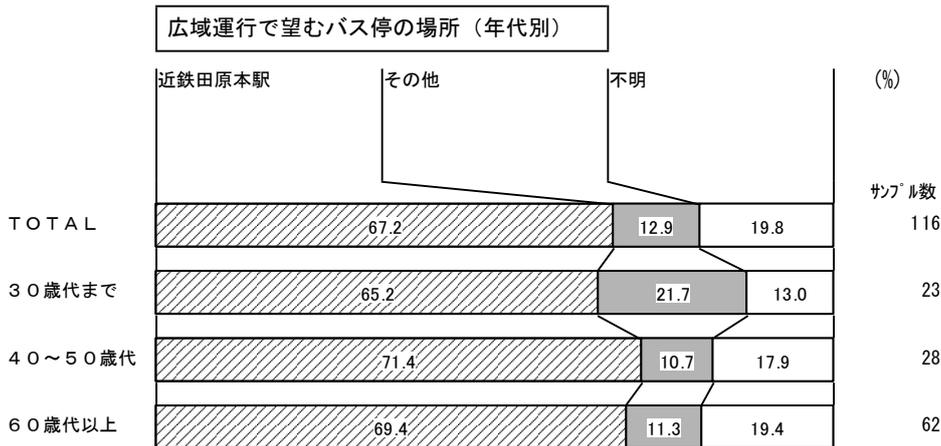
(注)表側の不明サンプルは除く。

(2) 広域運行の実施に当たり、求める条件について

■広域運行で望むバス停の場所は、いずれの年代においても近鉄田原本駅が約7割と多い

無料送迎シャトルバス利用者に、広域運行で望むバス停の場所について聞いたところ、「近鉄田原本駅」が67.2%で最も多く、続いて「その他」が12.9%となっている。

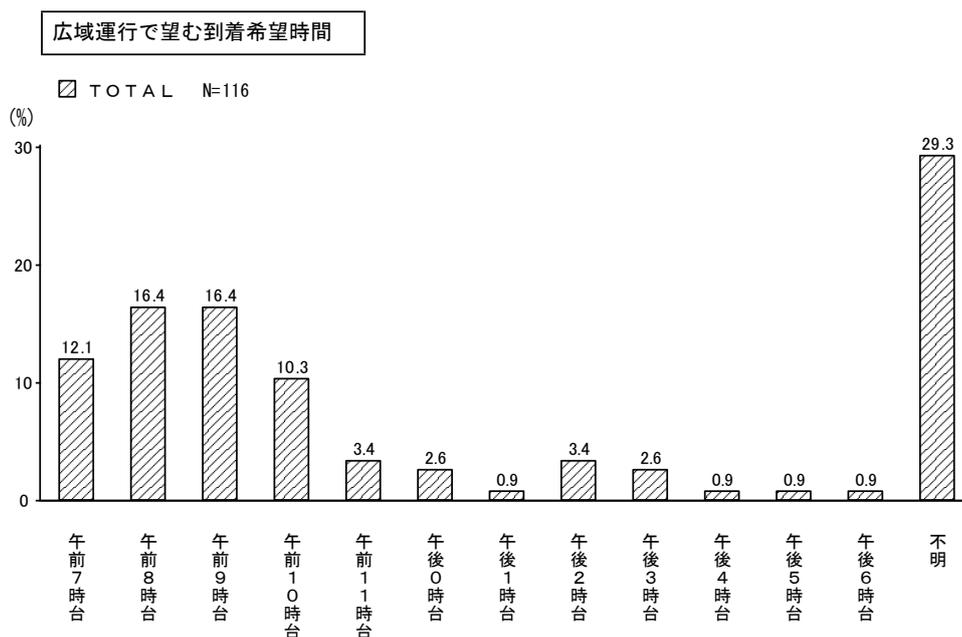
広域運行で望むバス停の場所について年代別に見たところ、いずれの年代でも「近鉄田原本駅」が多くなっているが、30歳代までで「その他」が相対的に多くなっている。



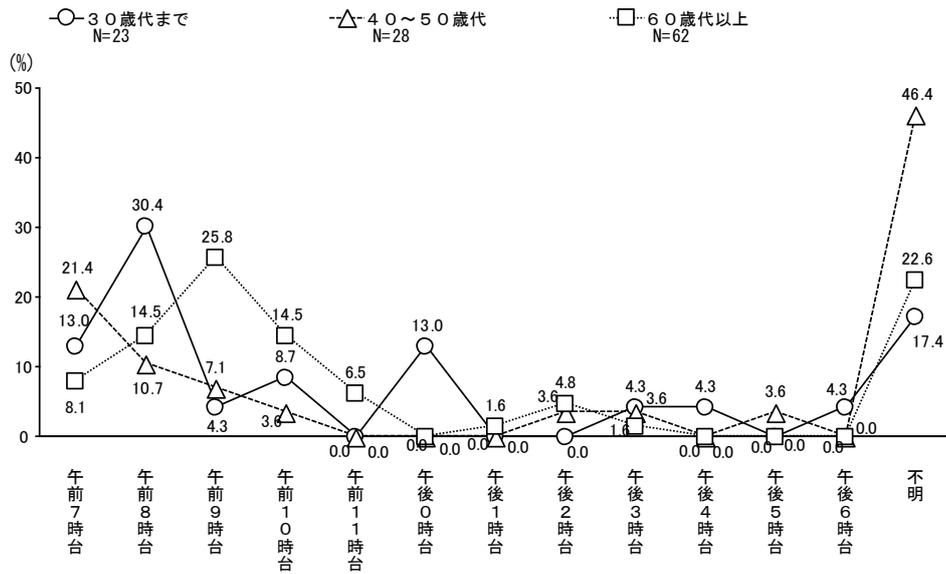
■広域運行で望む到着希望時間は、60歳代以上で午前9時台が多い

無料送迎シャトルバス利用者に、広域運行で望む到着希望時間について聞いたところ、「午前8時台」及び「午前9時台」が16.4%で最も多く、続いて「午前7時台」が12.1%となっている。

広域運行で望む到着希望時間について年代別に見たところ、30歳代までで「午前8時台」が、40～50歳代で「午前7時台」が、60歳代以上で「午前9時台」が多くなっている。



広域運行で望む到着希望時間（年代比較）

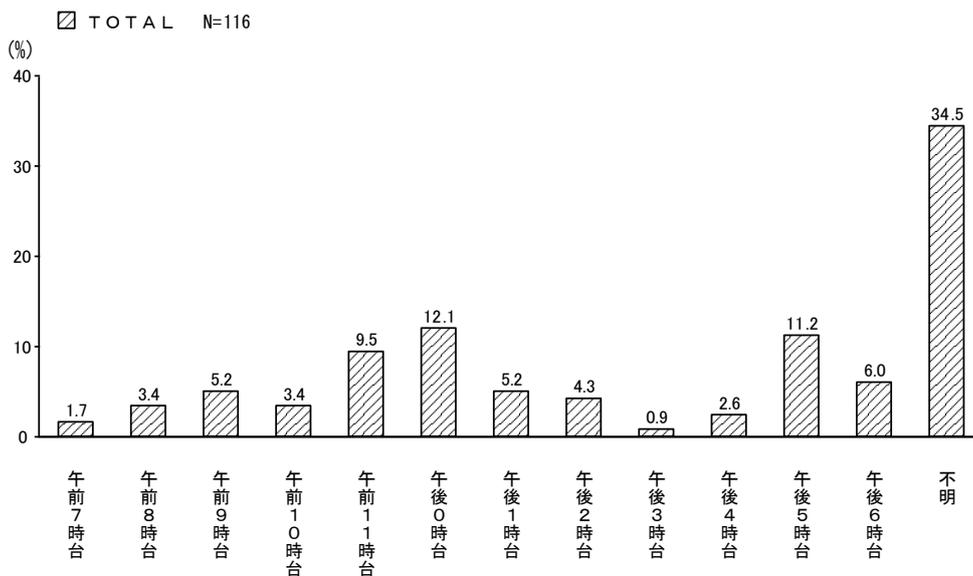


■広域運行で望む出発希望時間は、60歳代以上で午前11時台、午後0時台が多い

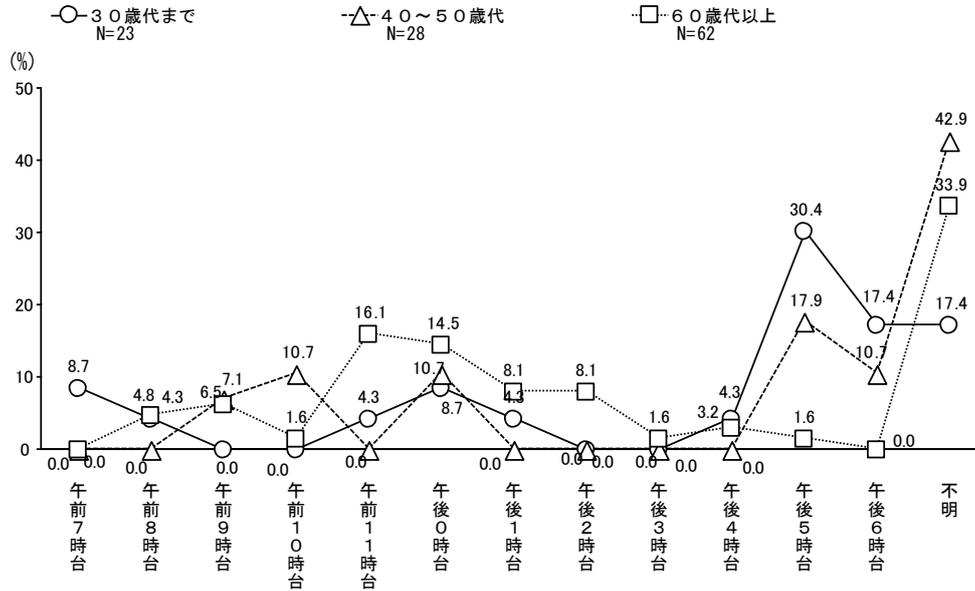
無料送迎シャトルバス利用者に、広域運行で望む出発希望時間について聞いたところ、「午後0時台」が12.1%で最も多く、続いて「午後5時台」が11.2%、「午前11時台」が9.5%となっている。

広域運行で望む出発希望時間について年代別に見たところ、30歳代まで及び40~50歳代で「午後5時台」が、60歳代以上で「午前11時台」が多くなっている。

広域運行で望む出発希望時間



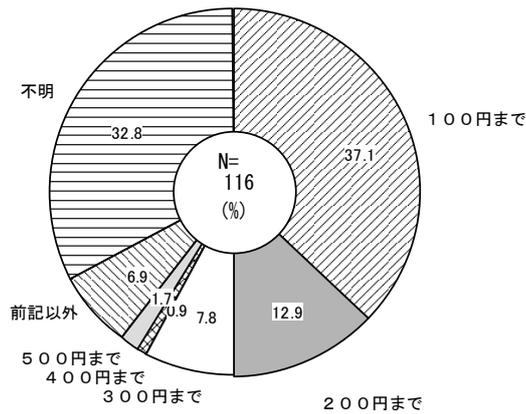
広域運行で望む出発希望時間（年代比較）



■ 広域運行で望む運賃は、200円以内が半数

無料送迎シャトルバス利用者に、広域運行で望む運賃について聞いたところ、「100円まで」が37.1%で最も多く、続いて「200円まで」が12.9%、「300円まで」が7.8%となっている。

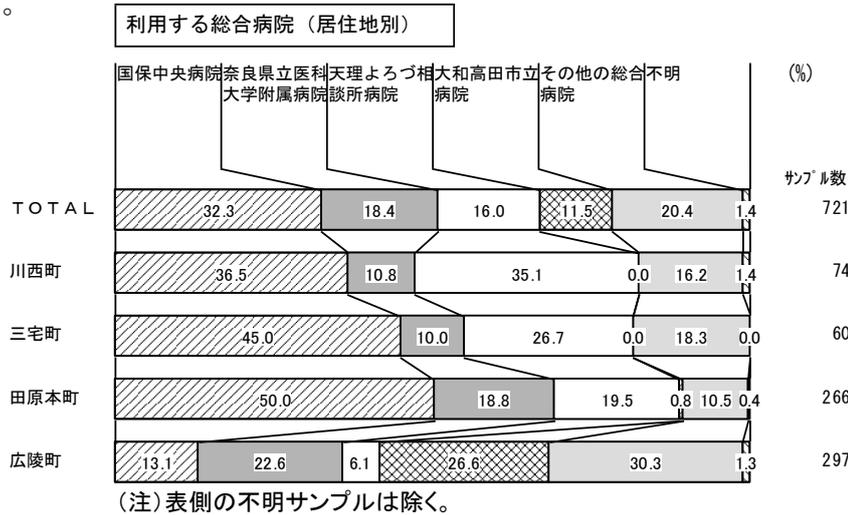
広域運行で望む運賃



3.4. アンケート調査結果のまとめ

(1) 総合病院の利用状況

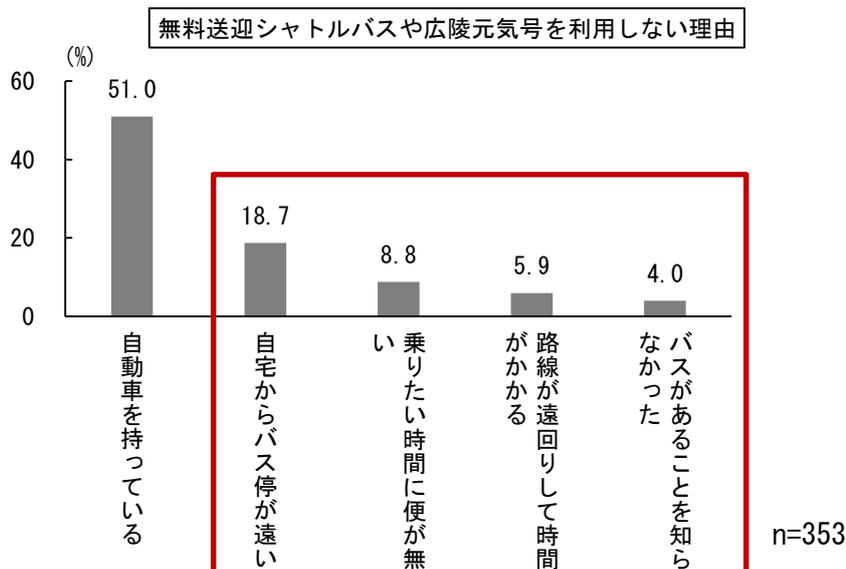
田原本町、三宅町及び川西町では、国保中央病院の利用者が多く、広陵町は大和高田市立病院の利用者が多くなっている。通院で利用する総合病院の選択理由について、国保中央病院及び大和高田市立病院を利用している人は「自宅から近いから」を挙げる割合が最も高く、アクセス利便性の良さが重要ということがわかる。



※通院を中心とした公共交通の利用に係る4町アンケート結果から抜粋

(2) 無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由

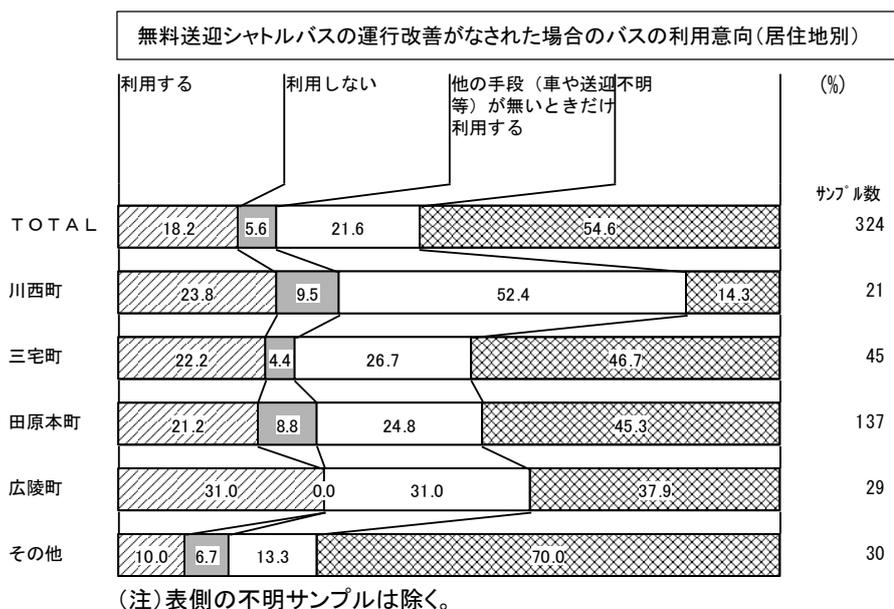
無料送迎シャトルバスや広陵元気号を利用しない理由としては、「自動車を持っているから」が約半数と多くなっているが、その他にも「自宅からバス停が遠い」、「乗りたい時間に便が無い」、「路線が遠回りして時間がかかる」、「バスがあることを知らなかった」が挙げられている。これら広範の4つの選択肢の合計は37.4%であり、この選択肢を選んだ人は広域運行によりバスを利用する可能性がある。



※国保中央病院への交通に係るアンケート調査結果から抜粋

(3) 無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向

無料送迎シャトルバスの運行改善がなされた場合のバスの利用意向について居住地別に見てみると、いずれの居住地でも「他の手段（車や送迎等）が無いときだけ利用する」が多くなっている。広陵町では「利用する」も同一で多くっており、「利用する」と「他の手段(車や送迎等)が無いときだけ利用する」を合計すると約6割の人が利用意向を示している。川西町も同様に 75%以上の人が利用意向を示しており、特に広陵町と川西町での利用意向が高くなっている。



4. 国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上検討事業広域検討委員会

4.1. 委員会設置の背景

川西町、三宅町、田原本町及び広陵町で構成する国保中央病院組合で運営する国保中央病院が運行する無料送迎シャトルバスにおける、利用者ニーズに基づく運行方法のあり方を検討し、病院と構成町間のアクセス格差を解消することを目的とし、国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上事業広域検討委員会を設置した。

会長は、広陵町企画部企画政策課課長が務め、委員会メンバーは下表のとおりである。

表 4-1 広域検討委員会メンバー

| 機関 | 担当課 |
|--------|--------------------------------|
| 川西町 | 総合政策課 |
| 三宅町 | 政策推進課 |
| 田原本町 | 企画財政課 |
| 広陵町 | 企画政策課 |
| 国保中央病院 | 企画総務課 |
| アドバイザー | 近畿運輸局 奈良運輸支局 企画輸送・監査部門 運輸企画専門官 |

4.2. 開催概要

| 回 | 開催日 | 参加者 | 開催内容 |
|-----|-------------|-----|---|
| 第1回 | 2020年6月3日 | 12名 | ・令和2年度スケジュール（案） ・業務委託に係る事業者選定について ・広域検討委員会設置要綱（案）について |
| 第2回 | 2020年8月17日 | 14名 | ・当事業に係るアンケートの実施時期及び方法について ・今後のスケジュール |
| 第3回 | 2020年12月25日 | 14名 | ・各種アンケート結果・概要共有 ・広域運行の実現に向けたルート検討 |
| 第4回 | 2021年1月22日 | 14名 | ・運行事業者との協議結果及び現行シャトルバス運行経費等についての共有 ・シャトルバスの広域運行に係るルート及びダイヤについて |
| 第5回 | 2021年3月3日 | 14名 | ・シャトルバスの運行再編に係るダイヤ及びルート修正案について ・シャトルバス広域運行実証運行のあり方について ・今年度事業の成果品（運行再編計画）について |

4.3. 検討経緯

(1) 第1回

奈良県の交付金事業である「令和2年度安心して暮らせる地域公共交通確保維持事業」に申請し選定された。事業を開始するに当たり、関係4町及び国保中央病院と、令和2年度スケジュール、業務委託に係る事業者選定、そして広域検討委員会設置要綱について事務局より説明し、全参加者より承認が得られた。

(2) 第2回

本事業の各種調査等の受託者から、国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上検討業務受託に当たっての方針について説明があった。委託業務の1つである無料送迎シャトルバス利用者や国保中央病院利用者に対するアンケートについて、調査内容や仮説、調査方法、調査時期等について意見交換を行った。調整の結果、「無料送迎シャトルバス利用者」、「広陵元気号を利用した国保中央病院利用者」、「国保中央病院利用者」、そして「4町の住民」を対象にした4種類のアンケートを実施することになった。

(3) 第3回

事務局から、各種統計データ等を活用した現況分析の結果概要、「無料送迎シャトルバス利用者」、「国保中央病院利用者」、そして「4町の住民」の3種類のアンケートについての結果概要の説明を行った（「広陵元気号を利用した国保中央病院利用者アンケート」はサンプル数が少なかったため説明を割愛した）。調査結果を踏まえて、事務局が作成した広域運行の実現に向けたルート案について検討を行い、参加者より概ね了承を得られた。

(4) 第4回

事務局から、無料送迎シャトルバス運行事業者との協議結果及び現行シャトルバス運行経費等についての説明を行った。これまでの各種調査結果及び第3回での検討結果を踏まえて、事務局が作成したシャトルバスの広域運行に係るルート及びダイヤ案について検討を行った。参加者間で認識や意見の相違が見られ、各町持ち帰り各種調整をすることとなった。

(5) 第5回

事務局から、シャトルバスの運行再編に係るダイヤ及びルート修正案、そしてシャトルバス広域運行実証運行のあり方案について説明を行った。各町及び国保中央病院から意見が述べられたのち、各案は概ね了承された。また、今年度事業の成果品（運行再編計画）についても方針等について了承された。

5. 再編計画策定に向けた課題の整理

現況の整理分析、アンケートから得られた問題点等を踏まえて、再編計画の策定に向けて課題を整理する。課題の整理に当たり、「地域住民」、「地域医療」及び「地域交通」等の視点から各種調査結果等により得られた主たる内容を踏まえて取りまとめていくことにする。

1. 地域住民の視点～高齢化の進展と免許返納

各町も高齢化が進展する。令和 27 年には高齢化率が三宅町が約 5 割、田原本町、川西町がおおよそ 4 割。

高齢化に伴い、それまでは免許返納が進むことも想定されており、5 年以内に返納予定の人も含めると、4 町に住む 80 歳以上の住民の 75%強、70 歳代の 45%強が運転免許を持たない状況になる。

1. 高齢者をはじめとした4町住民ニーズを踏まえた、国保中央病院への交通手段の確保

2. 地域医療の視点～地域医療としての役割

国保中央病院は、川西町、三宅町、田原本町、広陵町の4町による組合立の自治体病院であり、地域の基幹病院として安全で安心して治療を受けられる病院を目指している。

川西町、三宅町、田原本町民が主に利用する総合病院は国保中央病院となっており、自宅から近いから利用するという理由が多い。現在も利用していると回答した人は 70 歳台以上の高齢者が多く、三宅町、田原本町では 20%以上になっている。

国保中央病院の1日平均患者数は、入院患者数は 147 人、外来患者数は 240 人で、直近 10 年の経年推移を見ると、概ね横ばいである。医業収益については、約 70%が入院収益、約 25%が外来収益となっており、医業収支比率は、全国平均や類似平均より高い。

2. 国保中央病院の課題意識、4町それぞれが抱える住民の交通課題を踏まえた仕組みの検討

3. 地域交通の視点～高齢者等向け対応の必要性

当地域の交通環境は、各町に近畿日本鉄道の各駅があるが、その他の公共交通については、広陵町、川西町ではコミュニティバス、田原本町、三宅町ではタクシー利用補助の制度等を導入している。通院や買物等での利用している。

国保中央病院までのアクセスは近鉄黒田駅から徒歩 10 分、もしくは近鉄田原本駅から無料送迎シャトルバスが平日は 19 便、休日 12 便運行されている。主として田原本町民、病院の職員が利用しており、利用者の満足度は高いが、時間により利用者数差が見られる。

国保中央病院来院者のおおよそ 7 割が自家用車を利用しており、その内「自身が運転」が 5 割以上になっているが、80 歳代以上になると、タクシーなどの比率も上がる。

国保中央病院来院者で無料送迎シャトルバスの利用者は 2.8%、広陵町から乗り入れている広陵元気号の利用者は 0.8%と少ない。

3. 国保中央病院及び4町それぞれが有する制約条件(予算等)を踏まえた仕組みの検討

6. シャトルバス運行再編計画案

6.1.1. 課題解決に向けて押さえておくべきことと前提条件

(1) 課題の解決に向けて押さえておくべきこと

シャトルバス運行再編計画の策定に向けた課題を整理した結果、「1. 高齢者をはじめとした4町住民ニーズを踏まえた、国保中央病院への交通手段の確保」、「2. 国保中央病院の課題意識、4町それぞれが抱える住民の交通課題を踏まえた仕組みの検討」、そして「3. 国保中央病院及び4町それぞれが有する制約条件（予算等）を踏まえた仕組みの検討」の3つの課題が抽出された。

1つ目の課題である「高齢者をはじめとした4町住民ニーズを踏まえた、国保中央病院への交通手段の確保」については、今後ますます進展していく超高齢化社会における当地域の共通課題として各町とも認識して、国保中央病院と連携しながら進めて行くべきということである。

現在、いずれの町においても、町民の主たる交通手段は自家用車になっているが、およそ70歳代以上になると、免許返納等により免許証を持たない人の割合が多くなり、外出時の移動手段の確保がますます重点課題になっていくことが想定されている。高齢者の移動目的で多いものが通院や買物などであり、各町で生活する町民にとって特に重要である地域の総合病院への移動手段については、利用しやすさ等の観点からも考慮することが求められる。

そして、2つ目の課題である「国保中央病院の課題意識、4町それぞれが抱える住民の交通課題を踏まえた仕組みの検討」については、はじめに国保中央病院について見ると、4町をはじめとした地域住民等にとっての地域の基幹病院として、必要とする人に対して必要な医療対応を一層強化していくことが最も重要であることは言うまでもないが、同時に病院に勤務する職員にとっても働きやすい環境づくりを進めて行くことも重要である。また、4町の交通環境については、かつてあったバス路線等がなくなっていく中で、高齢者をはじめとした交通弱者向けにタクシー利用補助制度を、導入している三宅町や田原本町、町民の移動ニーズを踏まえ、コミュニティバスの導入により効率的により多くの町民の移動を進めている広陵町や川西町というように、各町により課題解決の方策は様々である。そしてそれぞれの町で行われている施策に対して、利用者の満足度は高くなっている。

(2) 課題の解決に向けた前提条件

さらに、3つ目の課題である「国保中央病院及び4町それぞれが有する制約条件（予算等）を踏まえた仕組みの検討」については、本計画の検討に際して、基本的には4町からの新たな費用負担は発生せず、そして無料送迎シャトルバスについては、車両は増やさず、現行のバスルートとダイヤの見直しだけでできる広域運行等のあり方を検討する方針にしていたことが挙げられる。また、実際に広域運行等を行う場合に、国保中央病院が委託している無料送迎シャトルバスの運行事業者にとって、受託金額及び人員体制等で対応可能な再編計画案になるのかについて、適切に精査していくことが必要になる。

6.1.2. 運行再編計画案

(1) 望ましいと思われる運行形態と運行ダイヤ

課題解決に向けて押さえておくべきことを踏まえて、望ましい運行形態と運行ダイヤをまとめた。基本的な考え方として、病院利用者が病院に着きたい時間帯・帰りたい時間帯に特化した広域運行を実施する、また広域運行をしない時間帯は、基本的に現行のルート・ダイヤを残すという観点からとりまとめを行っている。

広域運行時のルートについては、アンケート結果等を踏まえ各町で実測するなどの精査を行った結果をもとに、バス停拠点を設定した（田原本町：田原本駅、川西町：川西町役場、三宅町：あざさ苑、広陵町：はしお元気村）。また、各町での実走結果をもとに、走行経路・実走距離を設定するとともに、既存利用者の利便を大きく損ねないように、近鉄田原本駅⇄病院のシャトルは残すことにした。

運行ダイヤについては、広域運行時に要する実走行時間については、各町での実走結果をもとに設定する。なお、職員の利用時間帯を含め、広域運行する時間帯以外は、ダイヤを大きく変えないこと、また現状利用が多い時間帯は、現行ルートでの走行を優先すること、現行ルートで走る便は、電車との接続にも留意した。

上記の考え方に基づき、運行ルート・ダイヤ（案）について、2パターンを作成した。

表 6-1 運行ルート・ダイヤ表（案）・平日

| | 現行 | 広域運行あり① | 広域運行あり② |
|-------------|---------|-------------|-------------|
| 路線数 | 1路線 | 3路線 | 2路線 |
| 便数/日 | 20便 | 16便（広域運行6便） | 16便（広域運行6便） |
| 運転（実走行）距離/日 | 79.8km | 147.0km | 123.5km |
| 運転（実走行）時間/日 | 5時間 4分 | 7時間 6分 | 6時間42分 |
| 休憩・調整時間/日 | 6時間28分 | 4時間26分 | 4時間50分 |
| 拘束時間/日 | 11時間32分 | 11時間32分 | 11時間32分 |

【広域運行あり 運行ルート案②】

ルートA：田原本駅↔病院
 ルートB：ルートB：広陵町・三宅町・川西町・病院のループ の組み合わせ

表 6-4 運行ルート (案) ②

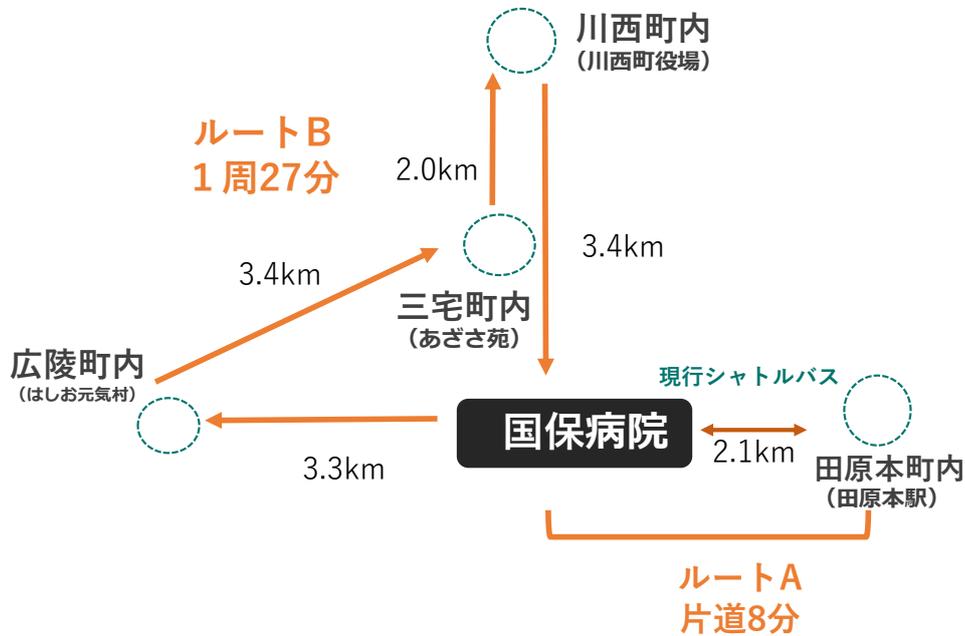


表 6-5 ダイヤ (案) ②

| | | 現行ダイヤそのまま | | | | | | | | 広域運行 | | | | | | | | 現行ダイヤそのまま | | | | | | | | |
|------------|----------|-----------|------|-----------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|--|--|--|--|--|
| | | 1便 | 2便 | 3便 | 4便 | 5便 | 6便 | 7便 | 8便 | 9便 | 10便 | 11便 | 12便 | 13便 | 14便 | 15便 | 16便 | 17便 | 18便 | 19便 | 合計 | | | | | |
| 休憩時間 (A) | | | 0:01 | | | | | | | 0:07 | 0:32 | 0:13 | 0:37 | 0:02 | 0:10 | 0:05 | 0:10 | | | | 2:33 | | | | | |
| 調整時間 (B) | | | 0:01 | | | | | | | 0:13 | 0:34 | 0:10 | 0:02 | 0:08 | 0:05 | 0:04 | | | | | 2:17 | | | | | |
| 合計時間 (A+B) | | 0:00 | 0:02 | 0:14 | 0:12 | 0:13 | 0:12 | 0:26 | 0:19 | 0:20 | 1:06 | 0:23 | 0:39 | 0:10 | 0:15 | 0:09 | 0:10 | | | | 4:50 | | | | | |
| 拘束時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11:32 | | | | | |
| 運転時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6:42 | | | | | |
| | | 距離 | 時間 | 現行ダイヤそのまま | | | | | | | | 職員枠 | | | | | | | | | | | | | | |
| ルートA | 国保中央病院 発 | | | 7:44 | 8:05 | 9:00 | 9:56 | 10:51 | 12:00 | 13:02 | 14:02 | 15:03 | 16:06 | 17:09 | 17:29 | 18:03 | 18:29 | 18:59 | | | | | | | | |
| | 田原本駅 着 | 2.1 | 0:08 | | 7:52 | 8:13 | 9:08 | 10:04 | 10:59 | 12:08 | 13:10 | 14:10 | 15:11 | 16:14 | 17:17 | 17:37 | 18:11 | 18:37 | 19:07 | | | | | | | |
| | 調整時間 | | 0:02 | | 7:53 | 8:15 | 9:10 | 10:06 | 11:01 | 12:10 | 13:12 | 14:23 | 15:45 | 16:24 | 17:19 | 17:45 | 18:16 | 18:41 | | | | | | | | |
| | 田原本駅 発 | 2.1 | 0:08 | 7:35 | 7:53 | 8:15 | 9:10 | 10:06 | 11:01 | 12:10 | 13:12 | 14:23 | 15:45 | 16:24 | 17:19 | 17:45 | 18:16 | 18:41 | | | | | | | | |
| 国保中央病院 着 | | | 7:43 | 8:01 | 8:23 | 9:18 | 10:14 | 11:09 | 12:18 | 13:20 | 14:31 | 15:53 | 16:32 | 17:27 | 17:53 | 18:24 | 18:49 | | | | | | | | | |
| 合計 | 4.2 | 0:18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 職員枠 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ルートB | 調整時間 | | 0:02 | | 8:25 | 9:20 | 10:16 | 11:11 | 12:20 | 13:22 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 国保中央病院 発 | | | | 8:25 | 9:20 | 10:16 | 11:11 | 12:20 | 13:22 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 広陵町 着 | 3.3 | 0:07 | | 8:32 | 9:27 | 10:23 | 11:18 | 12:27 | 13:29 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 調整時間 | | 0:02 | | 8:34 | 9:29 | 10:25 | 11:20 | 12:29 | 13:31 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 広陵町 発 | | | | 8:34 | 9:29 | 10:25 | 11:20 | 12:29 | 13:31 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 三宅町 着 | 3.4 | 0:08 | | 8:42 | 9:37 | 10:33 | 11:28 | 12:37 | 13:39 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 調整時間 | | 0:02 | | 8:44 | 9:39 | 10:35 | 11:30 | 12:39 | 13:41 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 三宅町 発 | | | | 8:44 | 9:39 | 10:35 | 11:30 | 12:39 | 13:41 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 川西町 着 | 2.0 | 0:05 | | 8:49 | 9:44 | 10:40 | 11:35 | 12:44 | 13:46 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調整時間 | | 0:02 | | 8:51 | 9:46 | 10:42 | 11:37 | 12:46 | 13:48 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 川西町 発 | 3.4 | 0:07 | | 8:51 | 9:46 | 10:42 | 11:37 | 12:46 | 13:48 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国保中央病院 着 | | | | 8:58 | 9:53 | 10:49 | 11:44 | 12:53 | 13:55 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 12.1 | 0:33 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 実走行時間 | 0:08 | 0:16 | 0:43 | 0:43 | 0:43 | 0:43 | 0:43 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:08 | | | | 6:42 | | | | | |
| | | 実走行距離 | 2.1 | 4.2 | 16.3 | 16.3 | 16.3 | 16.3 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 2.1 | | | | 123.5 | | | | | | |

(2) 現実的な観点からの運行形態と運行ダイヤ

(1)の運行形態と運行ダイヤでは、現在のシャトルバス利用者、延いては病院の利用者や職員へマイナスの影響が予見されること、そして広域運行する便については運行時間が長くなることに伴う費用（ドライバーの人件費、燃料費等）の増加が考えられることから、より現実的な観点から運行形態と運行ダイヤを整理することとした。

基本的な考え方として、既存ルートの便数は極力残し、現在の利用者にとって利便性を損ねないこと、また既存ルートのダイヤには空白時間をつくらないように、便の間は大きく空けない（40分が目安）、そして各町及び病院とも、大幅な費用負担は困難であることを加味して作成した。その結果、病院に行く時間帯、病院から帰る時間帯において、利用実績が少ない2便を広域運行に活用することにした。広域検討委員会において合意形成された運行ルート案の本案（「運行ルート案③」）となる。なお、実際の運行に当たっては、運行事業者とも改めて協議し、調整を行う。

【広域運行あり 運行ルート案③】

| | |
|---------------------|--------|
| ルートA：田原本駅↔病院 | の組み合わせ |
| ルートB：川西町・三宅町・病院のループ | |
| ルートC：広陵町↔病院 | |

表 6-6 運行ルート（案）③

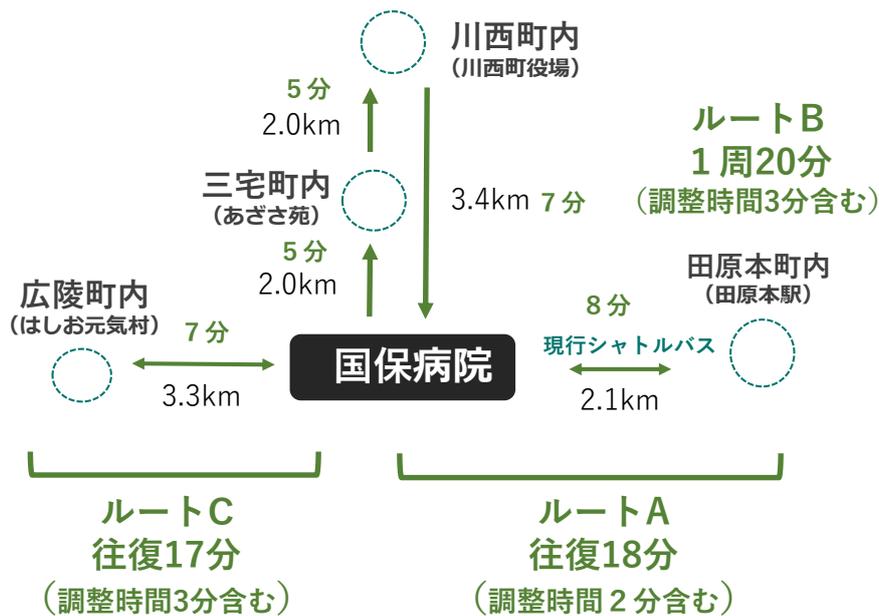


表 6-7 ダイヤ (案) ③

| | | 現行ダイヤそのまま 広域運行 | | | | | | | | 広域運行 | | | | 現行ダイヤそのまま | | | | | | |
|-------------------|----------|----------------|-----------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 1便 | 2便 | 3便 | 4便 | 5便 | 6便 | 7便 | 8便 | 9便 | 10便 | 11便 | 12便 | 13便 | 14便 | 15便 | 16便 | 17便 | 18便 | 合計 |
| <現行との比較> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実走行時間：30分/日 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実走行距離：19.6km/日 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 休憩時間 (A) | | | 0:01 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:12 | 0:30 | 0:45 | 0:44 | 0:51 | 0:02 | 0:10 | 0:05 | 0:10 | 4:10 |
| 調整時間 (B①田原本駅) | | | 0:01 | 0:04 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:02 | 0:11 | 0:13 | 0:20 | 0:04 | 0:02 | 0:08 | 0:05 | 0:04 | | 1:24 |
| 調整時間 (B②その他) | | | | 0:06 | 0:06 | | | 0:06 | 0:06 | | | | | | | | | | | 0:24 |
| 合計時間 (A+B) | | 0:00 | 0:02 | 0:12 | 0:10 | 0:04 | 0:17 | 0:23 | 0:10 | 0:04 | 0:23 | 0:43 | 1:05 | 0:48 | 0:53 | 0:10 | 0:15 | 0:09 | 0:10 | 5:58 |
| 拘束時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11:32 |
| 運転時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5:34 |
| 距離 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ルートA | 国保中央病院 発 | | 7:44 | 8:03 | 8:48 | 9:28 | 10:07 | 10:34 | 11:17 | 11:57 | 12:27 | 13:24 | 14:38 | 15:58 | 17:09 | 17:29 | 18:03 | 18:29 | 18:59 | |
| | 田原本駅 着 | 2.1 | 0:08 | 7:52 | 8:11 | 8:56 | 9:36 | 10:05 | 10:42 | 11:25 | 12:05 | 12:35 | 13:32 | 14:46 | 16:06 | 17:17 | 17:37 | 18:11 | 18:37 | 19:07 |
| | 調整時間 | | 0:02 | 7:53 | 8:15 | 8:58 | 9:38 | 10:11 | 10:44 | 11:27 | 12:07 | 12:46 | 13:45 | 15:06 | 16:10 | 17:19 | 17:45 | 18:16 | 18:41 | |
| | 田原本駅 発 | 2.1 | 0:08 | 7:35 | 7:53 | 8:15 | 8:58 | 9:38 | 10:11 | 10:44 | 11:27 | 12:07 | 12:46 | 13:45 | 15:06 | 16:10 | 17:19 | 17:45 | 18:16 | 18:41 |
| | 国保中央病院 着 | | 7:43 | 8:01 | 8:23 | 9:06 | 9:46 | 10:19 | 10:52 | 11:35 | 12:15 | 12:54 | 13:53 | 15:14 | 16:18 | 17:27 | 17:53 | 18:24 | 18:49 | |
| 合計 | 4.2 | 0:18 | 現行ダイヤそのまま | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調整時間 | | 0:03 | | | | | | | | | | 10:55 | | | | | | | | |
| ルートB | 国保中央病院 発 | | | 8:26 | | | | 10:55 | | | | | | | | | | | | |
| | 三宅町 着・発 | 2.0 | 0:05 | 8:31 | | | | 11:00 | | | | | | | | | | | | |
| | 川西町 着 | 2.0 | 0:05 | 8:36 | | | | 11:05 | | | | | | | | | | | | |
| | 調整時間 | | 0:03 | 8:39 | | | | 11:08 | | | | | | | | | | | | |
| | 川西町 発 | 3.4 | 0:07 | 8:39 | | | | 11:08 | | | | | | | | | | | | |
| 国保中央病院 着 | | | 8:46 | | | | 11:15 | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 7.4 | 0:20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調整時間 | | 0:03 | | | | | | | | | | 11:38 | | | | | | | | |
| ルートC | 国保中央病院 発 | | | | | 9:09 | | | 11:38 | | | | | | | | | | | |
| | 広陵町 着 | 3.3 | 0:07 | | | 9:16 | | | 11:45 | | | | | | | | | | | |
| | 調整時間 | | 0:03 | | | 9:19 | | | 11:48 | | | | | | | | | | | |
| | 広陵町 発 | 3.3 | 0:07 | | | 9:19 | | | 11:48 | | | | | | | | | | | |
| | 国保中央病院 着 | | | | | 9:26 | | | 11:55 | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 6.6 | 0:17 | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | | | |
| 実走行時間 | | 0:08 | 0:16 | 0:33 | 0:30 | 0:16 | 0:16 | 0:33 | 0:30 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:16 | 0:08 | 5:34 |
| 実走行距離 | | 2.1 | 4.2 | 11.6 | 10.8 | 4.2 | 4.2 | 11.6 | 10.8 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 2.1 | 99.4 |

(注) 本ルート案により、燃料費：103,488 円/年 増加することが想定される (国保中央病院への追加負担となる予定)

6.1.3. 広陵元気号の一部運行再編に向けて

(1) 趣旨

広陵町では、町民の移動ニーズやライフスタイル等の変化、そして町内各地域での高齢者比率、そして広陵元気号の利用実態などを勘案して、各地域の町民と一緒に広陵元気号の運行ルートやダイヤの改訂を定期的に行っている。

昨今、広陵元気号について、現在運行ルートから遠いところに住む町民から、ルート開設の要望が出ている。しかし、バスの運行事業者の人的費や燃料費が上昇傾向にある中で、新たなルート開設に伴う運行事業委託費の捻出可能性の有無など、様々な観点から検討が進められてきている。

そこで、現行の広陵元気号のルート及びダイヤの利用実態等を分析すると、中央幹線の町内最終の停留所である大和広陵高校前から国保中央病院までは、利用者が少ない便が多い。本事業で実施したアンケートでも、前述の「通院を中心とした公共交通の交通の利用に係る4町アンケート調査」などを行ったが、他に「広陵元気号利用者で国保中央病院に行く人向けのアンケート」も実施した。しかしいずれの調査でも、乗客の少なさから回収されたサンプル数が少なく、分析に利用できない状況になっている。

大和広陵高校前から国保中央病院まではおよそ 2.2km あり、それに伴いバスの運行事業者の人的費や燃料費が発生しており、延いては町の財政に影響をしている。

(2) 一部運行再編に向けて

6.1.2 では、各種調査、そして広域運行検討委員会等での検討結果を踏まえて整理した国保中央病院の無料送迎シャトルバス広域運行再編に向けた案について整理しており、次年度、実証運行を行うことを予定している。

そこで、実証運行から得られた結果や課題等を踏まえつつ、広陵町の北側の玄関口であるはしお元気村バス停と、国保中央病院からの無料送迎シャトルバスをシームレスで繋げれば、既存利用者の利便が向上すると考えられる。また、そうした便利な交通手段の提供は、これまで国保中央病院を利用したことがない人へのアプローチにもなり、新規利用の増加も期待できる。

さらに、広陵町から国保中央病院までのアクセスにおいて、無料送迎シャトルバスが広陵元気号の代わりとして機能し、利用者ニーズを満たせるようになった場合には、当該区間の広陵元気号の運行を、他の路線に展開していくことも考えられる。

以上のことから、既存の利用者等の意向も踏まえつつ、下図無料送迎シャトルバス実証ルートへの接続改善などを検討する。

図 6-1 広陵元気号の一部運行再編に向けた検討案



7. 計画の具現化に向けて

7.1.1. 今後の展開について

(1) シャトルバス広域運行の実証運行に向けて

前章で検討した運行ルート・ダイヤ③を前提にして、次年度から広域運行の実証運行に取り組んでいく。

実証運行の実施に当たっては、新規で車両は増やさず、期間を定めて既存シャトルバスを活用して行う。これにより広域運行が既存利用者の乗車に与える影響の把握も行う。実証運行期間中に、中間検証を行い、事前に定めた評価指標をクリアすれば、本格運行にそのまま移行する。一方、評価指標をクリアしない場合には、実証運行期間終了時に、事業継続の可否を検討する。なお、本格運行に移行する場合、本再編計画で設定しているバス停の場所や運行ダイヤについては、実証運行の結果に基づき、適宜調整を加えていけるものとする。

実証運行の実施については、4町及び国保中央病院の関係各署及び関係者等が協力して予算をかけずに行うことを想定している。なお、本実証運行した場合、追加で発生する大きな費用は燃料代のみとなり、本実証期間中は国保中央病院の負担により実施する予定である。

実証運行の実施体制については、本広域検討委員会の会議体を維持し、当該委員で検討・実施することとする。従って、広域検討委員会の設置要綱事務の見直しを行い、当該事務を追加する。

実証運行の際の広報について、国保中央病院や各所でのポスター掲示などによる周知の他、4町として協力して「国保中央病院だより」の枠を用いて行う一方、各町で必要に応じて独自で実施することとする。また利用促進施策について、次年度以降も引き続き本委員会等で検討を行う。

(2) 効果検証について

効果検証の方法について、実証運行期間中に、シャトルバス利用者に対する車内アンケート等を実施して、中間検証を行うことを想定している。新規ルート・ダイヤの妥当性及び、既存ルート（病院⇔田原本駅）利用者に不便が生じていないかなどについても検証する。

評価指標について、具体的には次年度の委員会で検討していくが、当初案として以下の指標を想定している。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・シャトルバス利用者数・シャトルバスの新規利用者数（年代、居住地分析等含む）・利用者満足度・自家用車からの変更、その他 |
|--|

また、効果検証の企画・実施・検証については、広域検討委員会により執り行うことにする。

(3) 想定スケジュール

実証運行に向けて、以下のスケジュールで進めて行くことを想定している。

| | 令和3年度 | | | | | | | | | | | | 令和4年度 | | |
|-------------------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|--|---|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月以降 | | |
| 1. 各町内部での情報共有 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-1. 地域公共交通活性化協議会への報告 | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | | | | |
| 1-2. 議会への報告（6月または9月） | | | ■ | | | ■ | | | | | | | | | |
| 2. 実証運行実施に係る通知 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-1. 広報通知 | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | |
| 2-2. 利用促進施策の展開 | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | |
| 3. 実証運行 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-1. 各種準備・調整 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3-2. 実証運行 | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | |
| 3-3. 中間検証 | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | |
| 3-4. 終了時検証・とりまとめ | | | | | | | | | | | | | ■ | | |
| 4. 本格運行への移行 ※実証運行が有効であった場合 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4-1. 本格運行 | | | | | | | | | | | | | | | ■ |

広陵元気号及びシャトルバス運行再編計画

(国保中央病院を拠点とした地域間アクセス向上事業)

令和3年3月

〒635-8515 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷 583 番地 1

広陵町地域公共交通活性化協議会

(事務局) 広陵町企画政策課内

TEL:0745-55-1001 FAX:0745-55-1009

mail:kikakuka@town.nara-koryo.lg.jp